aprilia

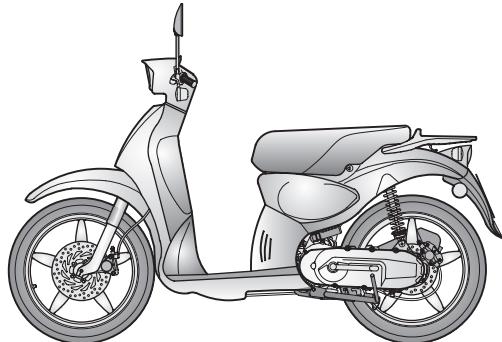
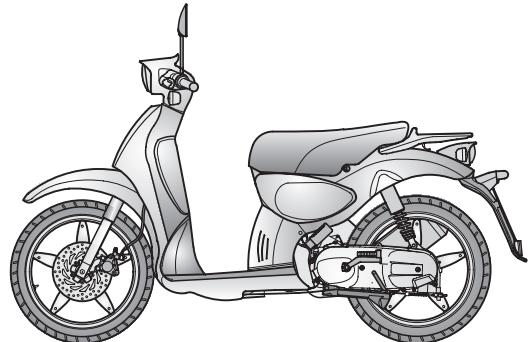
オーナーズマニュアル

aprilia part# 8104221

初版：2000 年 4 月

再版：

発行と印刷：
stp editing division
Soave (VERONA) - Italy
Tel. +39 - 045 76 11 911
Fax +39 - 045 76 12 241
E-mail: customer@stp.it
www.stp.it

監修：
aprilia s.p.a.
via G. Galilei, 1 - 30033 Noale (VE) - Italy
Tel. +39 - 041 58 29 111
Fax +39 - 041 44 10 54
www.aprilia.com

安全に関するお知らせ

本マニュアル中使用されている以下のメッセージ表示は、それぞれ次のようなことを表します：

⚠ 安全に関する警告のマークです。このマークが車体もしくはマニュアルに記載されている場合には、傷害の危険がありますので注意してください。このマークのあとに記されている事項を遵守しないと、あなた自身の、他者のもしくは車体の危険を招きます。

⚠ 危険

重大な傷害もしくは死亡の危険性があることを表します。

⚠ 注意

軽度の傷害もしくは車体への損傷の危険性があることを表します。

重要： 本マニュアル中の“重要”という用語は、大切なインフォメーションや使用上の注意のはじめに記されています。

インフォメーション

★ このマークの付いた操作は、車体の反対側からも行われる必要があります。

特に指示がない限り、パーツの組み付けは取り外しの逆の手順で行なってください。

"右"及び"左"という用語は車体にライダーが通常の位置で乗っていることを前提としたものです。

(50) 二人乗りの運転に関する引用は、二人乗りが認められている国のみに関連することとみなしてください。

本マニュアルの文章及び図の中の記号 (◎) (✿) で、モデル記号（(50) (100)）のあとに来るものは、それぞれのモデルのみに関連します。

警告‐ 注意‐ 一般的注意事項

エンジンを起動させる前に本マニュアルをよく読み、特に " 安全運転 " の章をよく読んでください。

ライダーおよび他の人々の安全は、ライダーの反応の素早さや機敏さだけでなく、モーターサイクルについての理解、モーターサイクルの整備状態、また安全運転のための基本的知識などに負うところが大きいのです。路上を安全に、そしてモーターサイクルを適確に操作しながら走行するために、車両を良く理解するようお薦めします。

重要：このマニュアルは車体構成の一部分とみなされ、中古販売の際にも車体とともに販売されます。

aprilia は情報の正確さ並びに新しさに関して最大限の注意を払って、このマニュアルを作成しました。しかしながら、**aprilia** 製品は常に開発改良の対象であることを考えると、お手持ちの車体の特徴と本マニュアルの記述が多少違うことがあるかもしれません。本マニュアルに記載されている情報に関するどんな疑問点も、**aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。

このマニュアルでは詳しく記述していない点検や修理、**aprilia** 純正パーツ、アクセサリーパーツ、その他の製品の購入に関してはもちろん、技術的アドバイスについても **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。適切で迅速なサービスをお約束します。

aprilia 製品をお選びいただいたことにお礼を申し上げ、快適なライディングをなされるようお祈りいたします。

重要：使用する国の現行の法律によっては、公害防止及び防音規制にのっとり、定期的検査を行う必要があります。

そのような国で車体を使用するユーザーは、以下のことを行って下さい：

– その国によって規定された部品との交換の際は、**aprilia** 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。
– 定期的検査を規定通り行って下さい。

重要：スペアパーツをオーダーされる際は、スペアパーツ認識ラベルに表示されているスペアパーツコードをお知らせください。

また、このコード番号を下の表に書き込んでおくとラベルの汚れ、紛失に備えることができます。

ラベルは車体左側のフレームに貼りつけてあります。読み取る際は点検用カバーを取り外してください。60 頁（点検用カバーの取り外し）参照。

aprilia N°

SPARE PARTS CODE NUMBER

YEAR	T	V	W	X	Y
I.M.	A	B	C	D	E

I	UK	A	P	SF	B	D	F	E	GR
NL	CH	DK	J	SGP	PL	IL	ROK	MAL	RCH
BM	USA	AUS	BR	RSA	NZ	CDN	HR	SLO	

説明文中に出てくるシンボルの意味を以下に示します：

- **50** モデル 50 cm³
- **100** モデル 100 cm³
- **ASD** 自動点灯装置仕様車 (Automatic Switch-on Device)
- **OPT** オプションパーツ
- **(◎)** ドラムブレーキ車
- **✿** 触媒コンバーター仕様車

各国向け仕様：

- **I** イタリア
- **UK** 英国
- **A** オーストリア
- **P** ポルトガル
- **SF** フィンランド
- **B** ベルギー
- **D** ドイツ
- **F** フランス
- **E** スペイン
- **GR** ギリシャ
- **NL** オランダ
- **CH** スイス
- **DK** デンマーク
- **J** 日本
- **SGP** シンガポール
- **PL** ポーランド
- **IL** イスラエル
- **ROK** 韓国
- **MAL** マレーシア
- **RCH** チリ
- **BM** バーミューダ
- **USA** 米国
- **AUS** オーストラリア
- **BR** ブラジル
- **RSA** 南アフリカ共和国
- **NZ** ニュージーランド
- **CDN** カナダ
- **HR** クロアツィア
- **SLO** スロベニア

目 次

aprilia
安全運転のために

安全のための基本ルール

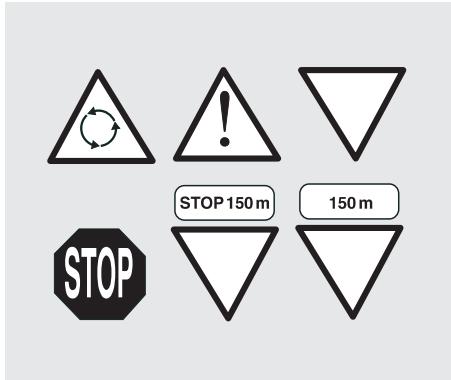
車を運転するには法律で定められた全ての条件を備えている(運転免許証、有資格年令、身体的能力、保険、納税、車の登録、ナンバープレート、など)ことが不可欠です。

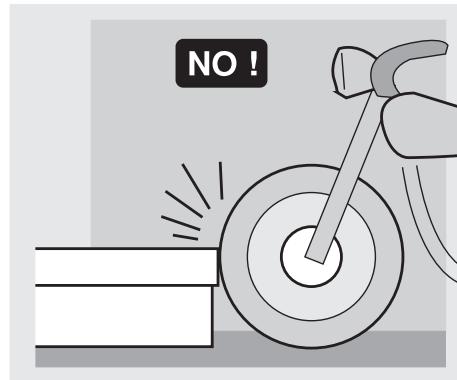
実際の運転によって車の特性を知り運転に馴れるために、最初は交通量の少ない地区か私有地で運転するようにお薦めします。

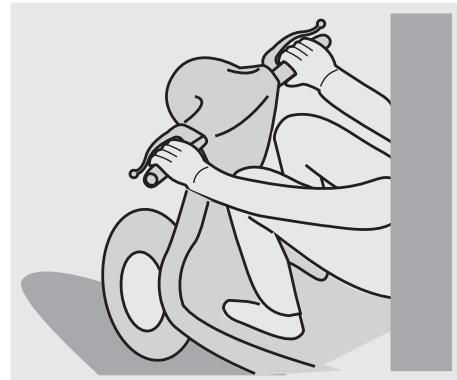
医薬品、アルコール、麻薬、向精神薬などの服用は事故の危険を増大します。

運転者は常に運転に適した健全な精神状態を保持するよう、肉体的疲労や睡眠に関して十分な注意を払う必要があります。

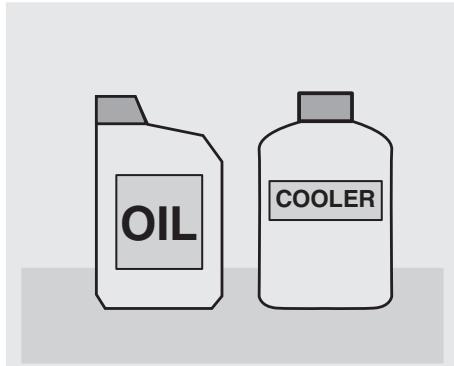
路上事故の多くはドライバーの経験不足に起因するものです。

車を初心者に貸したりしないでください。ドライバーは常に運転に必要な資格と条件を備えていることを要求されます。

国や地方の道路規則や交通標識に厳密に従ってください。

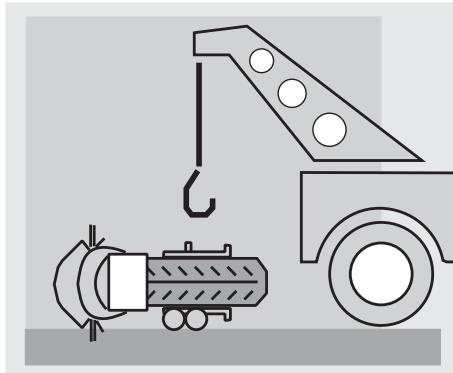
唐突な動作はドライバー自身や他者にとって危険ですから避けてください（例えば前輪を浮かしての走行、スピードの出し過ぎなど）。路面状態、視界や視程、他車の運転状態などにいつも注意を払ってください。

障害物は避けて走ってください。車やドライバーに損傷を与えたり車の制御ができなくなることがあります。

空気抵抗を減らすために先行車の後について走るのは止めてください。危険です。

運転中は常に両手でハンドルを握り両足をフットレスト（またはドライバー用フットレスト）に乗せて正しい運転姿勢を保ってください。

運転中にシートから腰を上げたり足を前に延ばしたりしないでください。

運転中は他人や周囲の事物に気を取られて注意が散漫にならないようにしてください。(運転中の喫煙、飲食、読書などは謹んでください)。

燃料やオイル類は“潤滑油表”に指定してある品物 (又は同等品) だけを使用してください。オイル、燃料、冷却液のレベルは定期的に点検してください。

車が事故、接触または転倒を起こした場合は、操作レバー、パイプ、ワイヤー、ブレーキ系統、重要部品に損傷がないかどうか調べてください。

必要に応じて **aprilia** 正規ディーラー で検査を依頼してください。特にフレーム、ハンドル、サスペンション、安全部品、その他ドライバーでは検査が不可能な部分を調べます。

技術者または修理工の作業をしやすくするため、運転に不都合な点がある場合は即刻に検査を依頼するようにしてください。

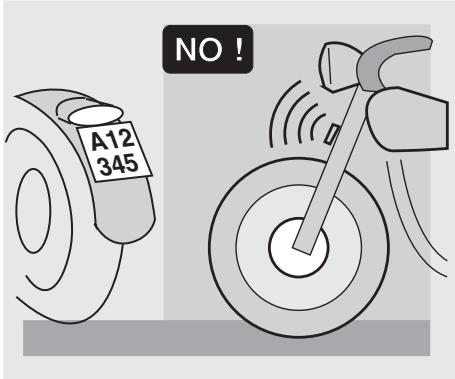
車体が受けた損傷により安全性が確実でない場合は、絶対に運転を避けて下さい。

ナンバープレート、ウインカーランプ、ライト、ホーンの取り付け位置、傾き、色などを決して変えないでください。

車両を改ざんした場合は正規保証外の扱いになります。

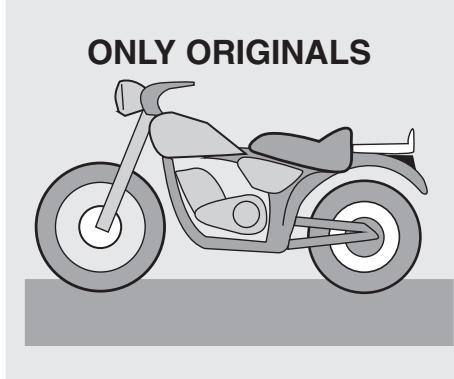
---

50 cm³ 以下の (50 cm³ を含む) モデルのみ

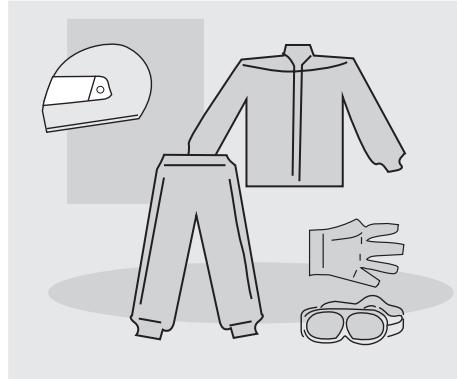
最高速度やエンジン出力を上げる目的でエンジン、その他の部分に改造を施すことは法律で禁じられています。最高速度を上げたりエンジン排気量を増すような改造を施した場合は、原動機付き自転車としての認定が無効となり、自動二輪車として改めて次のような手続きが必要となります。

- 型式認定の再取得
- 車両の登録のしなおし
- 必要な運転免許の取得

また、このような改造は損害賠償保険などの自動車保険を失効させます。一般に自動車保険は、車両の性能を増すような改造を禁止しているからです。

上記の理由から不法な改造は法的処罰（車両の没収など）の対象となります。場合によっては、ヘルメットの無着用、ナンバープレートの欠如、税金（自動車所有税）の滞納、無免許運転などの理由が加わり処罰が重くなることもあります。

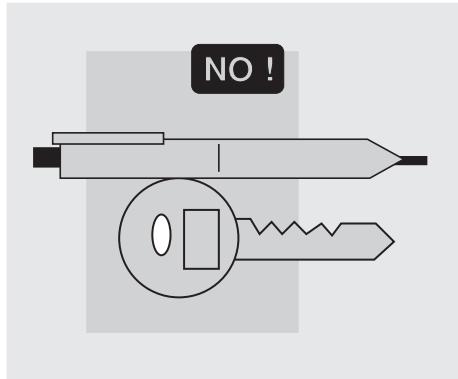
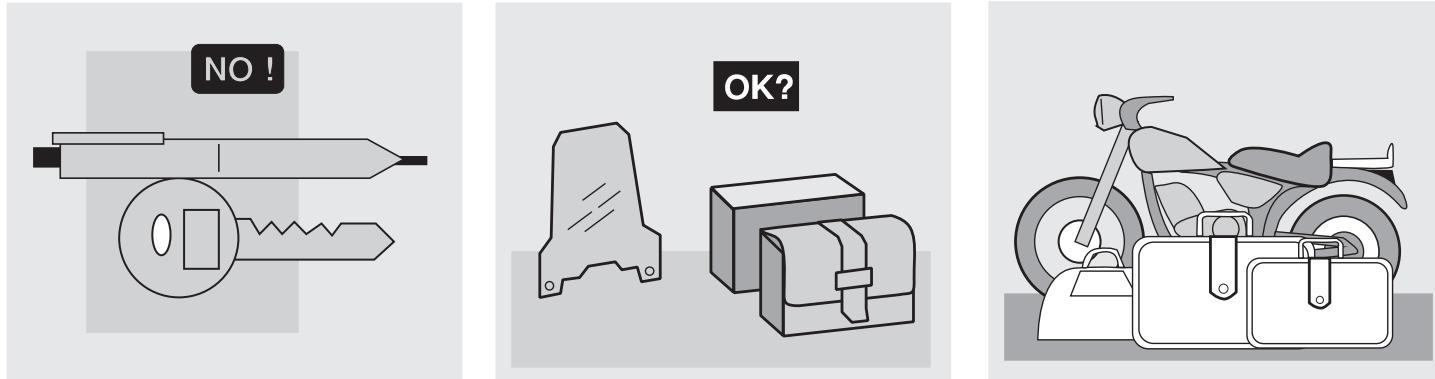
---

50 cm³ 以上のモデルのみ

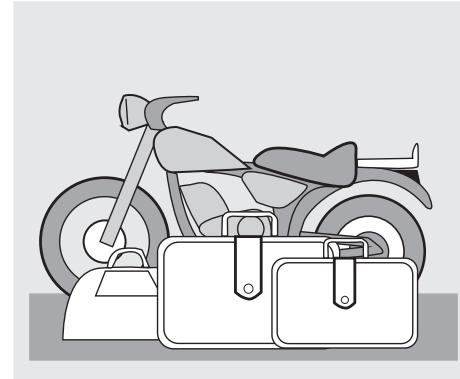
車の改造やオリジナル部品の取り外しは車の性能や安全性に悪影響を及ぼし、場合によっては法律違反につながります。
国や地方の車の装備に関する全ての法律と規則を遵守するようお薦めします。
特に車の性能を向上したり車本来の特性を変えるような改造はしないでください。

他車との競争は絶対にしないでください。
道路外での走行は避けてください。

服装

走行前にヘルメットをしっかりと着用してください。なお、ヘルメットは保安基準認定品で、損傷などがなく、形やサイズが適したものであり、バイザーに汚れのないことを確認してください。

服装は身体を保護する服を着用してください。他の運転者から良く見えるように明るい色か反射素材のものをお薦めします。衝突される危険が減るだけでなく、転倒した際にも身体を保護します。

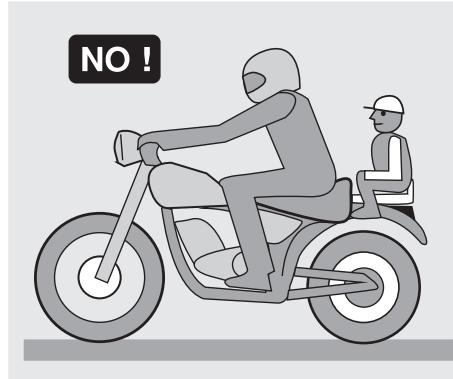
服装は身体にぴったりするもので、手首、足首の部分が締まる形のものをお薦めします。紐、ベルト、ネクタイなどが緩んで走行中に可動部分に巻き込まれ、運転に支障を及ぼすことのないよう注意してください。

転倒した際に危険な品物を身に付けないでください。例えば、キー、ペン、ガラス製容器のような先の尖ったものなど。（同乗者についても同様です）。

アクセサリー

車の所有者は車のアクセサリーの選択、取り付け、使用について責任があります。
ライトやホーンを覆ったり機能を損なうような物、サスペンションのストロークやステアリングの角度を制限するような物、操作やメカニズム動作の邪魔になるような物、最低地上高を下げたり回転半径を小さくするような物は避けてください。
運転装置を邪魔するようなアクセサリーも避けてください。緊急操作の時に邪魔になり事故の原因となる可能性があります。
大きなフェアリングやスクリーンを車体に取り付けると空気抵抗が発生し、特に高速走行の場合など走行中に車体の安定を失う危険があります。

全ての装備がしっかりと車に固定され、走行中の危険がないかどうか確かめてください。
電気器具は追加装備したり電気系統を改造したりしないでください。電気系統の負荷が大きくなって車が突然止ったりホーンやライトの回路がショートする危険があります。
aprilia 純正アクセサリーの使用をお薦めします。

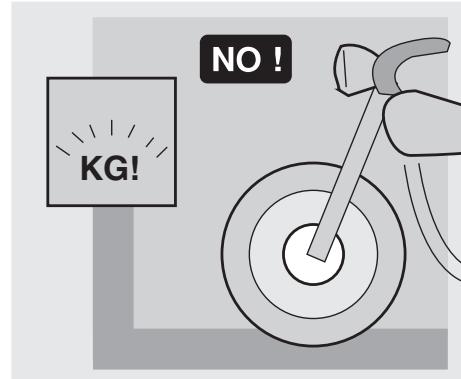
荷物

ツーリングバッグを搭載する場合は適度な大きさと重さの物にしてください。搭載時にはできるだけ車の中心近くに置いて、両側の重量がほぼ同じようになるように荷物を配分してください。また荷物が車にしっかり固定されているかどうか調べ、長距離走行の際は特に注意してください。

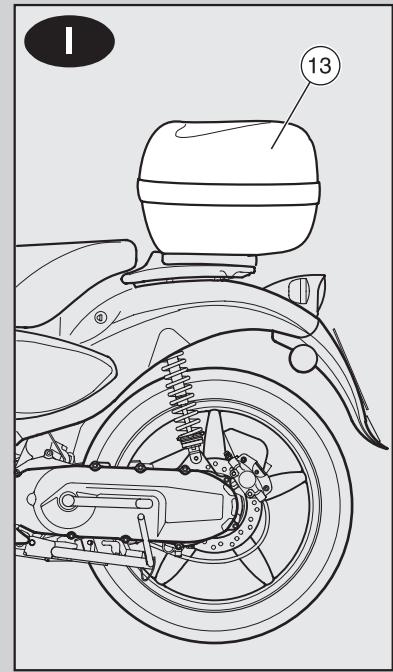
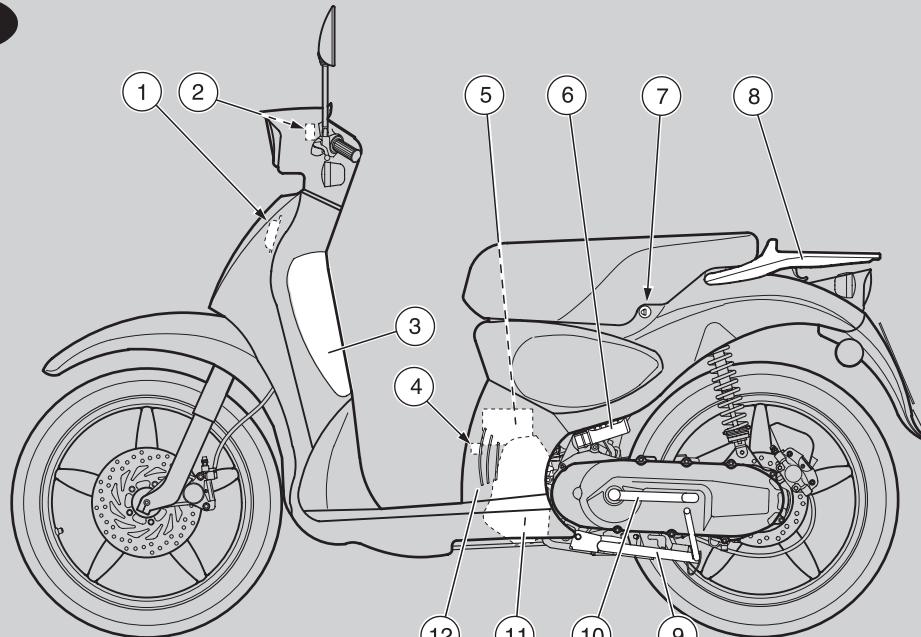
重くて大きい物や危険な物をハンドル、泥除け、フォークなどにつり下げないでください。カーブでの車の反応が鈍くなり操縦性が悪くなります。

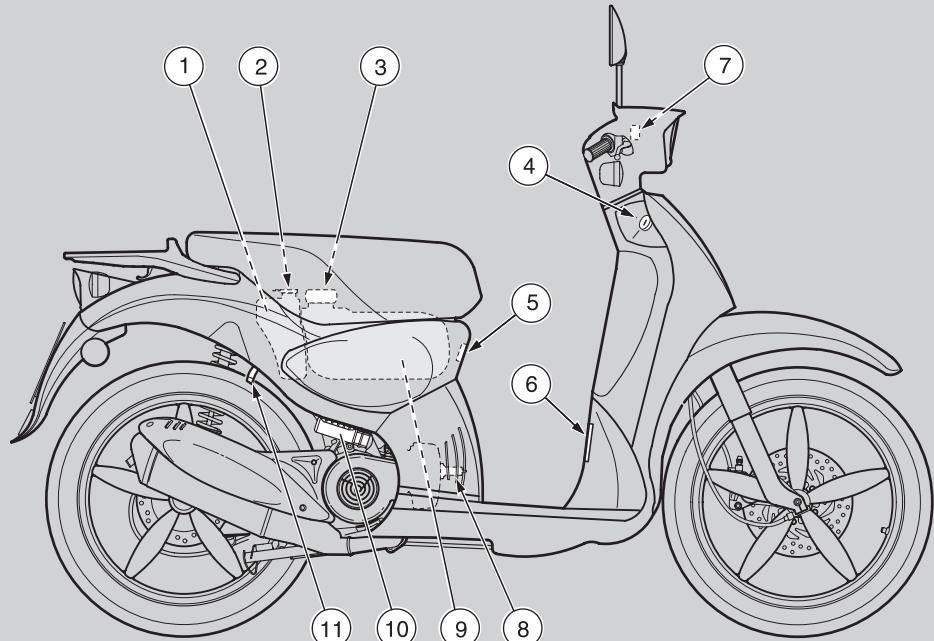
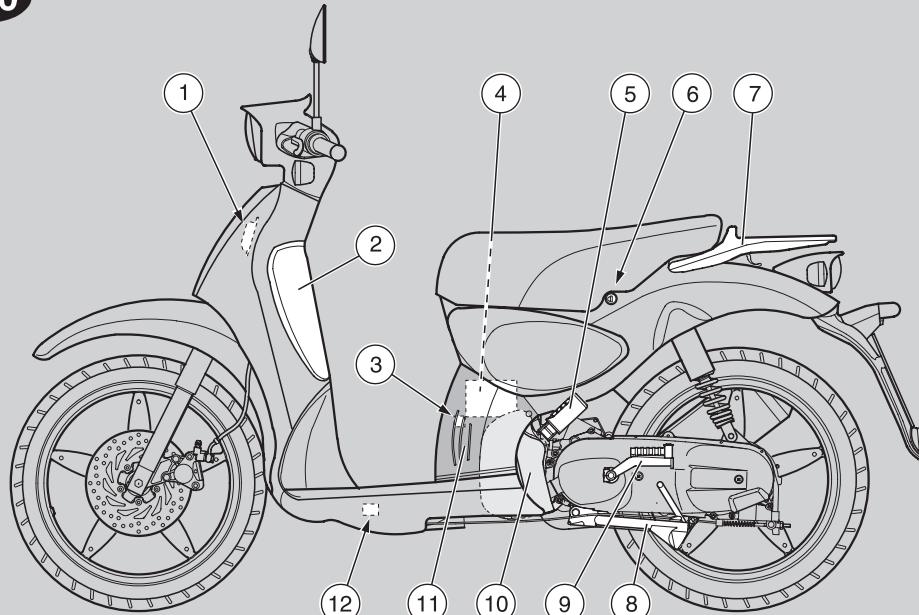
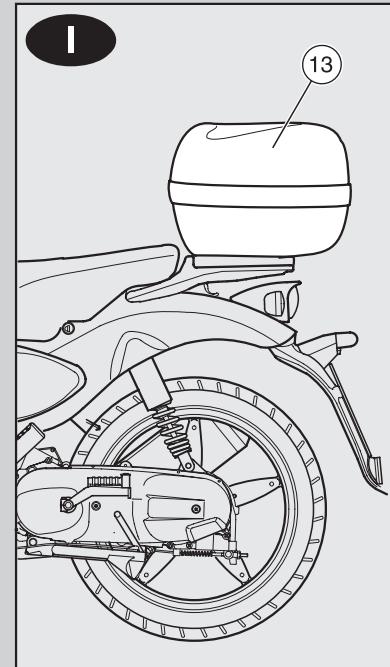
大きすぎる荷物を車の横に取り付けたりヘルメットをひもでぶら下げたりして走らないでください。他者や傷害物にあたって車の安定を失う危険があります。

車にしっかり固定できない荷物は積まないでください。

また後部の荷物ラックから大きくはみ出したり、ライト、ホーン、ターンシグナルなどを覆うような鞄や荷物は積まないでください。

子供や動物を荷台もしくは書類ケースに乗せるのは止めてください。

左右のサイドバッグの最大許容重量を超えた荷物を載せないでください。

車が過荷重になると安定を失い操縦性も悪くなります。

各部名称

1) 警告ホーン
2) リアブレーキオイルタンク
3) 書類入れ
4) ヒューズボックス
5) バッテリー
6) パッセンジャーフットレスト・左側 （使用が定められた国）
7) シートロック
8) 荷物ラック
9) センタースタンド
10) スターターキックペダル
11) エアクリーナー
12) 点検用カバー
13) ヘルメットケース I

各部名称

1) エンジンオイルタンク
2) エンジンオイルタンクキャップ
3) 燃料タンクキャップ
4) イグニッションスイッチ／ステアリングロック
5) バッグ用フック
6) フレームナンバーカバー
7) フロントブレーキオイルタンク
8) スパークプラグ
9) 燃料タンク
10) パッセンジャーフットレスト・右側 （使用が定められた国）
11) 盗難防止用フック（**aprilia** 製特殊強化ケーブル "Body-Guard" **OPT** 用）

各部名称

1) 警告ホーン
2) 書類入れ
3) ヒューズボックス
4) バッテリー
5) パッセンジャーフットレスト・左側
6) シートロック
7) 荷物ラック
8) センタースタンド
9) スターターキックペダル
10) エアクリーナー
11) 点検用カバー
12) 変速機エアクリーナー
13) ヘルメットケース I

各部名称

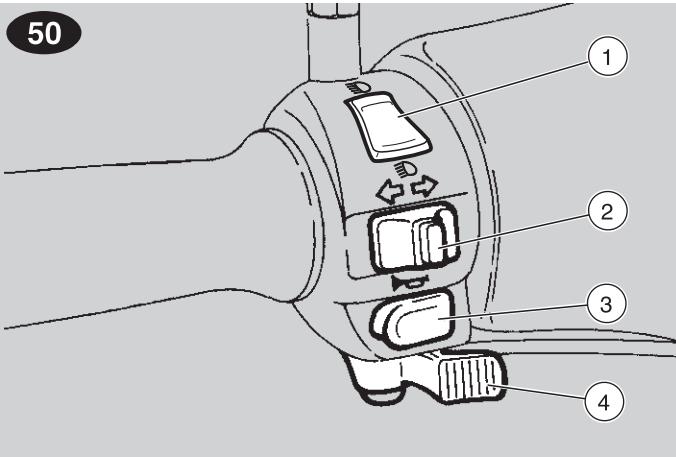
1) エンジンオイルタンク
2) エンジンオイルタンクキャップ
3) 燃料タンクキャップ
4) イグニッションスイッチ／ステアリングロック
5) バッグ用フック
6) フレームナンバーカバー
7) フロントブレーキオイルタンク
8) スパークプラグ
9) 燃料タンク
10) パッセンジャーフットレスト・右側
11) 盗難防止用フック（**aprilia** 製特殊強化ケーブル "Body-Guard" OPT 用）

各部名称

1）ハンドル左側の電気系制御装置
2）リアブレーキレバー
3）左バックミラー
4）メーターパネル
5）右バックミラー（50 使用が定められた国）
6）フロントブレーキレバー
7）スロットルグリップ
8）ハンドル右側の電気系制御装置
9）イグニッションスイッチ／ステアリングロック（○ - ⊗ - 🔒）

10）スピードメーター
11）燃料計（⛽）
12）ウィンカーライト・インジケーター（⇦⇨）グリーン
13）ハイビーム・インジケーター（≣D）ブルー
14）エンジンオイル警告灯（🛢）レッド
15）オドメーター（積算走行距離計）

メーターおよびインジケーター一覧

名称	機能
ウィンカーライト・インジケーター ⇦⇨	ウィンカーライトが作動中に点滅します。
エンジンオイル警告灯	イグニッションスイッチが“○”の位置でスターターボタン“⑤”を押したときに点灯します。もしもこの状態でこのランプが点灯しない場合はランプを交換してください。 **⚠ 注意** **スターターボタン“⑤”から手を離してもこのランプが点灯したままだったり、通常の使用中に点灯するような場合は、エンジンオイルの残量が少ないことを示しています。そのような場合はエンジンオイルを補充してください。28 頁（エンジンオイルタンク）参照。**
オドメーター（積算走行距離計）	積算の走行距離（km）を示します。
スピードメーター	走行スピードを示します。
ハイビーム・インジケーター	ヘッドライトがハイビームになっているときに点灯します。
燃料計	燃料タンク内のおおよそのガソリン量を示します。

左側ハンドルグリップ

重要：電気系統の各装置はイグニッションキーが“○”のポジションにないと機能しません。

重要：ライト類はエンジンがかかった状態でないと機能しません。

1) ディマースイッチ（ - ）（ ASD 仕様車にはありません）
ライトスイッチ（ - ●）が“ ”の位置にある時、このディマースイッチが“ ”の位置にあるとロービームライトが点灯します。“ ”の位置にあるとハイビームライトが点灯します。

2) ウィンカーライトスイッチ（⇦⇨）
左側にターンする時は左へスイッチします。右側にターンする時は右へスイッチします。
ウィンカーライトを停止するにはこのスイッチを押します。

3) 警告ホーンボタン（ ）
ボタンを押すと警告ホーンが鳴ります。

4) チョークレバー（ ）
寒冷時のエンジン始動には、このチョークレバーを時計回りに（外側へ）回してスターターを作動させます。エンジンが始動したらチョークレバーを元の位置に戻してください。

右側ハンドルグリップ

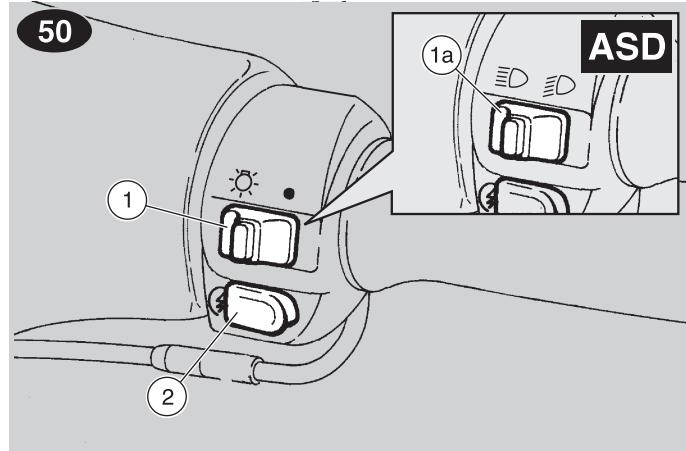
重要：電気系統の各装置はイグニッションキーが “○” のポジションにないと機能しません。

重要： ライト類はエンジンがかかった状態でないと機能しません。

1) ライトスイッチ (☼ - ●)

重要：ライトスイッチを操作する前に、ディマースイッチ (≣D - ≣D) が “≣D” の位置になっていることを確認してください。

このスイッチが “●”の位置にある時はすべてのライトが消えています。“☼“の位置にある時は次のライトが点灯します：リアパーキングライト、メーターパネルライト、およびロービームライトまたはハイビームライト。
ディマースイッチ (≣D - ≣D) によりロービームとハイビームの切り替えが可能です。

1a) ディマースイッチ (≣D - ≣D) ASD

ディマースイッチが“≣D”の位置にある時は次のライトが点灯します：ロービームライト、リアパーキングライト、およびメーターパネルライト。“≣D” ” の位置にある時は次のライトが点灯します：ハイビームライト、リアパーキングライト、およびメーターパネルライト。

重要：ライト類はエンジンを停止したときに消灯します。

2) **スターターボタン (⚡)**
どちらかのブレーキレバー（ フロントまたはリア）を引きながらこのスターターボタンを押すと、スターターモータが作動しエンジンを始動させます。
エンジンの始動手順については 36 頁 (エンジンの始動)を参照してください。

左側ハンドルグリップ

重要： 電気系統の各装置はイグニッションキーが“○”のポジションにないと機能しません。

重要： ライト類はエンジンがかかった状態でないと機能しません。

1) ディマースイッチ (≣D - ≣D)
ライトスイッチ (☼ - ≡D◁≡ - ●) が " ☼ " の位置にある時、このディマースイッチが " ≣D " の位置にあるとロービームライトが点灯します。“≣D” の位置にあるとハイビームライトが点灯します。" ≣D "

2) ウインカーランプ
オフボタン(▲)

ウインカーランプスイッチ (3) が右または左に位置している場合、ボタンを押すと、ウインカーランプ機能が解除されます。

3) ウィンカーライトスイッチ (⇦⇨)
左側にターンする時は左へスイッチします。右側にターンする時は右へスイッチします。
ウィンカーライトを停止するにはこのスイッチを押します。
ボタン（2）を押して、ウインカーランプをオフにします。

4) 警告ホーンボタン ( )
ボタンを押すと警告ホーンが鳴ります。

右側ハンドルグリップ

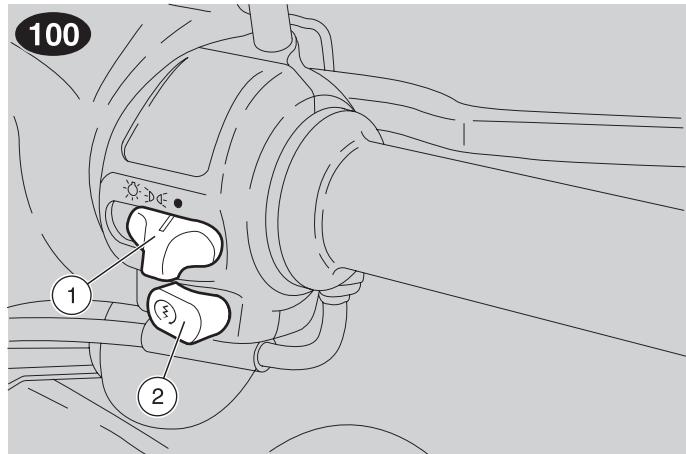
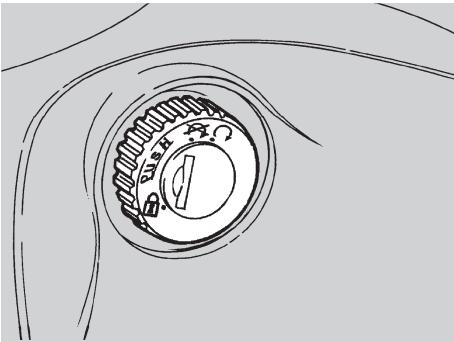
重要：電気系統の各装置はイグニッションキーが“○”のポジションにないと機能しません。

重要：ライト類はエンジンがかかった状態でないと機能しません。

1) ライトスイッチ (☼ - ≡D◁≡ - ●)

重要：ライトスイッチを操作する前に、ディマースイッチ (≡D - ≡D) が“≡D”の位置になっていることを確認してください。

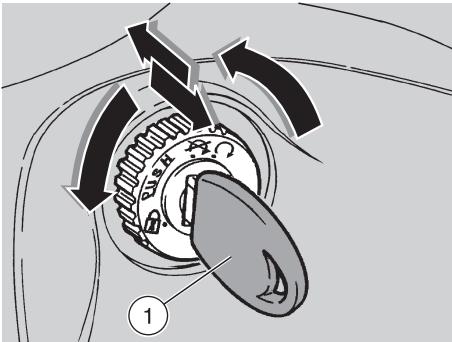
このスイッチが“●”の位置にある時はすべてのライトが消えています。“≡D◁≡”の位置にある時はパーキングライトとメーターパネルライトが点灯します。“☼”の位置にある時はパーキングライト、メーターパネルライト、ロービームライトが点灯します。
ディマースイッチ (≡D - ≡D) によりハイビームに切り換えが可能です。

2) スターターボタン (⚡)
どちらかのブレーキレバー（フロントまたはリア）を引きながらこのスターターボタンを押すと、スターターモータが作動しエンジンを始動させます。
エンジンの始動手順については 36 頁（エンジンの始動）を参照してください。

イグニッションスイッチ

イグニッションスイッチは車体の右側、ステアリングカラーの近くにあります。

重要： キー（1）によって、イグニッションスイッチのオン／オフ、書類ケース及びシートカバーが開閉します。

納車時には合計 2 本のキー（1 本はスペアキー）がついています。

重要： スペアキーは車両と別の場所に保管してください。

ステアリングロック

⚠ 危険

走行中には絶対にキーを"🔒"のポジションに回さないでください。車体のコントロールを失う危険があります。

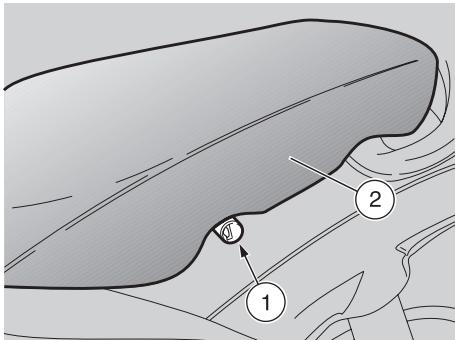
機能

ステアリングロックは次の要領で行ないます：

- ◆ ハンドルを左側いっぱいに切る。
- ◆ キー(1)を"⊗"の位置に回して押し込む。
- ◆ キーを離す。

重要： キーを回しながら同時にハンドルを動かしてください。

- ◆ キー(1)を反時計回り（左方向）に回しながらゆっくりハンドルを動かし、キー(1)を"🔒"の位置まで回す。
- ◆ キーを引き抜く。

キー位置	機能	キーの抜き取り
🔒 ステアリングロック	ステアリングがロックされ、エンジン、ライト共機能しない。	抜取り可能。
⊗	エンジン、ライト共機能しない。	抜取り可能。
◯	エンジン、ライト共機能できる。	抜取り不可能。

シートロック／ロック解除

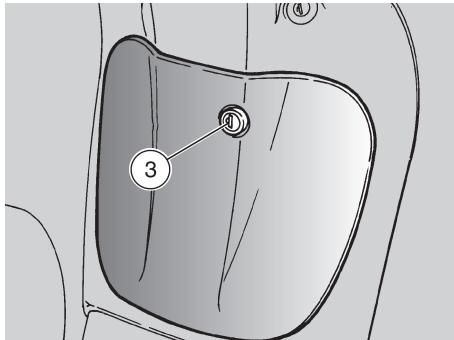
シートのロックを解除して開けるには：

◆ センタースタンドを使って、車体を堅い平らな地面に立てます。
◆ シートロックの鍵穴 (1) にキーを挿し込みます。
◆ キーを時計回りに回してシート (2) を持ち上げます。

重要： シートを倒して閉める前に、シートの中にキーを置き忘れていないか確かめて下さい。

◆ シートをロックするには、中心を押しながらカチッという音がするまで下げてください。

⚠ 危険

運転を始める前にシートが確実にロックされているか確認してください。

書類入れ

書類入れを開けるには：

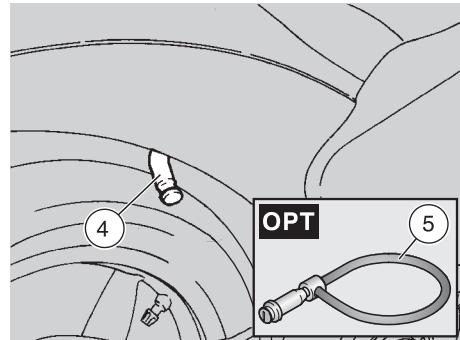
◆ 堅い平らな床面にセンタースタンドを使って車体を立てます。
◆ 鍵穴 (3) にイグニッションキーを挿し込み時計回りに回します。

閉じるには：

◆ イグニッションキーを挿し込み、押しながら時計回りに回します。その後キーを反対方向に回してロックします。
◆ キーを抜き、書類入れがしっかり閉じていることを確認します。

⚠ 危険

ヘルメット／書類入れを使用する際は許容重量を超えないようにしてください。

最大許容重量：1.5 kg。

盗難防止用フック

盗難防止用フック (4) は車体の右側にあります。

盗難防止のためこのフックに **aprilia** 製特殊強化ケーブル "Body-Guard" OPT (5) を取り付けて使用されるようお薦めします。**aprilia** 正規ディーラーにてお求めください。

⚠ 危険

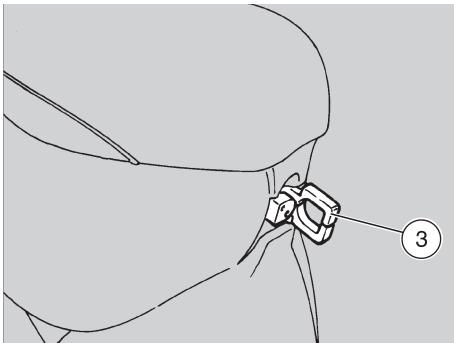
このフックは駐車時の盗難防止用に設計されたものですから、このフックを使って車体を持ち上げたり、その他の用途に使ったりしないでください。

工具キット

シートのロックを解除して持ち上げます。23頁(シートのロック/ロック解除)参照。

工具はシートの下部に固定されています。

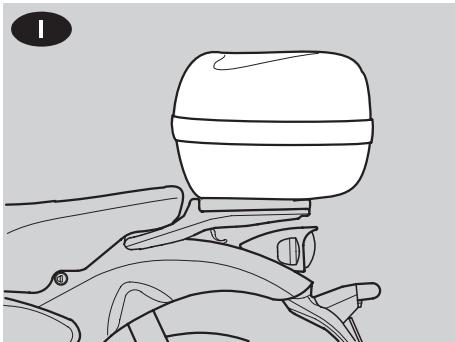
工具キットの内容は以下のとおりです(各1点):

- 21 mm ソケットレンチ(1)
- 一端がタイプ PH 大きさ 2 の+形、もう一端は4 mm六角レンチになっているドライバー(2)。

バッグ用フック

⚠ 危険

このフックに大きすぎる鞄や袋をかけないでください。足元の邪魔になるだけでなく操縦性を損ないますので大変危険です。

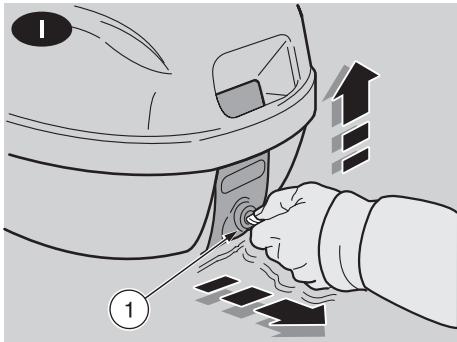
バッグ用フック(3)はシートの下前方にあります。

最大許容重量:1.5 kg。

ヘルメットケース　I

重要：ヘルメットケースは、（ I ）バージョンのみ標準装備されています。

納車時には合計 2 本のキー（1 本はスペアキー）がついています。

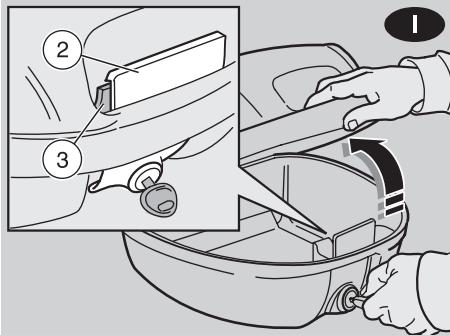
重要：スペアキーは車両と別の場所に保管してください。

重要： ヘルメットケースには “フルフェース” タイプのヘルメットも収納できます。

⚠ 危険

ヘルメットケース内に物を入れすぎないよう注意してください。

許容収納重量：3 kg。

ヘルメットケースの利用により、駐車の際、ヘルメットやかさばる荷物などを持ち歩かずにすみます。使用方法：

重要：ヘルメットケースを車体から取り外し、携帯用ケースとして使用できます。63 頁（ヘルメットケースの取り外し I）参照。

ヘルメットケースの取り扱い方法：

- キー（1）を鍵穴に差し込みます。
- キー（1）を時計方向に回します。
- カバー側のかぎ (3) から解放して、開閉部 (2) を持ち上げます。
- ヘルメットケースを開きます。

燃料

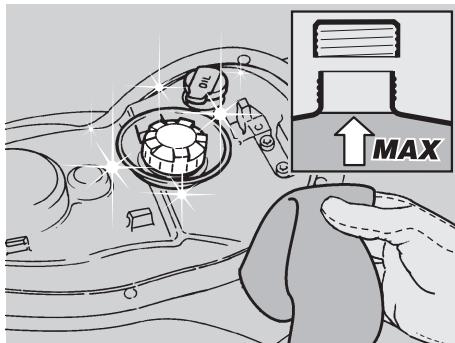
⚠ 危険

内燃機関用の燃料は大変引火しやすく、時には爆発することもあります。燃料補給やメンテナンスは換気のよい場所でエンジンを止めた状態で行なってください。燃料補給中や燃料ガスが残っている場所では絶対に煙草を吸わないでください。引火や爆発を避けるため、火気、火花、熱源などに燃料を近付けないでください。

⚠ 危険

また、給油の際には注入口から燃料をこぼさないように注意してください。こぼれた燃料が熱いエンジン外壁に触れると引火する危険があります。

万一燃料が少しでもこぼれた場合には、エンジンを始動させる前にその部分を完全に乾かしてください。
燃料は暑さや太陽熱で膨張します。
決してタンクから溢れるほど一杯には入れないでください。

燃料補給後は燃料タンクキャップをしっかり締めてください。

⚠ 危険

燃料が皮膚についたり、ガスを吸いこんだ

り、飲み込んだりしないように注意してください。また、ホースなどを使って容器を移し換えることもやめてください。

環境保護の　Wめ燃料は適切に処理 j ﾂ境保護のため燃料は適切に処理してください。

燃料は子供の手の届かない場所に保管してください。

燃料は DIN 51 600 基準適合品（4 Stars UK）、最低オクタン価 98（N.O.R.M.）及び 88（N.O.M.M.）のハイオクガソリンのみ使用してください。

燃料は DIN 51 607 基準適合品、最低オクタン価 95（N.O.R.M.）及び 85（N.O.M.M.）の無鉛ガソリンのみ使用してください。

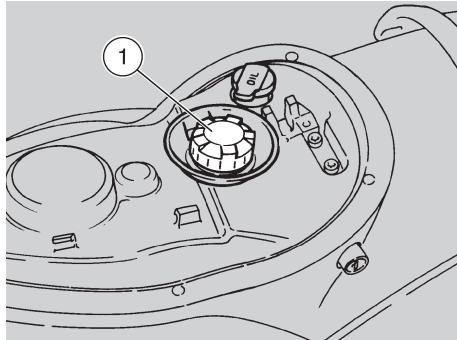
燃料は DIN 51 607 基準適合品、最低オクタン価 95（N.O.R.M.）及び 85（N.O.M.M.）の無鉛ガソリンのみ使用してください。

燃料補給は次の要領で行なってください：

◆ シートを開けます。23 頁（シートロック／ロック解除）参照。
◆ 燃料タンクキャップ（1）を回して取り外します。

燃料タンク容量
（リザーブタンク含む）：7 ℓ

リザーブタンク容量：1 ℓ

⚠ 注意

オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。
じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

◆ 燃料を補給します。

⚠ 危険

補充し終わったら、再びキャップ（1）を正しい位置に取り付けて下さい。

◆ キャップ（1）を再び取り付けます。

潤滑油

⚠ 危険

オイルを毎日、かつ長期間扱っていると皮膚に重大な損傷を与える危険があります。オイルを扱った後は手をきれいに洗ってください。

メンテナンス作業の際はゴム手袋の着用をお薦めします。

オイルは子供の手の届かない場所に保管してください。

環境保護のためオイルは適切に処理してください。

⚠ 注意

慎重に作業してください。
オイルを撒き散らさないようにしてください！
部品や作業している場所、その周囲などを汚さないよう注意してください。
オイルが付着した場合は丁寧に拭き取ってください。

液漏れや正常に機能しない場合は、aprilia 正規ディーラーまでご相談ください。

エンジンオイルタンク

50

500 km (312 mi) 走行ごとにエンジンオイルを補充してください。

100

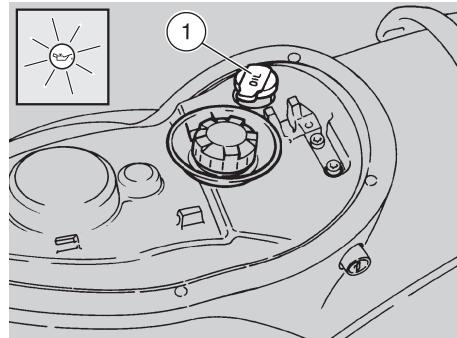
400 km (250 mi) 走行ごとにエンジンオイルを補充してください。

このモデルはエンジン潤滑のため燃料にエンジンオイルを混合する、独立したオイル混合器を装備しています。84 頁（指定油脂類表）参照。
エンジンオイルの残量が少なくなりリザーブに切り替わると、メーターパネル上のエンジンオイル警告灯 "🛢" が点灯して注意を促します。16 頁・17 頁（操作装置とメーター類の配置 / メーターパネル）参照。

⚠ 注意

エンジンオイルが切れた状態で使用するとエンジンに重大な損傷を与えます。

エンジンオイルが完全に空になった場合やエンジンオイルパイプを取り外した場合はエア抜き作業が必要です。aprilia 正規ディーラーに依頼してください。

エンジンオイル系統にエアが入った状態でエンジンを作動させるとエンジンに重大な損傷を与えますので、このエア抜き作業は必ず行なってください。

エンジンオイルの補充は次の要領で行なってください：

- ◆ シートを開けます。23 頁（シートロック／ロック解除）参照。
- ◆ キャップ（1）を取り外します。

エンジンオイルタンク容量：1ℓ
リザーブタンク容量：0.35 ℓ

⚠ 注意

オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

- ◆ オイルの補給を行います。

⚠ 注意

補充し終わったら、再びキャップ（1）を正しい位置に取り付けて下さい。

- ◆ キャップ（1）を再び取り付けます。

トランスミッションオイル

50

3000 km (1875 mi) 走行ごとにトランスミッションオイルの液量の点検を依頼してください または 6 か月ごと。

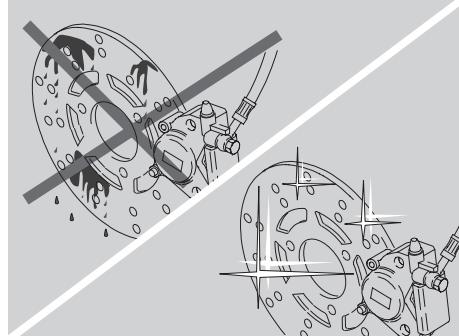
100

4000 km (2500 mi) 走行ごとにトランスミッションオイルの液量の点検を依頼してください または 6 か月ごと。

初回は 500 km (312 mi) 走行後、以降は 12000 km (7500 mi) 走行ごとにトランスミッションオイルを交換する必要があります 2 年ごと。点検と交換は **aprilia** 正規ディーラーにご依頼ください。

ブレーキオイル - 注意事項

⚠ 危険

突然ブレーキレバーの遊びが変わったり、重くなったりした時は、油圧系統に何らかの支障が発生した可能性があります。
ブレーキ系統が正常に機能しているか疑問な時、通常の点検作業ができない時などは aprilia 正規ディーラーにご相談ください。

⚠ 危険

ブレーキディスク及びブレーキのオイルシートに充分注意を払い、オイルやグリースが付着していないことを確認してください。特に整備、点検作業の後には注意が必要です。また、ブレーキケーブルがよじれたり、損傷を受けていないか点検してください。

子供の手の届かない場所に保管して下さい。

環境保護のためオイル類は適切に処理して下さい。

ディスクブレーキ

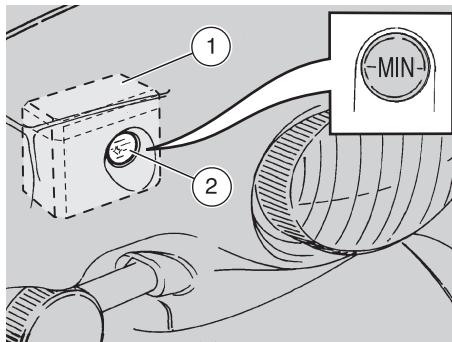
⚠ 危険

ブレーキはライダーの安全を守る装置ですから、常に確実に作動するようメンテナンスする必要があります。また、走行の前には必ず点検してください。

ディスクが汚れているとブレーキパッドも汚れてしまい、結果として制動力の低下をまねきます。汚れたブレーキパッドは交換し、ディスクの汚れは高品質の油落としを使って拭き取ってください。

ブレーキオイルは 2 年毎に aprilia 正規ディーラーに依頼して交換を行ってください。

ブレーキ系統が正常に機能しているか疑問な時、通常のチェック作業ができない時などはお気軽に aprilia 正規ディーラーにご相談ください。

重要: 後輪にドラムブレーキ 3 を装備したタイプでは、以下の説明は前輪についてのものとお考えください。

ブレーキパッドが摩耗すると、摩耗した分を補うためにブレーキオイルが減ります。

ブレーキオイルタンク (1) はフロントブレーキレバーの近くにあります。タンク(1) 内のブレーキオイルの量およびディスクパッドの摩耗を定期的にチェックしてください。56 頁 (ブレーキパッドの摩耗の点検) 参照。

⚠ 危険

ブレーキ系統からのオイル漏れが見られる場合は車体を使用しないでください。

ブレーキオイルの点検

ブレーキオイル量の点検には：

- ◆ センタースタンドを使って、車体を堅い平らな地面に立てます。
- ◆ ハンドルを切って、ブレーキオイルタンク内のオイル液面が､確認窓 (2) の “**MIN**” まで来るようにして下さい。

MIN = 最低レベル

- ◆ ブレーキオイルタンク内のオイルの液面がタンク外側の窓 (2) の “**MIN**” マークの線より上にあることを確かめてください。

オイルの液面が “**MIN**” マークの線より下の場合：

⚠ 注意

ブレーキオイル液面はブレーキパッドの摩耗につれて徐々に下がってきます。

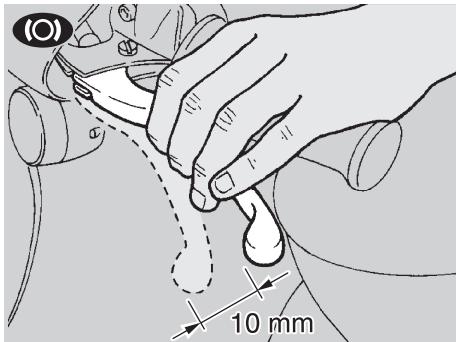
- ◆ ブレーキパッドの摩耗を点検します。56 頁 (ブレーキパッドの摩耗の点検) ディスクの摩耗も点検します。

ブレーキパッドやディスクの交換が必要でない場合は:

- ◆ オイルの補充を aprilia 正規ディーラーにご依頼ください。

⚠ 注意

ブレーキの効き具合を点検してください。

ブレーキレバーの作動範囲が極端に大きかったり、ブレーキの制動力が落ちたときなどは、エア抜き作業が必要な場合がありますので aprilia 正規ディーラーにご相談ください。

リアドラムブレーキ 50 - 100

⚠ 危険

ブレーキはライダーの安全を守る装置ですから、常に確実に作動するようメンテナンスする必要があります。また、走行の前には必ず点検してください。

ブレーキ系統が正常に機能しているか疑問な時、通常のチェック作業ができない時などはお気軽に aprilia 正規ディーラーにご相談ください。

ブレーキの調整

- リアブレーキレバーを引いた時にブレーキが効き始めるまでの遊びを測定してください。遊びはレバーの先端で約 10 mm が標準です。

がたつきの調整には:
- 調整ねじ (1) を回して調整します。
- 調節後、ブレーキ操作を繰り返してみて、レバーを離したときにリアホイールが自由に回ることを確認してください。
- ブレーキの効き具合をチェックしてください。

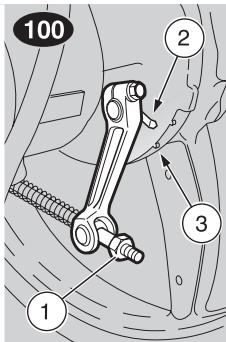
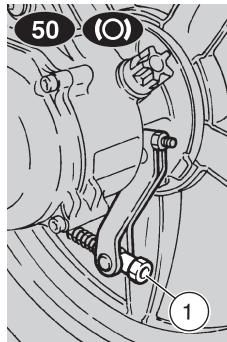
⚠ 注意

50

アジャスター (1) を限度まで振じ込んでもレバーの遊びが規定どおりにならない場合は、ブレーキシューが完全に摩滅している状態です。このようなときは 57 頁 (ブレーキシュー摩耗の点検) を参照してください。

アジャスター (1) をいっぱいに振じ込んでも適切に調整できなかったり、指針 (2) が基準点 (3) を超えた位置にくる場合は、ブレーキシューが摩耗しています。このような場合は 57 頁（ブレーキシューの摩耗の点検 ）を参照してください。

重要： ブレーキ操作によるブレーキ･シューの加熱は、あつれき材とブレーキドラムの間の遊びに影響を与えることがあります。このため、ブレーキ･シューが通常の温度でも遊びの状態を確認することが大切です。

- リアブレーキを 2、3 回かけて、試験回転を行って下さい。

⚠ 危険

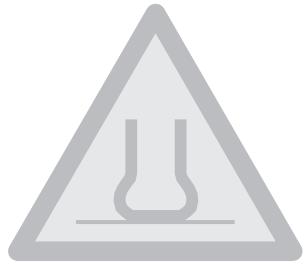
エンジン停止の状態で点検を行って下さい。

- 車体を駐車します。43 頁 (パーキング) 参照。
- タイヤがスムーズに回転するかどうか確認します。

必要ならば:

⚠ 危険

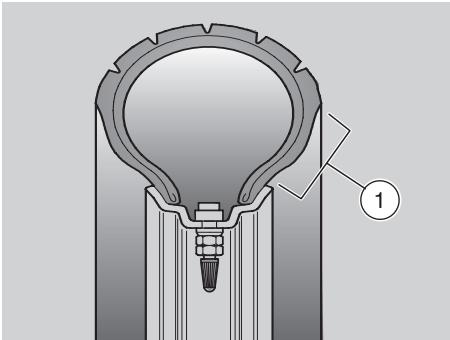
エンジンが加熱している状態で、以下の操作を行う際、火傷をしないよう注意して下さい。

- 調整ネジ (1) を緩めて、タイヤがスムーズに回転するかどうか確認します。

タイヤ

このモデルはチューブ入りタイヤを装備しています。

⚠ 危険

室温でのタイヤの空気圧を定期的に点検してください。81頁（テクニカルデータ）参照。

タイヤが熱くなっている時には正確な測定はできません。
特にロングツーリングの前後には必ず空気圧を測定してください。

⚠ 危険

空気圧が高すぎると、路面の凹凸のショックが吸収されずハンドルに直接伝わるため、走行の快適さやカーブでの安定性を失います。

また逆に空気圧が低すぎると、タイヤの側面 (1) に負荷がかかり、リムからずれたり浮き上がったりして車体のコントロールを失う危険があります。

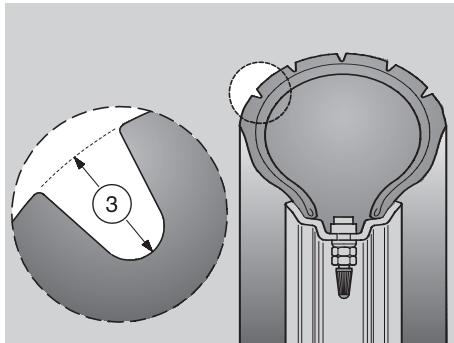
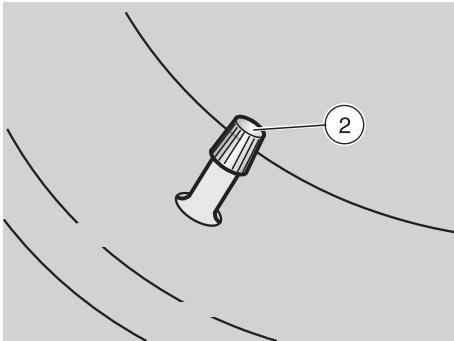
特に急ブレーキの際にはリムから外れる危険もあります。
さらに、カーブでは車体の横滑りを起こしやすくなります。

⚠ 危険

タイヤの状態が悪いと路面グリップ力や操縦性を損ないますので、タイヤの接地面や側面の状態、および摩耗を常に点検してください。

本車体用に保安基準認定を受けたタイヤのうち、種類によっては摩耗度の表示を備えたものがあります。
摩耗度の表示にはいろいろな種類がありますので、お買い上げになったディーラーまで摩耗度の検査についてお問い合わせ下さい。
タイヤの修理を受けた後は必ずホイールバランスの点検を受けてください。

全体が摩耗していたり、トレッドに 5 mm 以上の亀裂があるような場合は、タイヤの交換を依頼してください。

タイヤの修理を受けた後は必ずホイールバランスの点検を受けてください。

⚠ 危険

タイヤは、メーカーの推奨する型式のものとのみ、交換を行って下さい。81 頁（テクニカルデータ）参照。推奨されている型以外のタイヤを使用すると、車体の走行性に悪影響をもたらします。

チューブ入りタイヤ用のリムにチューブレスタイヤを取り付けたり、逆にチューブレスタイヤ用のリムにチューブ入りタイヤを取り付けたりしないでください。

空気漏れを防ぐため、常にバルブキャップ (2) を使用してください。

タイヤの交換、修理、メンテナンス、ホイールバランシングは非常に重要な作業のため、適切な設備と熟練が必要です。

⚠ 危険

**上記の理由から、タイヤに関する作業は aprilia 正規ディーラーまたは有名タイヤショップにご相談ください。タイヤが新しいうちは表面が滑りやすい保護ワックスで被われていますので注意して運転してください。タイヤ表面に不適当な液体やオイルなどを塗らないでください。タイヤは古くなると硬化し、たとえ摩耗していなくても路面のグリップ力が落ちます。
このような時には新品と交換してください。**

タイヤ摩耗限界・溝の深さ (3)：

フロント及びリア.....1.5 mm （USA 3 mm）

いずれの場合にも、車体を使用する国の、現行の法規定により定められている値を下回らないこと。

自動点灯装置仕様車 ASD

自動点灯装置を搭載したモデルでは、エンジンを始動したときに自動的にライト類が点灯します。

このためライトスイッチ ではなくディマースイッチ “≣D - ≣D” になっています。

ライト類はエンジンを停止したときに消灯します。

◆ エンジンを始動する前にディマースイッチが “≣D” の位置（ヘッドライトはロービーム）になっていることを確認してください。

触媒マフラー ✿

⚠ 危険

触媒コンバーター仕様車のマフラーは使用中にかなりの高温になりますので、乾燥した茂みの近くや子供が近づける場所には駐車しないでください。完全に冷えるまでマフラーには何も触れないように充分注意してください。

触媒コンバーター仕様車には“二価白金ロジウム”タイプの金属触媒コンバーターを使用したマフラーが搭載されています。

この装置は排気中に含まれるＣＯ（一酸化炭素）とＨＣ（不焼成炭化水素）を酸化させ、それぞれ二酸化炭素と水蒸気に変換して排出します。

さらに、触媒反応により高温になった排気は排気中の残留オイルを燃焼させるため、マフラーの汚れを防ぎ排気をクリーンに保ちます。

触媒コンバーターが正しく機能し長持ちするため、またサーマルユニットおよび排気系統の汚れを最小限に抑えるため、常に低いエンジン回転数で長距離を走り続けることは避けてください。

そのためには、適当な間隔で数秒間だけでもかなり高いエンジン回転数まで上げるようにしてください。

以上の注意はエンジンが冷えている状態から始動させるときには特に重要です。触媒コンバーターが正しく機能するエンジン回転数まで上げるために、サーマルユニットの温度が約 50 ℃に達していることを確認してください。（通常エンジン始動から数秒かかります。）

⚠ 注意

有鉛ガソリンは触媒コンバーター破損の原因となりますので、決して使用しないでください。

マフラー / 排気マフラー

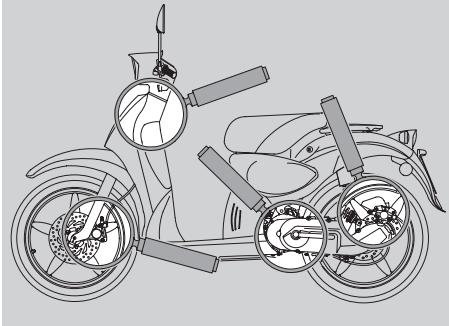
⚠ 危険

騒音制御装置に勝手に変更を加えることは禁止されています。

車体のオーナーは、以下の内容が法律で禁止され得ることを認識してください：

– メンテナンス、修理もしくは備品交換目的以外で、新車に内臓されている構成装置もしくは要素を取り外したり作動できなくして、車体の最終購入者への販売または納品前や車体の起動中に、騒音の放出を点検すること
– 上記の構成装置もしくは要素を、取り外したり作動できなくしてから車体を使用すること。

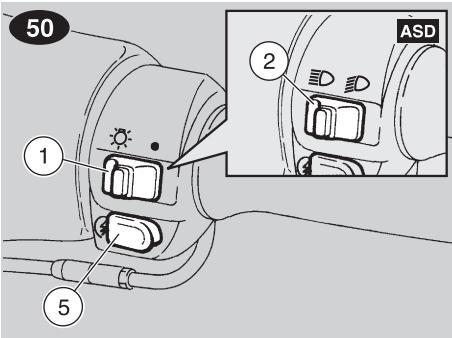
マフラー / 排気マフラー及びマフラー管を点検して、さびの兆候や穴がないこと、排気装置が正しく操作していることを確認してください。

排気装置が発する騒音が増大する場合には、即刻 **aprilia** 正規ディーラーまでご相談ください。

⚠ 危険

走行を始める前には必ず右の表（走行前の点検）に従って予備点検を行ない、スクーターが確実に機能することを確認してください。
この作業をしないで走行した場合には重大な人身傷害やスクーターの損傷を引き起こす危険があります。

各部装置の機能が良く解らない時や、何らかの異常を感じた時はお気軽に aprilia 正規ディーラーにご相談ください。
走行前のチェックはライダーの安全のためにとても重要です。短い時間でできますので必ず実施してください。

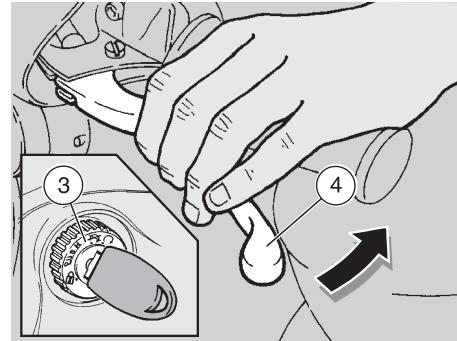
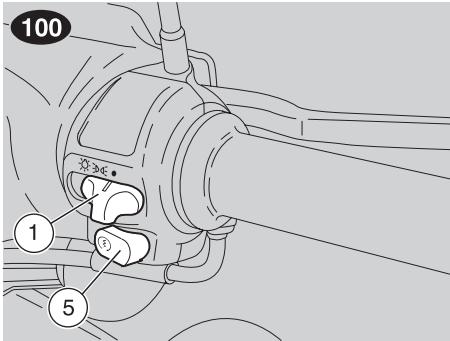
走行前の点検

点検箇所	点検内容	参照頁
ディスクブレーキ	ブレーキの効き具合、ブレーキオイル量、オイル漏れの有無、ブレーキパッドの摩耗を点検。 必要な場合はブレーキオイルを補充。	30、56
リアドラムブレーキ (◎)	ブレーキの効き具合、ブレーキレバーの遊びと操作性を点検。遊びが適切でない場合は調整。	31、57
スロットル	ハンドルの角度に関わらずスロットルグリップが全開から全閉までスムーズに回転することを確認。必要な場合は調整や潤滑。	65
エンジンオイル	エンジンオイル量を点検。必要な場合は補充。	28
ホイール／タイヤ	タイヤ表面の状態、空気圧、摩耗度、損傷などを点検。 タイヤのトレッドのうねに異物がはまった場合は、取り除いて下さい。	32
ブレーキレバー	スムーズに作動することを確認。 必要ならばジョイント部を潤滑。	29、30、31
ステアリング	回転が均一かつスムーズであること、がたつきや緩みがないことを確認。	—
センタースタンド、	動作がスムーズなこと、格納ポジションに戻すスプリングの張力が適切であることを確認。 必要な場合はジョイント部を潤滑。	—
組み付け部品	全ての組み付け部分がしっかりと固定されていることを確認。必要な場合は調整、締め直し。	—
燃料タンク	ガソリン量を点検。必要な場合は補充。 燃料供給系統に漏れや閉塞がないことを確認。	26
ライト、インジケーター、警告ホーン、その他の電装パーツ	すべての装置が正常に作動することを確認。 必要な場合は電球の交換や故障部分の修理。	68 ～ 76

エンジンの始動

⚠ 危険

排気中には吸引すると大変に有害な一酸化炭素が含まれています。
締め切った室内や換気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。この注意を守らないと酸素欠乏のため意識不明になったり、最悪の場合は死亡する危険があります。
エンジン始動は乗車せずに行なってください。

エレクトリックスターターによる始動

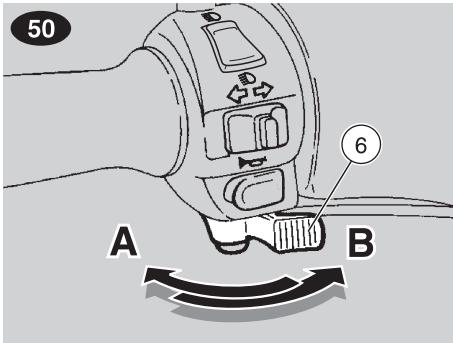
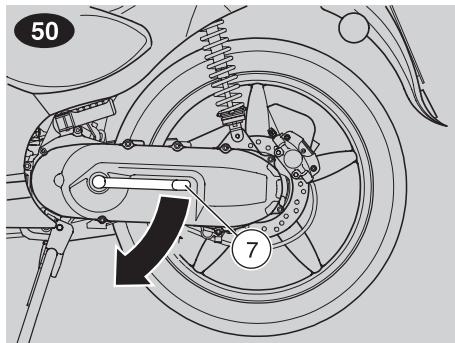
◆ センタースタンドを使って、車体を堅い平らな地面に立てます。
◆ ライトスイッチ (1)が "●" の位置になっていることを確認してください。
◆ ASD ディマースイッチ(2)が "" の位置になっていることを確認してください。
◆ イグニッションスイッチ(3)を "◯" の位置にします。
◆ 少なくともどちらか一方のブレーキレバー(4) を引いて車輪をロックします。この操作をしないとスターターリレーに電流が供給されず、スターターモーターが作動しません。

重要: 車体を長期間使用しなかった場合は、38 頁 (長期間乗らなかった場合の始動) に列記してある操作を行って下さい。

重要: バッテリーの過度の消耗を避けるため、スターターボタン "" を 5 秒以上押したままにしないで下さい。この間でエンジンが始動しなければ、10 秒間待ってもう一度スターターボタン "" を押して下さい。

◆ スロットルグリップを回さないでスターターボタン "" (5) を押します。エンジンが始動したら直ぐに離してください。

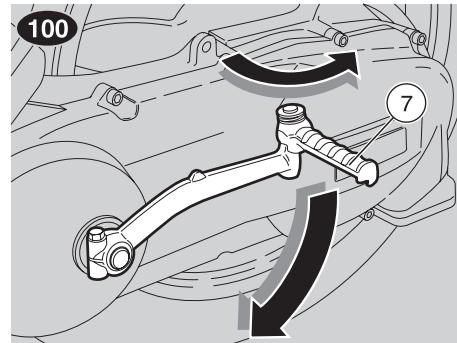
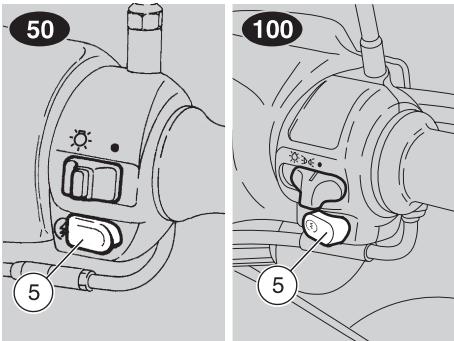
⚠ 注意

スターターボタン "" を押している間、エンジンオイル警告灯 "" が点灯します。エンジンが始動しスターターボタン "" を離すとエンジンオイル警告灯 "" は消灯するはずです。もしも点灯したままになる場合はエンジンオイルを補充してください。28 頁(エンジンオイルタンク)参照。

エンジンが始動した後スターターボタン "" (5) を押さないでください。スターターモーターを損傷します。

- 50 寒冷時のエンジン始動には、チョークレバー“|↘|”(6)を時計回りに(外側へ)(Aの方向)回します。
- 発進させるまではスロットルグリップを回さないでください。また、両方のブレーキレバーを引いておいてください。
- 発進させる前にエンジンを充分温めてください。
- 50 エンジンが充分温まったらチョークレバー“|↘|”(6)を反時計回りに(内側へ)(Bの方向)回します。

キックペダルによる始動(キックスタート)

- センタースタンドを使って、車体を堅い平らな地面に立てます。
- 車体の左側に立ちます。
- ライトスイッチ(1)が“●”の位置になっていることを確認してください。
- ASD ディマースイッチ(2)が“≣D”の位置になっていることを確認してください。
- イグニッションスイッチ(3)を“○”の位置にします。
- エンジンが始動した際に車体のコントロールを失わないよう、両方のブレーキレバー(4)を引いて車輪をロックしておいてください。
- 100 スターターペダル(7)を外方向に回します。

⚠ 注意

エンジンが始動した後はキックペダルを踏まないでください。

- 右足でキックペダル(7)を踏み下げ、直ぐに離します。一度でエンジンが始動しない場合は繰り返し踏んでください。
- 100 スターターペダル(7)を元に戻します。

エンジンがかぶった場合の始動

エンジンの始動が適切でなかったり、吸気管やキャブレーターに多量のガソリンが入るとエンジンがかぶってしまいます（かぶる＝エンジン内部が燃料で濡れること）。

かぶったエンジンを正常に戻すには：

◆ スロットルグリップ (8) を全開に回した状態（**A の方向**）で、スターターボタン“⚡”(5) を数秒間押します（エンジンを空ぶかしさせるように）。

寒冷時のエンジンの始動

外気温が低いときは(0℃ またはそれ以下)、エンジンを一度で始動させるのが難しくなります。

そのような時には：

◆ 50 チョークレバー“|ᴺ|”(6) を時計回りに（外側へ）(A の方向）回します。

◆ スターターボタン（5）を押したまま、スロットルグリップ（8）を少し回します。

エンジンが始動した場合。

◆ スロットルグリップ (8) を離します。

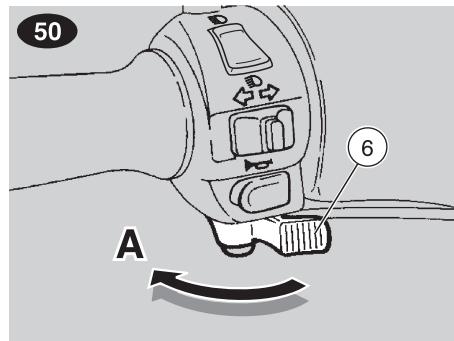
◆ エンジンのアイドリングが不安定な時はスロットルグリップ (8) を数回小刻みに回してください。

始動には、39 頁（発進と走行）を参照してください。

エンジンが始動しない場合。

数秒間待って、寒冷時のエンジンの始動の手順を再度行います。

◆ 必要ならばスパークプラグを外して湿っていないかどうか点検します。67 頁（スパークプラグ）参照。

◆ スパークプラグが湿っている場合は洗って乾かして下さい。

再度取り付ける前に：

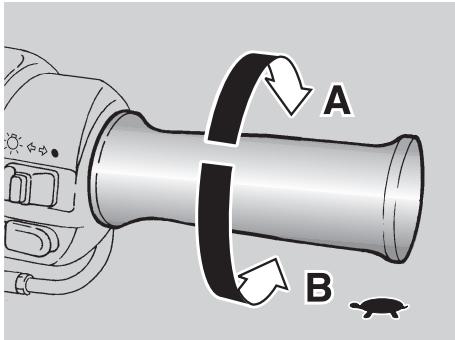
重要：オイルのはねを防ぐため、シリンダーの上、スパークプラグの近くに、清潔な布を置いて下さい。

◆ スターターボタン“⚡”(5) を押して、スロットルグリップを戻した状態でスターターモーターを約 5 秒間回します。

長期間乗らなかった場合の始動

長い間乗らなかった後でエンジンがすぐに始動しない場合は燃料系統のどこかで燃料が切れているからです。

この場合には：

◆ スターターボタン“⚡”(5) を約 5 秒間押して、キャブレターのフロート室に燃料を供給します。

発進と走行

重要： 発進前に 5 頁からの“安全運転の為に”の章をもう一度読み直してください。

⚠ 危険

二人乗りの運転に関する引用は、二人乗りが認められている国のみに関連することとみなしてください。

パッセンジャーがいない場合は、パッセンジャー用フットレストが閉じていることを確認してください。

また運転中は常に両手でハンドルをしっかり握り、両足はフットレストに乗せておいてください。

決して変則的な姿勢で運転しないでください。

⚠ 危険

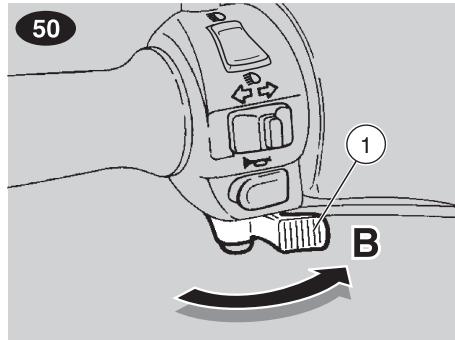
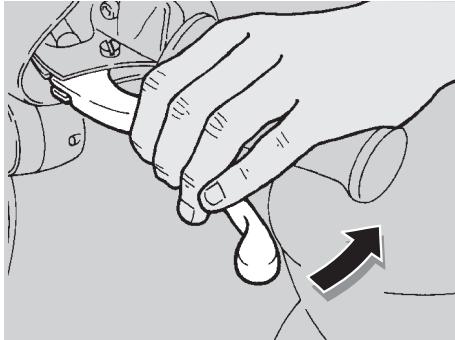
パッセンジャーが乗る場合には、運転中にライダーのハンドル操作を妨げないように注意を促してください。

走行開始前に一方か、もしくは両方のスタンドが完全に通常の位置に戻っているか確認してください。

発進の方法：

- ◆ スロットルグリップを戻し（**A の方向**）リアブレーキをかけながら車体をスタンドから降ろします。
- ◆ シートに跨ります。バランスをくずさないよう常に片足は地面につけておいてください。
- ◆ バックミラーの向きを正しく調整します。

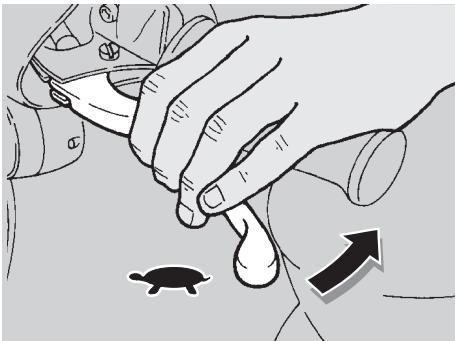
⚠ 危険

停止した状態でバックミラーの使用法に慣れてください。ミラーの表面は凸面になっているため、

- ◆ ブレーキレバーを離しスロットルグリップをゆっくり回す（**B の方向**）と発進を始めます。
- ◆ 50 エンジンが温まった状態で、レバーを反時計方向（内方向）（B 位置）に回して、寒冷時のエンジン始動をおこないます。

⚠ 注意

エンジンが暖機されていない状態では急激な発進をしないでください。
汚染物質の排出と燃料消費を抑えるため、最初の数キロは低速で走行しエンジンを温めるようにしてください。

⚠ 危険

スロットルグリップを続けて何度も開閉させることは避けてください。車体のコントロールを失う危険があります。

⚠ 危険

ブレーキ操作の際は、先ずスロットルを閉じ、安定した均一な制動力を得るよう両輪のブレーキを適切に操作してください。
フロントまたはリアどちらか一方のブレーキしか使用しない場合には、制動力がかなり弱くなり、また車輪がロックしてスリップする危険があります。

上り坂で停止する際は、スロットルを完全に閉じ、両輪のブレーキを使用して車体を保持してください。
ブレーキを使用せずに、車体が後退しないようにエンジンをふかし続けると、変速器が過熱し損傷を受けます。

⚠ 危険

カーブに入る前には充分に減速し、ハンドルを切っている間は一定の速度を保つか、逆に少し加速してください。限界までブレーキをかけることは避けてください。スリップする危険が高くなります。

下り坂でブレーキを連続的に使うとブレーキパッドが過熱し、制動力が弱まります。

下り坂では必ずエンジンブレーキを活用し、フロントおよびリアブレーキは断続的に併用してください。

下り坂をエンジンを停めて走行することは絶対にやめてください。

⚠ 危険

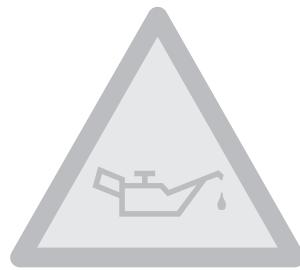
視界の悪い状態で走行する際は、たとえ昼間でもヘッドライトを点灯してモーターサイクルが見えやすいようにしてください。濡れた路面や滑りやすい条件ではゆっくりと走行し、スリップや転倒の原因となる急ハンドル、急ブレーキを避けてください。

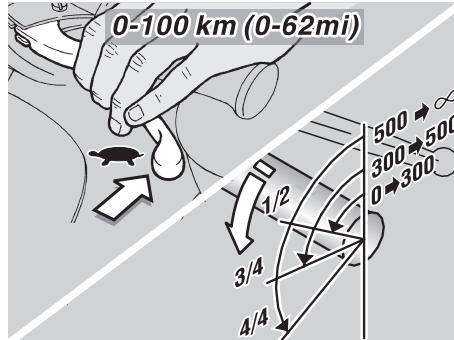
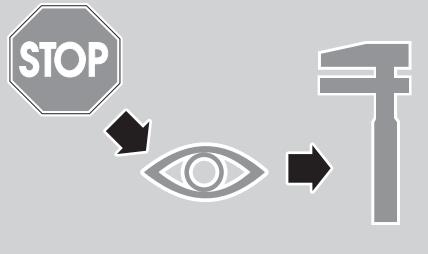
⚠ 危険

路上の障害物や路面状態の変化には最大限の注意を払ってください。
荒れた路面、鉄道のレール、マンホールの蓋、路上の塗装表示、工事現場の鉄板などは雨に濡れるとスリップしやすく危険です。このような場所では急なハンドル操作をせず、また車体をなるべく傾けずに走行してください。

⚠ 危険

車線変更や方向転換の際には早めにウインカーライトで意志表示をし、急なハンドル操作や危険な運転を避けてください。
車線変更、方向転換した後は直ちにウインカーライトを消灯してください。

他の車両を追い越したり、また、追い越されたりする間は、最大限の注意を払ってください。
雨天走行時は大型車両からの水煙で見通しが悪くなります。また圧力差による横風で車体のコントロールを失う危険がありますので充分注意してください。

⚠ 危険

通常の使用中にエンジンオイル警告灯" "が点灯した場合は、エンジンオイルがリザーブに切り替わったことを示しています。そのような場合はエンジンオイルを補充してください。28 頁（エンジンオイルタンク）参照。

慣らし運転

⚠ 危険

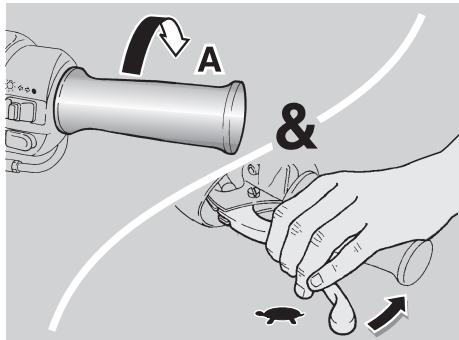
ライダー自身を含む人身事故や車両の損傷を防ぐため、積算走行距離が 500 km (312 mi) に達したら定期点検を行なってください。46 頁（定期点検整備表の“慣らし運転後”）参照。

エンジンの慣らし運転は、エンジンを長持ちさせ、正しい性能を引き出すためにとても重要です。
できればカーブや起伏の多い地帯を選んで走行するとエンジン、サスペンション、ブレーキなどがより効果的に慣らし運転されます。

積算走行距離が 500 km (312 mi) に達するまでは次の注意事項を守ってください：

◆ **0 ～ 100 km (0 ～ 62 mi)**
最初の 100 km (62 mi) まではブレーキ操作は慎重に行ない、急ブレーキや長いブレーキ操作は避けてください。ブレーキディスクとパッドを正しく馴染ませるために重要です。

◆ **0 ～ 300 km (0 ～ 187 mi) の期間**
スロットルを全開時の半分以上開けて長距離を走行することはやめてください。

◆ **300 ～ 500 km (187 ～ 312 mi) の期間**
スロットルを 3/4 以上開けて長距離を走行することはやめてください。

停止

⚠ 危険

できるだけ急ブレーキ､急停止を避けてください。

◆ スロットルグリップを戻し（A　の方向）両輪のブレーキを徐々にかけます。
◆ 一時停止の際は少なくとも片方のブレーキをかけておいてください。

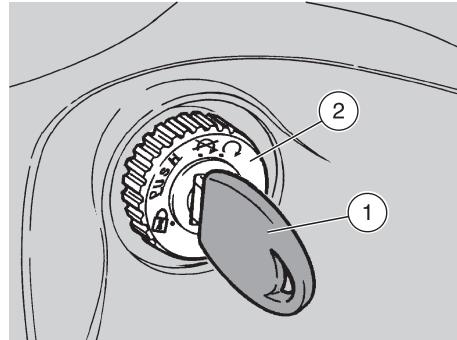
パーキング

⚠ 危険

転倒を防ぐため、固くて平らな場所に駐車してください。
車体を壁などに立てかけたり、地面に寝かせて置いたりしないでください。
車体（特に熱くなっている部分）が周囲の人々や子供にとって危険にならないよう注意してください。
エンジンがかかった状態や、イグニッションスイッチにキーを挿し込んだ状態で放置しないでください。
スタンドを立てている時はシートに腰掛けないでください。

◆ スクーターを停止させます。右項(停止)参照。

⚠ 注意

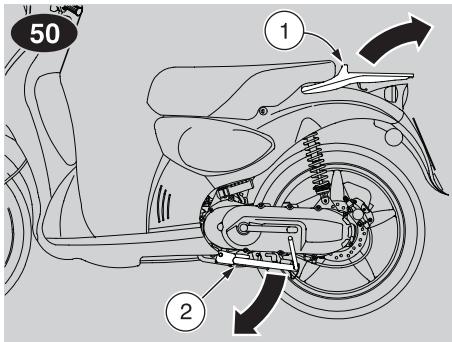
エンジンが停止していてもイグニッションスイッチが“○”の位置にあるとバッテリーが放電します。

◆ キー (1) を回してイグニッションスイッチ (2) を“⊗”の位置に回します。
◆ スタンドを使って車体を立てます。44 頁（スタンドの立て方）参照。

⚠ 注意

このモデルは燃料自動遮断システムを装備していますので、エンジンを止めたときに燃料コックを閉める必要はありません。

⚠ 注意

イグニッションスイッチにキーを挿し込んだままにしないでください。

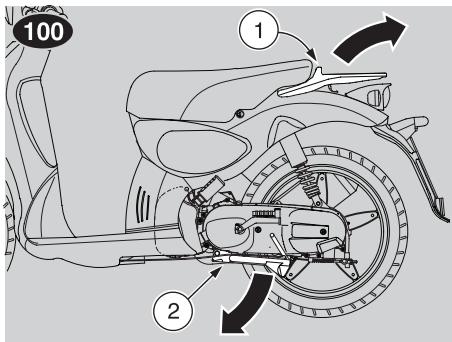
◆ ステアリングロックをかけます。22　頁（ステアリングロック）参照。キー (1) を抜き取ります。

センタースタンドの立て方

43 頁(パーキング)をよく読んでください。

センタースタンド

◆ 左側ハンドルグリップと後部左側の手すり (1) を握ります。
◆ センタースタンド (2) を踏み下げます。(図の 2)

⚠ 注意

車体が安定しているか確認してください。

盗難防止のために

イグニッションスイッチにキーを挿し込んだままにしないでください。また常にステアリングロックをかけてください。

ガレージや監視人のいる確かな場所を選んで駐車してください。

できる限り **aprilia** 製特殊強化ケーブル "Body-Guard" OPT などの盗難防止器具を使用してください。

関係書類に手落ちがないか、また税金は納入済みか確認してください。

下の欄に必要事項を記入しておくと、盗難車が発見された場合の所有者確認に役立ちます。

姓：...

名：...

住所：..

....

電話番号：...

重要：このマニュアルに記入された事項で盗難車が確認されるケースがよくあります。

⚠ 危険

火災の危険があります。

電気系構成要素には、燃料及びその他の引火物を近づけないで下さい。

点検整備を始める前には必ずエンジンを止め、キーをイグニッションスイッチから抜いて、エンジンと排気系統が完全に冷えるのを待ちます。できれば作業用スタンドなどを用い車体を持ち上げ、堅く水平な床面に置きます。

作業を開始する前に作業場の換気を確認してください。

⚠ 危険

火傷の危険がありますので、熱くなっているエンジンや排気系統に触れないよう充分注意してください。

火傷の危険がありますので、熱くなっているエンジンや排気系統に触れないよう充分注意してください。

⚠ 注意

特に指示がない限り、パーツの取り付けは取り外しの逆の手順で行なってください。

メンテナンス作業の際はゴム手袋の着用をお薦めします。

通常のメンテナンス作業はオーナーによっておこなわれ、場合によっては特定の装具の使用や技術的準備が必要です。

通常の点検整備はユーザーが行うことができますが、中には機械知識や特殊工具を必要とするものもあります。何か助けや技術的助言が必要なときは **aprilia** 正規ディーラーにご相談くだされば早速適切な助力を致します。

修理や定期点検整備の後には路上での走行テストを **aprilia** 正規ディーラーに依頼されるようお薦めします。
ただし、メンテナンス作業の後にはご自分でも必ず予備点検を行なってください。
35 頁 (走行前の点検) 参照。

定期点検整備表

aprilia 正規ディーラー にて行なう作業 (ユーザーでも実施可能なもの)

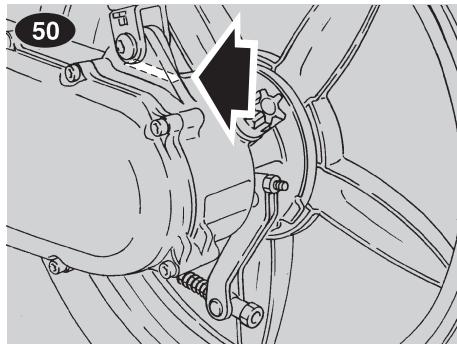
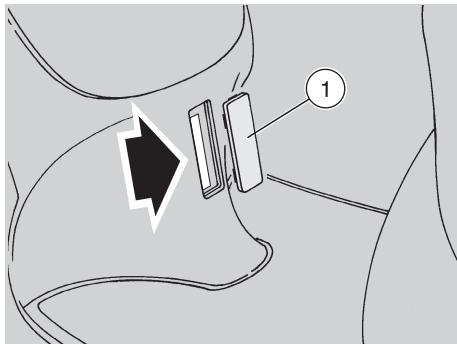
点検箇所	馴らし運転後 [500 km (312 mi)]	4000 km (2500 mi) または 8 か月ごと	8000 km (5000 mi) または 16 か月ごと
バッテリー - 電解液レベル 50	①	①	
スパークプラグ	①	①	③
キャブレター／アイドリング	④	①	
エアクリーナー	①	②	
変速機エアクリーナー 100			②
ブレーキロッキング動作	①	①	
ライト系統	①	①	
ストップライトスイッチ		①	
ブレーキオイル		①	
エンジンオイル 50	500 km (312 mi) ごと : ①		
エンジンオイル 100	400 km (250 mi) ごと : ①		
ヘッドライト角度 - 動作		①	
タイヤ - 空気圧	毎月 : ④		
ブレーキパッド摩耗度	①	2000 km (1250 mi) ごと : ①	

① =点検。必要な場合は清掃、調整、潤滑、交換など。② = 清掃。 ③ = 交換。 ④ = 調整。

雨中、埃の多い場所、荒れた路面などの走行、また競技的な走行をすることが多い場合は、上記の期間よりも頻繁に点検整備を行なってください。

必ず aprilia 正規ディーラーにて行なう作業

点検箇所	馴らし運転後 [500 km (312 mi)]	4000 km (2500 mi) または 8 か月ごと	8000 km (5000 mi) または 16 か月ごと
バリエターベルト		①	
ステアリング、ステアリングベアリング	①	①	
ホイールベアリング		①	
排気系統の付着物の除去 50		②	
ブレーキ系統	①	①	
シリンダー冷却装置 100	20000 km (12500 mi) ごと :② (外装清掃)		
リアブレーキカムピンの潤滑		①	
ブレーキオイル	2 年ごと : ③		
タンク / スロットル機能	①	①	
トランスミッションオイル 50	③	3000 km (1875 mi) ごと : ①	12000 km (7500 mi) または 2 年ごと : ③
トランスミッションオイル 100	③	①	
ホイール／タイヤ		①	
ナット、ボルト、ネジ類の締め付け	①	①	
サスペンション	①	①	
エンジンオイル警告灯	①	①	
ブレーキオイルの空気抜き	①		
燃料パイプ	4000 km (2500 mi) ごと : ① / 4 年ごと : ③		
ブレーキ系統パイプ	4000 km (2500 mi) ごと : ① / 4 年ごと : ③		
エンジンオイルパイプ	①		①
リアブレーキシュー摩耗度	①	①	

① =点検。必要な場合は清掃、調整、潤滑、交換など。② = 清掃。 ③ = 交換。 ④ = 調整。
雨中、埃の多い場所、荒れた路面などの走行、また競技的な走行をすることが多い場合は、上記の期間よりも頻繁に点検整備を行なってください。

車体認識番号

フレームナンバーおよびエンジンナンバーをこのページに控えておくようお薦めします。

フレームナンバーはスペアパーツをオーダーする際に必要な場合があります。

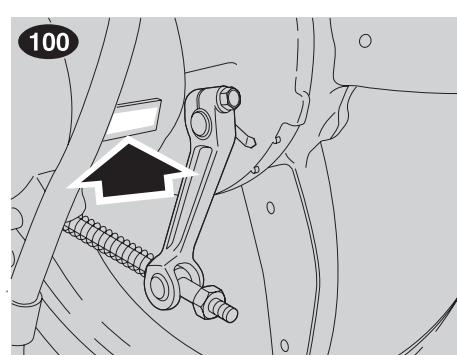
重要：これらの認識番号を改ざんすることは重い刑事処罰および行政処罰の対象になります。特にフレームナンバーを改ざんした場合は正規保証外の扱いになります。

フレームナンバー

カバー(1)は正しい方向ではめてください。2 つのフックが付いている方が下になります。

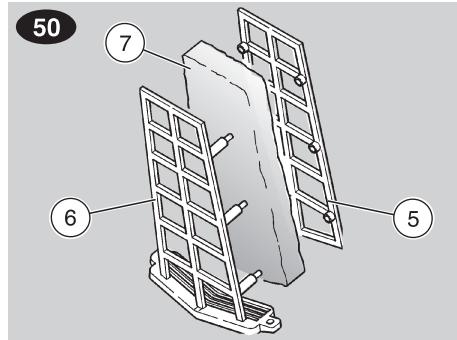
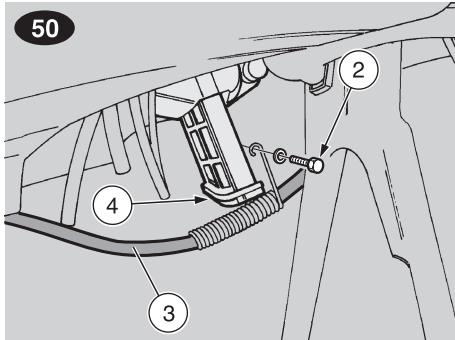
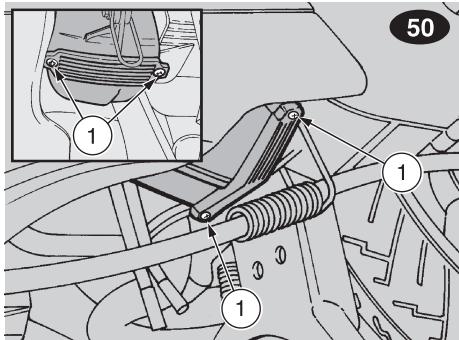
フレームナンバー ____________________

エンジンナンバー 50

エンジンナンバーはリア側の、リアブレーキ調整ネジの近くに刻印されています。

エンジンナンバー ____________________

エンジンナンバー 100

エンジンナンバーはリア側の、リアブレーキ調整ネジの近くに刻印されています。

エンジンナンバー ____________________

エアクリーナー 50

45 頁（メンテナンス）をよく読んでください。

使用状況によって異なりますが、通常は毎月 1 回または 4000 km 走行ごとにエアクリーナーの状態を点検し清掃してください。

埃の多い路面や濡れた路面を走行した場合にはさらに頻繁にメンテナンスを行なってください。

エアクリーナーを清掃するには車体から取り出す必要があります。

エアクリーナーの取り外し

◆ 堅い平らな床面にセンタースタンドを使って車体を立てます。
◆ 2 本のネジ (1) を回して取り外します。
◆ ネジ(2)を回して取り外し、ワッシャーも外します。
◆ リアブレーキホース (3) を横方向へずらします。
◆ (◎) リアブレーキのケーブル（3）をサイドから移動します。
◆ エアクリーナー(4) 全体を下から抜き取ります。

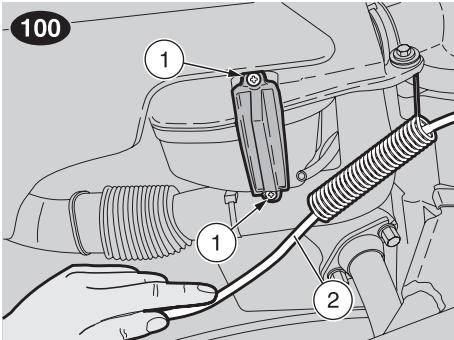
エアクリーナーの清掃

◆ グリル (5) をサポート (6) から分離します。
◆ フィルタースポンジ(7)を取り外します。

⚠ 危険

エアクリーナーの洗浄にガソリンや可燃性溶剤を使わないでください。火災や爆発の危険があります。

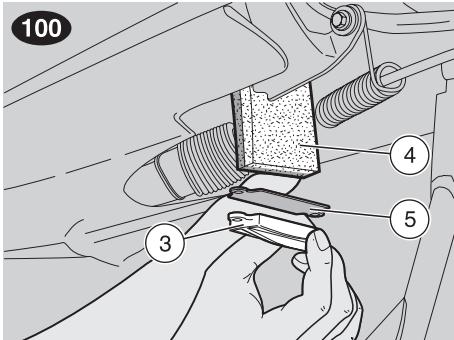
◆ 不燃性または高揮発性のきれいな溶剤でフィルタースポンジを洗浄し、丁寧に乾かします。
◆ 全面にフィルター用オイルまたは高濃度のオイル　を浸し、余分なオイルを絞ります。

重要：フィルタースポンジはオイルに充分に浸されていなければなりませんが滴が落ちない程度にしてください。

エアクリーナー 100

45 頁（メンテナンス）をよく読んでください。

使用状況によって異なりますが、通常は毎月 1 回または 4000 km（2500 mi）走行ごとにエアクリーナーの状態を点検し清掃してください。

埃の多い路面や濡れた路面を走行した場合にはさらに頻繁にメンテナンスを行なってください。

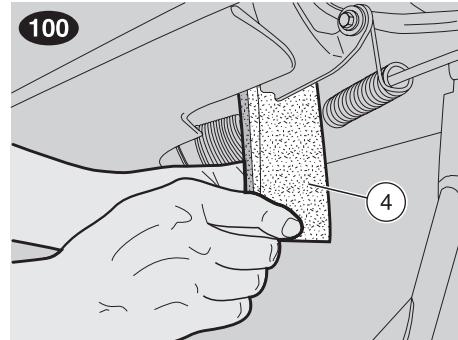
エアクリーナーを清掃するには車体から取り出す必要があります。

エアクリーナーの取り外し

◆ 堅い平らな床面にセンタースタンドを使って車体を立てます。
◆ 2 本のネジ(1) を回して取り外します。
◆ リアブレーキのケーブル（2）をサイドから移動し、片手で持って移動させたままにします。

⚠ 注 意

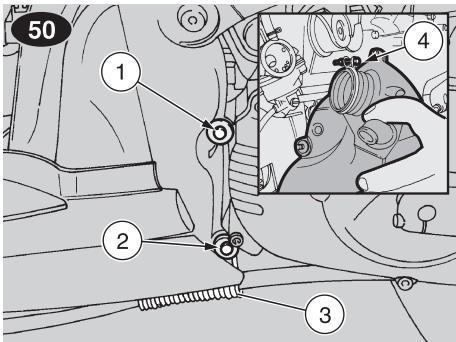
後で正確に取り付けられるように、下側のキャップ (3) とフィルタースポンジ (4) の正しい位置を確認して置いてください。

(フィルターを設置する際には、黒色の堅いスポンジ状の側を車体の前方 に向けて設置しま).

◆ 下側のキャップ（3）を下から抜き取り、パッキン(5) も取り外します。
◆ フィルタースポンジ(4)を抜き取ります。

エアクリーナーの清掃

⚠ 危険

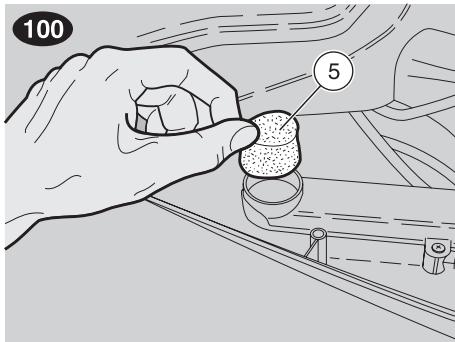
エアクリーナーの洗浄にガソリンや可燃性溶剤を使わないでください。火災や爆発の危険があります。

◆ 不燃性または高揮発性のきれいな溶剤でフィルタースポンジを洗浄し、丁寧に乾かします。
◆ 全面にフィルター用オイルまたは高濃度のオイル を浸し、余分なオイルを絞ります。

エアクリーナーケース全体の取り外し 50

45 頁（メンテナンス）をよく読んでください。

- ◆ フットレストを取り外します。62頁(フットレストの取り外し)参照。
- ◆ バッテリー保持ケースを取り外します。62頁(バッテリー保持ケースの取り外し)参照。
- ◆ ネジ（1）および（2）を回して取り外し、ワッシャーも外します。

重要：再度取り付けの際にはケーブルのガイド (3) も元の位置に戻してください。

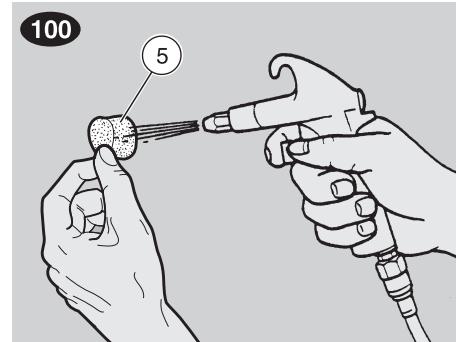
- ◆ エアマニホールドのクランプのネジ（4）を緩めます。
- ◆ エアマニホールドをクランプの部分で掴んで引き出すとエアクリーナーケース全体が取り出せます。

変速機エアクリーナー 100

45 頁（メンテナンス）をよく読んでください。
使用状況によって異なりますが、通常は 8000 km (5000 mi) 走行ごとにエアクリーナーの状態を点検し清掃してください。
埃の多い路面や濡れた路面を走行する場合にはさらに頻繁に清掃を行なってください。
フィルタースポンジを清掃するには車体から取り出す必要があります。

エアクリーナーの取り外し

- ◆ フットレスト台を取り外します。62 頁（フットレスト台の取り外し）参照。
- ◆ フィルターを取り外します。
- ◆ フィルター (5) を点検し、必要な場合は交換します。

エアクリーナーの清掃

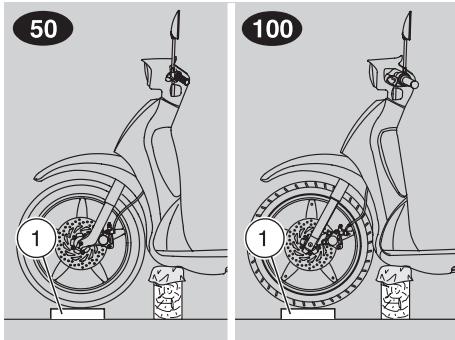
⚠ 危険

エアクリーナーの洗浄にガソリンや可燃性溶剤を使わないでください。火災や爆発の危険があります。

清掃に洗剤や液体を決して使用しないでください。変速機内部に湿気がたまる原因となります。

必ず圧縮空気のみを使用してください。

- ◆ 圧縮空気を吹き付けてフィルタースポンジ (5) を清掃します。

⚠ 注意

フィルタースポンジにオイルを塗らないでください。ドライブベルトケース内にオイルが浸入し、損傷やベルトの滑りを引き起こすおそれがあります。

フロントホイール

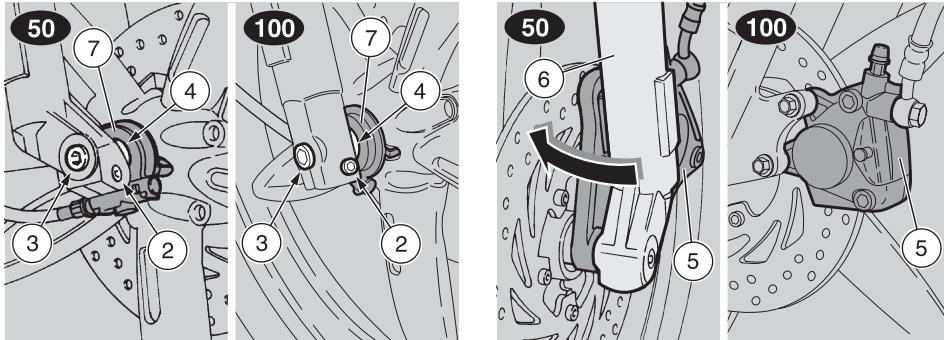
フロントホイールの取り外し

⚠ 注意

フロントホイールの取り外しや取り付けは、経験のない人には複雑で難しい作業かも知れません。

必要な場合は aprilia 正規ディーラーにご相談ください。
ご自分で行なう場合は以下の指示に従ってください。

45 頁(メンテナンス)をよく読んでください。

フロントホイールの取り外しや再取り付けの際は、ブレーキパイプ、ディスク、パッド等に損傷を与えないように注意してください。

◆ センタースタンドを使って、車体を堅い平らな地面に立てます。

重要：サポートは支えとなる台が 200 X 200 ミリメートル、高さは、モデル 50 には 270ミリメートル、モデル 100 には230ミリメートルのものを使用します。

◆ 支持台の上にクッションとなる布などを置いてその上に車体を乗せ、フロントホイールが自由に回るように浮かせます。転倒しないようしっかりと乗せてください。

⚠ 注意

車体が安定していることを確認してください。

◆ フロントホイールを外した際にそのままの位置に保持するため、適当な保持台(1)をタイヤの下に置きます。
◆ アクスルシャフト固定ネジ(2)を緩めます。
◆ アクスルシャフト(2)を完全に緩めます。

アクスルシャフト規定締め付けトルク：
50 Nm (5 kgm)

◆ フロントホイールを支えながらアクスルシャフト(3) を手で抜き取ります。
◆ ワッシャー(4) も外します。

⚠ 注意

ブレーキキャリパーを取り外した後はフロントブレーキレバーを引かないでください。さもないと、キャリパーピストンが外れてブレーキオイルが流れ出ることがあります。そのような場合には aprilia 正規ディーラーにご相談ください。適切な整備を行ないます。

◆ ブレーキディスクがブレーキキャリパー(5) から抜けるまでフロントホイールを前方へ移動します。
◆ 50 ブレーキキャリパーは取り外さないまま、左ロッド(6) を時計回りに回してホイールを抜き取るスペースを空けます。
◆ フロントホイールを完全に抜き取ります。
◆ オドメーター制御装置(7) の接続を外します。

取り付け

45 頁（メンテナンス）をよく読んでください。

⚠ 注意

取り付けの際は、ブレーキパイプ、ディスク、パッド等に損傷を与えないように注意してください。

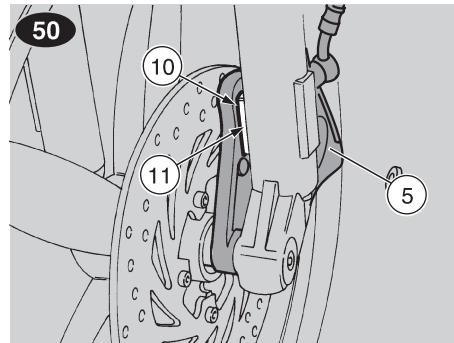
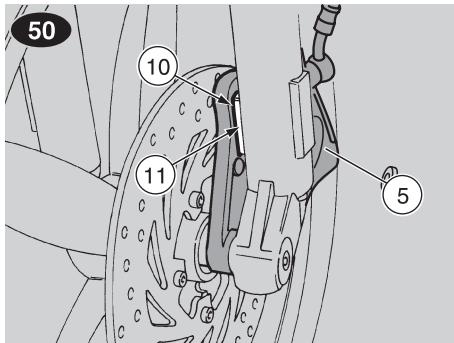
フロントホイールの取り付けは次の要領で行なってください：

- ◆ アクスルシャフト(2)の全長にわたって、薄くグリースを塗布します。84 頁（指定油脂類表）参照。
- ◆ ホイールを保持台(1) の上に乗せ 2 本のフォークロッドの間に入れます。
- ◆ オドメーター制御装置(7)の突起(8)をホイールハブのハウジングに正しくセットしてください。

⚠ 危険

ケガをするおそれがあります。指を使って穴の位置出しをすることは避けてください。

- ◆ フロントホイールの中心がフロントフォークの穴に一致するよう、フロントホイールを移動します。

重要： 50 ブレーキキャリパー上の位置決め穴(10)が、左フォークロッド内側にある回転防止キー(11)に挿入されていなければなりません。

- ◆ 左右のフォークロッドの間にホイールを入れます。その際ブレーキディスクをブレーキキャリパーに慎重に挿し込みます。
- ◆ オドメーター制御装置(7) と右フォークロッドの間にワッシャー(4) を取り付けます。
- ◆ タイヤのピン(3) を完全に挿入して、手で締めつけます。
- ◆ アクスルシャフト(3) を最後まで締め付けます。

アクスルシャフト規定締め付けトルク：50 Nm (5 kgm)

- ◆ フロントブレーキレバーを引いた状態で、繰り返しハンドルバーを押し下げてフロントフォークを押し込みます。
  この要領でフォークロッドを正しくセットします。
- ◆ アクスルシャフト固定ネジ(2) を締め付けます。

アクスルシャフト固定ネジ規定締め付けトルク：12 Nm (1.2 kgm)

- ◆ 次の各パーツが汚れていないか点検します：
  - – タイヤ；
  - – ホイール；
  - – ブレーキディスク .

⚠ 注意

フロントホイールの取り付け後は、フロントブレーキレバーを繰り返し引いてみてブレーキ系統が正しく動作することを確認してください。
ホイールのセンタリングが正しいか確認してください。
各部の締め付けトルク、ホイールのセンタリング、ホイールバランスの点検は aprilia 正規ディーラーにご依頼ください。これらの不具合はライダー自身も含めた重大な人身事故につながる危険があります。

リアホイール

リアホイールの取り外し

⚠ 注意

リアホイールの取り外しや取り付けは、経験のない人には複雑で難しい作業かも知れません。
必要な場合は aprilia 正規ディーラーにご相談ください。

ご自分で行なう場合は以下の指示に従ってください。

45 頁(メンテナンス)をよく読んでください。

火傷の危険がありますので、以下の作業はエンジンおよびマフラーが常温に戻ってから行なってください。

(50) リアホイールの取り外しや再取り付けの際は、ブレーキパイプ、ディスク、パッド等に損傷を与えないように注意してください。

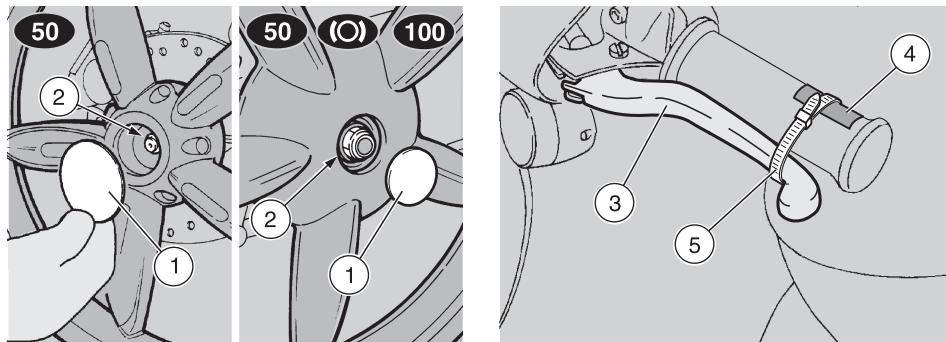
- ◆ 堅い平らな床面にセンタースタンドを使って車体を立てます。
- ◆ (50) リアタイヤの空気を完全に抜きます。
- ◆ マフラーを取り外します。61 頁(マフラーの取り外し)参照。
- ◆ カバー (1) を取り外します。

重要:アクスルシャフトナット (2) を緩めるには、ホイールが回らないよう固定してください。

- ◆ リアブレーキレバー(3) をいっぱいに引いた状態で、厚紙 (4) を挟み込んでプラスチッククランプ(5) で固定します。
- ◆ アクスルシャフトナット (2) を回して取り外し、ワッシャーも外します。

重要:再度取り付けの際はアクスルシャフトナット(特殊タイプ)を新しいものに交換してください。

アクスルシャフトナット (2)
規定締め付けトルク:110 Nm (11 kgm)。

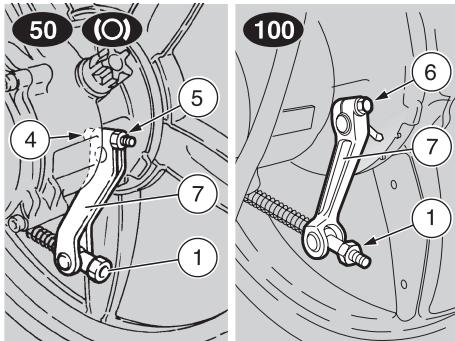
- ◆ リアブレーキレバーを離します。
- ◆ (◎) リアホイールを抜き取ります。
- ◆ (50) リアブレーキキャリパーを取り外します。57 頁(リアブレーキキャリパーの取り外し (50))参照。

- ◆ (50) リアホイールを抜き取ります。

重要:必ず aprilia の純正部品を使用してください。

- ◆ 再度取り付けを行った後に、以下の部品が汚れていないか確かめて下さい:
- – タイヤ;
- – ホイール;
- – (50) ブレーキディスク.

⚠ 注意

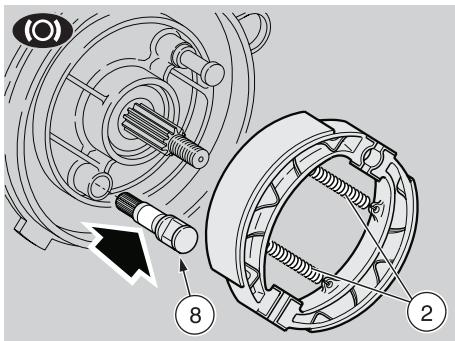
ホイールの取り付け後、リアブレーキレバーを繰り返し引いてみてブレーキ系統が正しく動作することを確認してください。

各部の締め付けトルク、ホイールのセンタリング、ホイールバランスの点検は aprilia 正規ディーラーにご依頼ください。これらの不具合はライダー自身も含めた重大な人身事故につながる危険があります。

リアブレーキカムピンの潤滑

45 頁（メンテナンス）をよく読んでください。

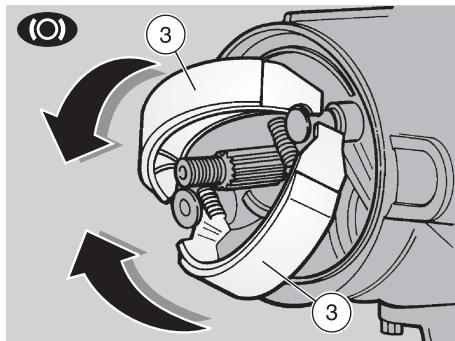
重要：4000 km 走行ごとにリアブレーキカムピンの潤滑を行なってください。埃の多い路面などを走行することが多い場合は、さらに頻繁に行なってください。

⚠ 注意

リアブレーキカムピンの潤滑は経験のない人には複雑で難しい作業かも知れません。
必要な場合はaprilia正規ディーラーにご相談ください。
ご自分で行なう場合は次の指示に従ってください：

◆ リアホイールを取り外します。54 頁（リアホイール）参照。
◆ アジャスター(1) を回して取り外します。

⚠ 危険

ブレーキシュー、特に摩擦材をグリースやオイルで汚さないよう注意してください。ブレーキ性能が損なわれます。ブレーキシューを取り外す際、スプリング (2) の抵抗力が強いため次の作業は難しいかも知れません。手や指を挟んだり怪我をしないよう注意してください。

◆ 両側の摩擦材 (3) のそれぞれの中央部内側の縁を掴んで、揺すりながら手前に引っ張るとブレーキシューが外れます。
◆ 50 ネジ(4)を六角レンチで固定しながらナット(5) を緩めます。
◆ 100 ネジ（6）を緩めます。
◆ ブレーキカムレバー(7) を取り外します。
◆ ブレーキカムピン(8) を抜き取ります。

⚠ 注意

適量のグリースをブレーキカムピンの中央部分にのみ塗布するようにしてください。ブレーキカムやブレーキカムピン挿入位置の周囲などを決してグリースで汚さないよう注意してください。

◆ ブレーキカムピンの中央部分に可動部品用グリースを塗布します。84 頁（指定油脂類表）参照。

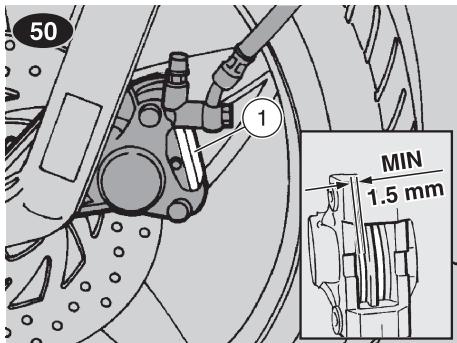
取り付けは次の要領で行なってください：

⚠ 注意

ブレーキカムピン (8) をハンマーなどの器具で叩いたり、無理に押し込んだりしないでください。2 個の O リング (OR) に損傷を与えるおそれがあります。

◆ ブレーキカムピン (8) を手で回しながら注意深く押し込みます。

⚠ 注意

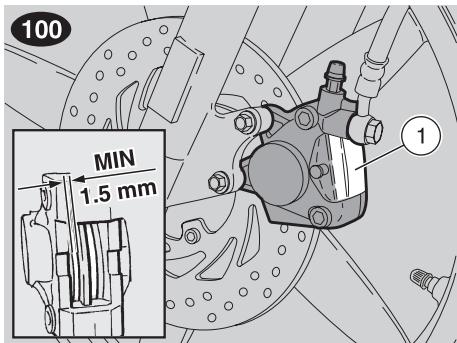
スプリングが正しく掛けられているか確認してください。

ブレーキパッドの摩耗の点検

29 頁（ブレーキオイル － 注意事項）、30 頁（ディスクブレーキ）、45 頁（メンテナンス）をよく読んでください。

初回は 500 km (312 mi) 走行後、2 回目以降は 2000 km (1250 mi) 走行ごとに、ブレーキパッドの摩耗をチェックしてください。

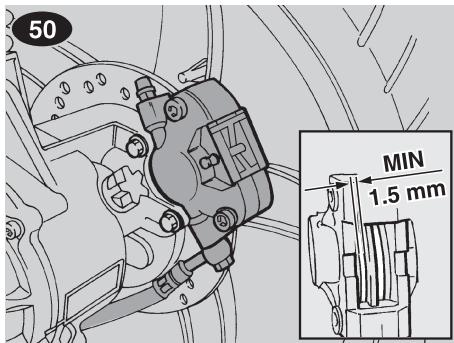
ブレーキパッドの摩耗は使用状況、運転の仕方、道路状態などによって変わります。悪路や濡れた路面を多く走行すると早く摩耗します。

⚠ 危険

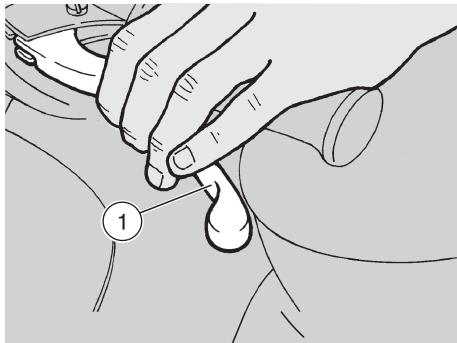
走行前には毎回、必ずブレーキパッドの摩耗を点検してください。

ブレーキパッドの摩耗を簡単にチェックするには次のようにしてください：

- ◆ センタースタンドを使って、車体を堅い平らな地面に立てます。
- ◆ ブレーキキャリパーのカバー (1) を取り外します。
- ◆ ブレーキディスクとパッドのあいだを目で点検します。

⚠ 危険

摩擦材が限度をこえて摩耗すると、ブレーキパッドの金属製ホルダーが直接ディスクに触れ、その結果ブレーキングの際に金属音や火花が発生します。また、制動力が弱まり危険な他、ディスクにも損傷を与えます。

- ◆ 摩擦材が 1.5 mm 程度の厚さまでに摩耗している場合は（片方だけ摩耗している場合でも）双方のパッドを交換してください。

⚠ 危険

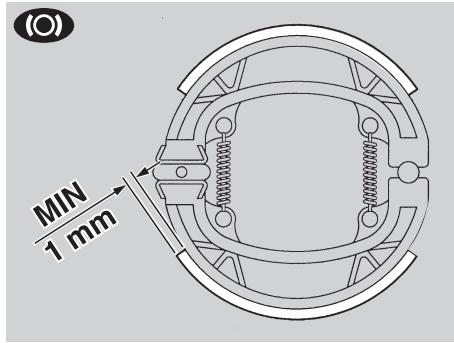
ブレーキパッドの交換は aprilia 正規ディーラーにご相談ください。

ブレーキシューの摩耗の点検

31 頁（リアドラムブレーキ 50 - 100）、45 頁（メンテナンス）をよく読んでください。

初回は 500 km (312 mi) 走行後、2 回目以降は 4000 km (2500 mi) 走行ごとに、リアブレーキシューの摩耗をチェックしてください。
リアブレーキシューの摩耗を次の要領で点検してください：

50

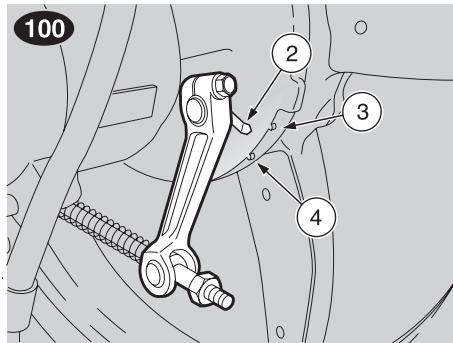
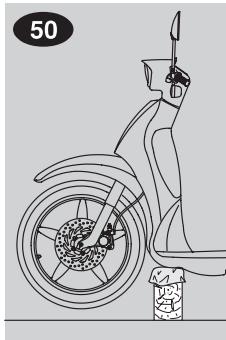
◆ リアホイールを取り外します。52 頁（リアホイール）参照。
◆ この時点で摩擦材の厚さを確認できます。必ず 1 mm 以上である必要があります。

最小許容厚さまで摩耗している場合、何らかの異常を感じる場合、損傷した部分がある場合などは交換が必要ですので、**aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。

100

◆ リアブレーキレバー (1) をいっぱいに引いた状態にしておきます。
◆ リアブレーキシューの摩耗度を示す指針 (2) の位置を確認します。

指針の位置	摩耗度
指針が基準点(3)と(4)の間を指している。	リアブレーキシューの摩耗は限度内。
指針が基準点(4)かそれより下を指している。	リアブレーキシューが限界以上に摩耗している。 交換が必要。

危険

リアブレーキシューの摩耗度を示す指針 (2) が基準点 (4) かそれより下を指す場合は、リアブレーキシューの交換が必要ですので aprilia 正規ディーラーにご相談ください。

フロント及びリアサスペンションの点検

45 頁 (メンテナンス) をよく読んで下さい。

初行 500 km（312 mi）その後 4000 km (2500mi) ごとに、全部品の締め付け具合と、フロントおよびリアサスペンションの接合部の機能を点検します。

注意

フォークの動きに異常を感じたり専門技術者の助けが要るときは aprilia 正規ディーラーにご相談ください。

ステアリングの点検

45 頁（メンテナンス）をよく読んでください。

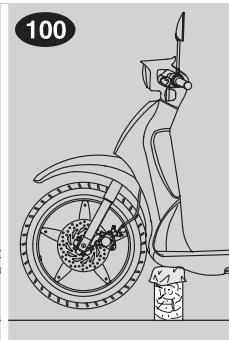
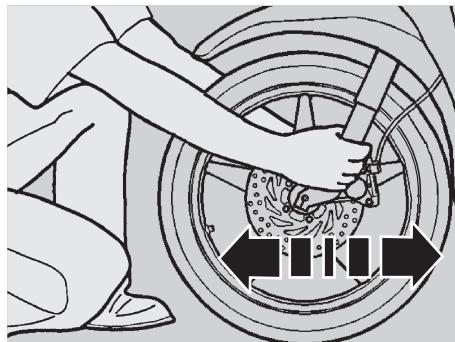
ときどき点検を行って、ハンドルにがたつきがないか確認してください。

ステアリングの点検は次の要領で行なってください：

- ◆ センタースタンドを使って、車体を堅い平らな地面に立てます。

重要：支持面 200 x 200 mm、50 用には高さ 200 mm、100 用には高さ 230 mm の支持台を用意してください。

⚠ 注意

車体が安定していることを確認してください。

- ◆ 支持台の上にクッションとなる布などを置いてその上に車体を乗せ、フロントホイールが自由に回るように浮かせます。転倒しないようしっかりと乗せてください。
- ◆ フォークを前後に揺すってみてステアリングのがたつきを点検します。

重要：強く揺すり過ぎるとスタンドがぐらついて、ステアリングのがたつきかどうか正確な判定ができなくなります。
上記の点検を数回繰り返します。

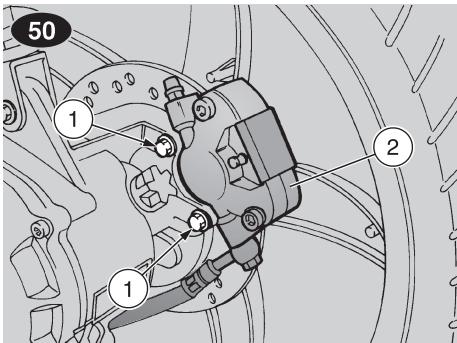
- ◆ 明らかにがたつきがある場合にはaprilia正規ディーラーにご相談ください。ステアリングを最適な状態に戻す作業を行ないます。

エンジンマウントシャフトの点検

45 頁（メンテナンス）をよく読んでください。

エンジンマウントシャフトとそのブッシュ間にがたつきがないか定期的に点検してください。

この点検は次の要領で行なってください：

- ◆ センタースタンドを使って、車体を堅い平らな地面に立てます。
- ◆ ホイールを左右に揺すって、がたつきを点検します。
- ◆ がたつきが見られる場合にはaprilia正規ディーラーにご相談ください。ステアリングを最適な状態に戻す作業を行ないます。

リアブレーキキャリパーの取り外し 50

45 頁（メンテナンス）をよく読んでください。

⚠ 注意

取り外しの際は、ブレーキパイプ、ディスク、パッド等に損傷を与えないように注意してください。

- 堅い平らな床面にセンタースタンドを使って車体を立てます。
- 2 本のネジ (1) を回して取り外します。

ブレーキキャリパー固定ネジ (1) 規定締め付けトルク：27 Nm (2.7 kgm)

⚠ 危険

ブレーキキャリパーを再度取り付ける際には、2 本のブレーキキャリパー固定ネジ (1) を同じタイプの新品と交換してください。

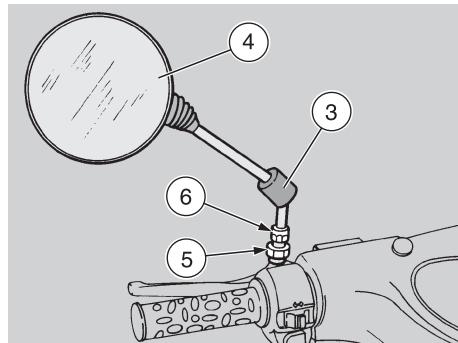
⚠ 注意

ブレーキキャリパーを取り外した後はリアブレーキレバーを引かないでください。キャリパーピストンが外れてブレーキオイルが流れ出ることがあります。

そのような場合にはaprilia 正規ディーラーにご相談ください。適切な整備を行ないます。

- ブレーキキャリパー (2) をブレーキディスクから慎重に抜き取って外します。

⚠ 危険

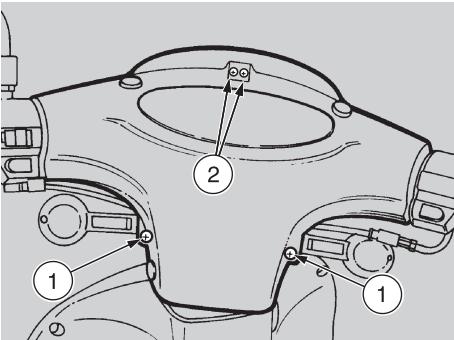
再度取り付けの後、リアブレーキレバーを繰り返し引いてみて、ブレーキ系統が正しく動作することを確認してください。

バックミラーの取り外し

45 頁（メンテナンス）をよく読んでください。

- 堅い平らな床面にセンタースタンドを使って車体を立てます。
- 保護チューブ (3) を上方へずらします。

⚠ 注意

バックミラー (4) が落ちないように支えておいてください。

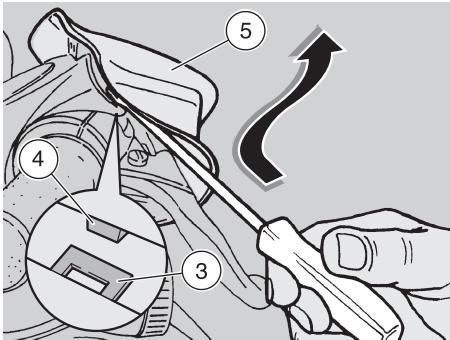
- ネジ (5) が回らないよう固定しながらナット (6) を完全に緩めます。
- バックミラー (4) を取り外します。

前方ハンドルカバーの取り外し

45 頁（メンテナンス）をよく読んでください。

◆ 堅い平らな床面にセンタースタンドを使って車体を立てます。
◆ 2 本のネジ (1) を回して取り外します。
◆ 2 本のネジ (2) を回して取り外します。

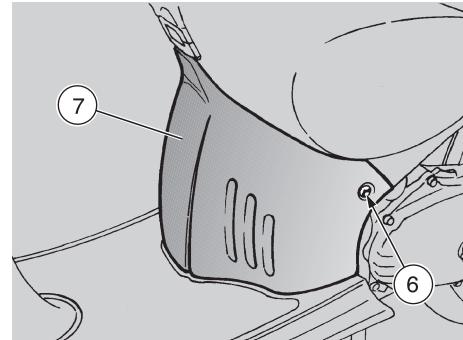
⚠ 注意

突起 (4) のはめ込み部分 (3) を損傷しないよう、作業は慎重に行なってください。

◆ ★ 小型のマイナスドライバーを使って、前方ハンドルカバー(5)の内側にある嵌合用の突起 (4) を持ち上げます。
◆ ★ハンドルカバーの下部についても同様に行ないます。

⚠ 注意

プラスチック部品や塗装部品は、掻き傷をつけたり割ったりしないよう慎重に扱ってください。

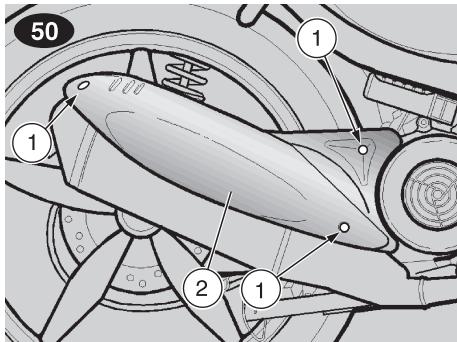
◆ 前方ハンドルカバー(5) を取り外します。このとき嵌合用の突起を折らないよう特に注意してください。

重要：再度取り付けの際は、嵌合用突起を元の位置に正しく挿入してください。

点検用カバーの取り外し

45 頁（メンテナンス）をよく読んでください。

⚠ 注意

塗装部品は掻き傷をつけたり割ったりしないよう慎重に扱ってください。

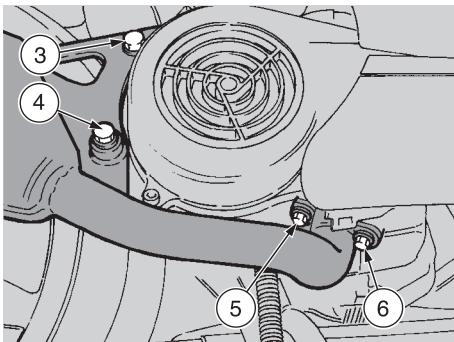
◆ 堅い平らな床面にセンタースタンドを使って車体を立てます。
◆ ★ ネジ (6) を回して取り外します。
◆ 点検用カバー(7) を取り外します。

マフラーの取り外し

45 頁（メンテナンス）をよく読んでください。

◆ 堅い平らな床面にセンタースタンドを使って車体を立てます。

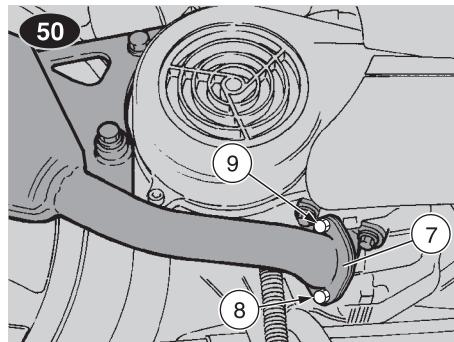
⚠ 危険

火傷の危険がありますので、エンジンおよびマフラーが室温に戻るまで冷ましてから以下の作業を始めてください。

◆ 3 本のネジ (1) を回して取り外します。
◆ 保護カバー (2) を取り外します。

◆ マフラーをエンジンに固定している 2 本のネジ (3) および (4) を回して取り外します。

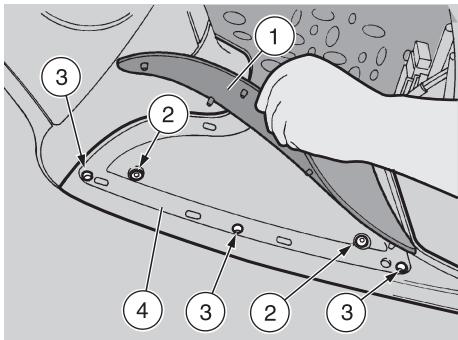
ネジ (3) および (4) の規定締め付けトルク：25 Nm (2.5 kgm)

⚠ 注意

補助フランジ (7) が付いている場合は：ネジ (8) および (9) はそのままにして、以下の作業を行なってください。

◆ ネジ (5) および (6) を回して取り外します。

ネジ (5) および (6) の規定締め付けトルク：12 Nm (1.2 kgm)

◆ マフラーを取り外します。

重要：再度取り付けの際には、排気の集気管とマフラーの間のパッキンを新しいものに交換してください。

フットレストの取り外し

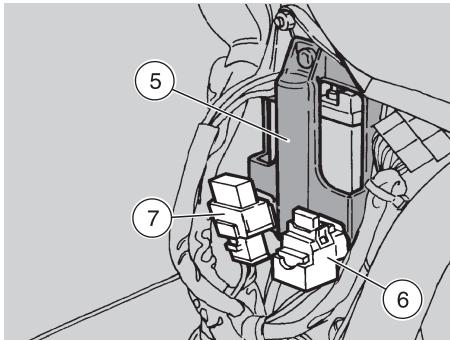
45 頁（メンテナンス）をよく読んでください。

◆ 点検用カバーを取り外します。60 頁（点検用カバーの取り外し）参照。
◆ フットレストマット(1)を取り外します。
◆ ★2 本のネジ(2)を回して取り外します。
◆ ★3 本のネジ(3)を回して取り外します。

⚠ 注意

作業は慎重に行なってください。

嵌合用の突起やスリットを損傷しないよう注意してください。

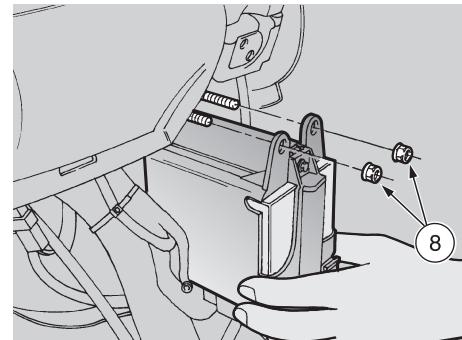
◆ フットレスト（4）の後部を少しだけ持ち上げ、内側シールドの基部から抜き取ります。

⚠ 注意

下部シールドは前方の 2本のネジだけでフレームに取り付けられていますので、強い力をかけないでください。

重要：再度取り付けの際には、まず中央の 2 個の突起、続いて側縁の突起を挿入してください。

3 本のネジ（3）を挿入する際は、フットレストとネジ穴の位置を揃えるよう目で確認してください。

バッテリー保持ケースの取り外し

43 頁（メンテナンス）をよく読んでください。

◆ 点検用カバーを取り外します。60 頁（点検用カバーの取り外し）参照。
◆ バッテリー保持ケース(5)から、ヒューズボックスのブロック（6）およびスターターリレーボックスのブロック（7）を取り外します。

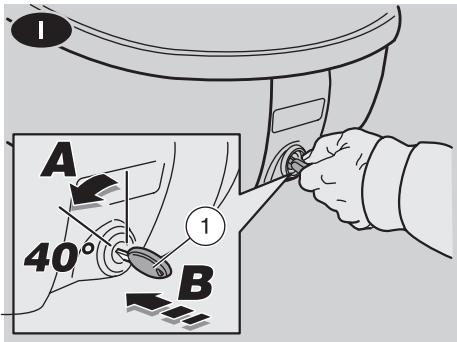
⚠ 注意

塗装部品は掻き傷をつけたり割ったりしないよう慎重に扱ってください。

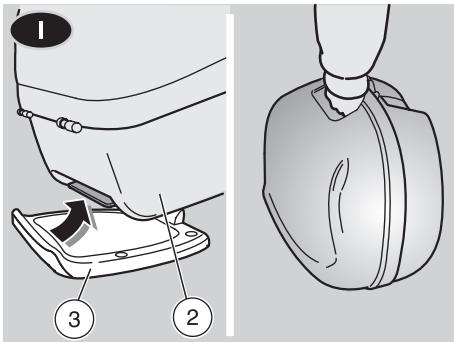
◆ 2 個のナット(8)を回して取り外します。

⚠ 注意

㊿ 作業は慎重に行なってください。バッテリー保持ケースを傾けすぎないよう注意してください。バッテリー液が漏れ出し危険です。

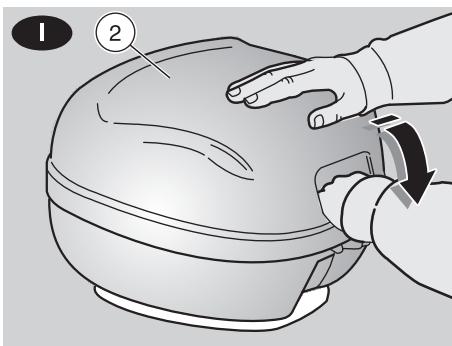
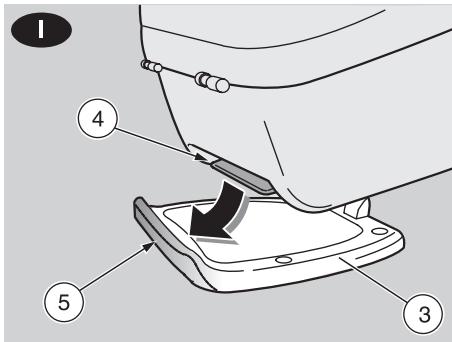
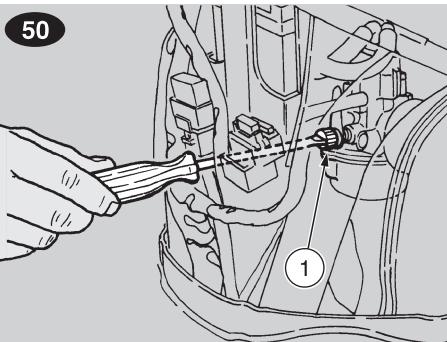
◆ バッテリー保持ケースを（バッテリーごと）抜き取ってフットレストの上に置きます。

ヘルメットケースの取り外し I

45 頁（メンテナンス）をよく読んでください。

- ◆ センタースタンドを使って車体を立てます。
- ◆ キー（1）を鍵穴に差し込み、反時計方向に角度40度ほど回します（位置 A)。
- ◆ キー(位置 B)を押して、ヘルメットケース(2)を台 (3)からはずします。
- ◆ キー（1）を中央の元の位置に戻して抜き取ります。
- ◆ ヘルメットケース（2）を取り外します。

再度装着するには：

- ◆ ヘルメットケースの開閉部 (4) を台にある所定の挿入部(5) に挿入します。
- ◆ ヘルメットケース（2）を下方に押して鍵をかけます。

⚠ 危険

車体の走行を始める前に、ヘルメットケースがきちんと車体に装着されているか確かめてください。

アイドリングの調整

45 頁（メンテナンス）をよく読んでください。

走行距離が 500 km (312 mi) に達した時点、またアイドリングが不規則なときにはアイドリングの調整を行なってください。

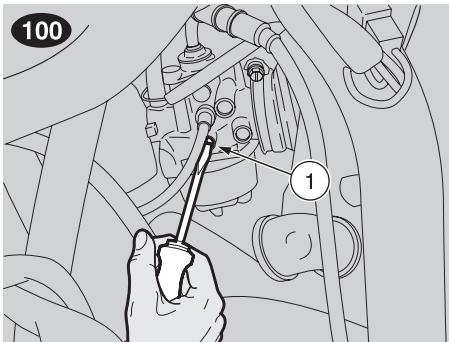
アイドリングの調整は次の要領で行なってください：

- ◆ エンジンを通常の走行温度まで温めるために数キロ程度走行します。その後エンジンを停止します。
- ◆ 点検用カバーを取り外します。60頁(点検用カバーの取り外し)参照。
- ◆ スパークプラグのケーブルに電子式回転速度計を接続します。

⚠ 危険

作業を開始する前に作業場の換気を確認してください。

- ◆ エンジンを始動します。

50

アイドリング時の標準エンジン回転数は 1800 ± 100 rpm です。このエンジン回転数ではリアホイールは回転しません。

100

アイドリング時の標準エンジン回転数は 1400 ± 100 rpm です。このエンジン回転数ではリアホイールは回転しません。

調整が必要な場合は：

- ◆ キャブレターについているアイドリング調節ネジ(1)で調整します。

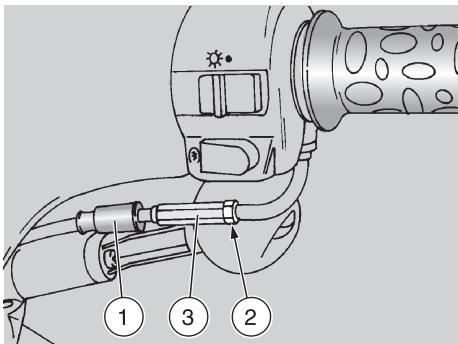
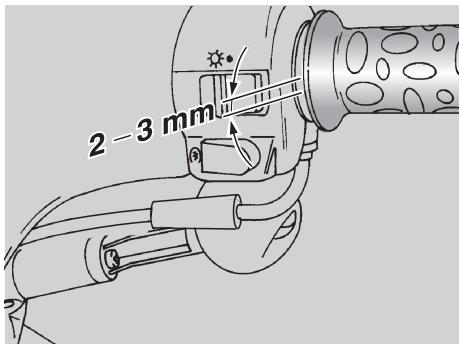
締め込む方向（時計回り）に回すと回転数が上がります。

緩める方向（反時計回り）に回すと回転数が下がります。

- ◆ スロットルグリップを回して加速と減速を数回繰り返し、正常に機能しているか、アイドリングの回転数が常に一定かどうか確認してください。

重要：空気調節ネジは回さないでください。キャブレターの調整を狂わせます。

⚠ 注意

必要な場合は aprilia 正規ディーラーにご相談ください。

スロットルケーブルの調整

45 頁 (メンテナンス) をよく読んでください。

スロットルケーブルの遊びは **2 〜 3 mm** が適当です。グリップ上で測定してください。

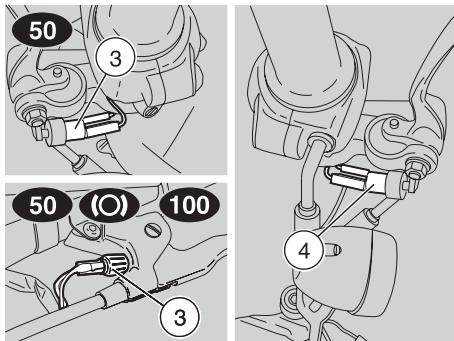
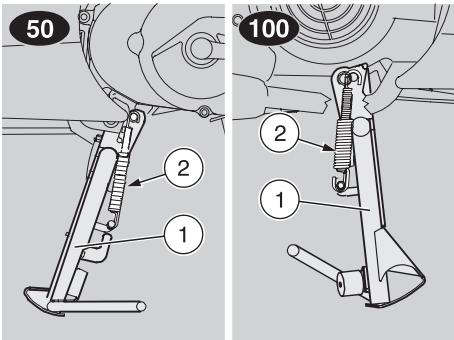
遊びの調整は次の要領で行なってください：

- ◆ センタースタンドを使って、車体を堅い平らな地面に立てます。
- ◆ 保護チューブ (1) をずらします。
- ◆ ロックナット (2) を回しアジャスターを解放します。
- ◆ スロットルケーブルの頭の方にあるアジャスター (3) で調整します。

調整が終わったら：

- ◆ ロックナット (2) を回し (緩める方向) アジャスター (3) をロックします。保護チューブ (1) を元どおりかぶせます。

⚠ 危険

遊びを調整した後は、ハンドルをどの角度に回してもアイドリング回転数が常に一定であること、また、スロットルグリップは手を離すとスムーズに定位置に戻ることを確認してください。

サイドスタンドの点検

45 頁 (メンテナンス) をよく読んで下さい。

サイドスタンド (1) はひっかかりなどがなくスムーズに回らなければなりません。

以下の点検を行なってください :

- ◆ スプリング (2) に損傷、摩耗、錆び、劣化などがないか点検します。
- ◆ サイドスタンドがスムーズに回るか確認します。必要な場合はジョイント部の潤滑を行なってください。84 頁 (指定油脂類表) 参照。

マイクロスイッチ類の点検

45 頁(メンテナンス) をよく読んでください。

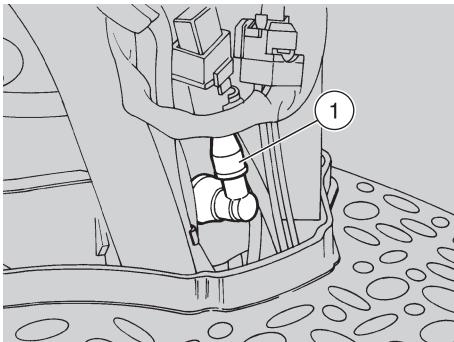
このモーターサイクルには次の 2 つのマイクロスイッチが付いています :

– リアブレーキペダル上のストップライト・マイクロスイッチ (3)。
– フロントブレーキレバー上のストップライト・マイクロスイッチ (4)。

スイッチ系統に触れるには :

- ◆ フロントのハンドルカバーを外します。60 頁（前方ハンドルカバーの取り外し）参照。

定期的に以下の点検を行ないます :

- ◆ マイクロスイッチが汚れていたり泥にまみれていないか点検してください。マイクロスイッチがスムーズに動き、自然に元の位置に戻るか確認してください。
- ◆ ケーブルが正しく接続されているか確認してください。

スパークプラグ

45 頁 (メンテナンス) をよく読んでください。

初回は 500 km (312 mi) 走行後、2 回目以降は 4000 km (2500 mi) 走行ごとにスパークプラグを点検してください。また 8000 km (5000 mi) 走行ごとに交換してください。

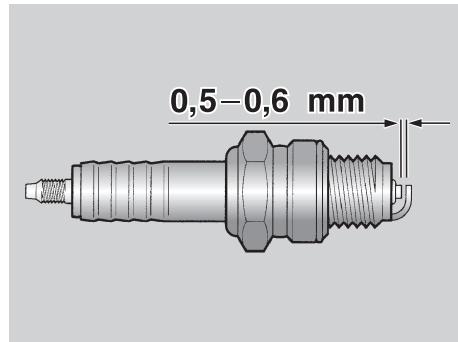
定期的にスパークプラグを取り外して付着したカーボンなどを取り除き、必要な場合は交換してください。

スパークプラグを取り出すには：

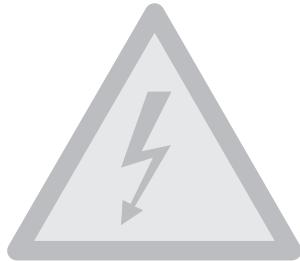
- ◆ 点検用カバーを取り外します。60頁(点検用カバーの取り外し) 参照。

スパークプラグの取り外しと清掃：

- ◆ スパークプラグからキャップ (1) を取り外します。
- ◆ スパークプラグベースのあらゆる汚れを落としてから、工具キットにあるプラグレンチを使ってスパークプラグを回して取り出します。このときシリンダー内に埃や異物が入らないように注意してください。
- ◆ 電極と中央碍子部にカーボンや錆が付着していないか確認してください。必要な場合は専用クリーナーと鉄線または金属ブラシを使って清掃してください。
- ◆ 清掃の後は、残った埃などがエンジン内部に入るのを防ぐため、空気を強く噴射して吹き飛ばしてください。
  絶縁碍子がひび割れていたり、電極が錆びていたり、カーボンが異常に多く付着している場合はスパークプラグを交換してください。
- ◆ 電極の間隙を隙間ゲージで測定してください。
  電極の間隙は **0.5 ～ 0.6** mm が適当です。調整はアース側電極（外側）を注意深く曲げて行なってください。
- ◆ ワッシャーの状態も点検してください。ワッシャーを取り付け、ネジ山をいためないよう注意深くスパークプラグを手でねじ込んでください。
- ◆ 最後に、工具キットにあるプラグレンチで 1/2 回転させワッシャーを押さえつけます。

スパークプラグ規定締め付けトルク：
20 Nm (2.0 kgm)。

⚠ 注意

スパークプラグがよく締められていないとエンジンがオーバーヒートして重大な損傷を受けることがあります。
必ず推奨タイプのスパークプラグを使用してください。81頁（テクニカルデータ）参照。それ以外のスパークプラグではエンジンの性能が損なわれたり寿命が短くなったりします。

- ◆ スパークプラグにキャップ (1) を元どおり接続します。
- ◆ 点検用カバーを元どおり取り付けます 60 頁（点検用カバーの取り外し）参照。

バッテリー

45頁（メンテナンス）をよく読んでください。

⚠ 危険

火災の危険があります。
電気系構成要素には、燃料及びその他の引火物を近づけないで下さい。

⚠ 注意

バッテリーケーブルの極性を決して逆にしないでください。

バッテリーの取り付け及び取り外しは、イグニッションスイッチを“⊗”の位置にして行ってください。部品を損傷するおそれがあります。
バッテリーケーブルを接続するときは（+）を先に、（－）を後に接続します。
ケーブルを外すときは逆の順序で外します。

50

初回は 500 km (312 mi) 走行後、2回目以降は 4000 km (2500 mi) 走行ごとまたは8ヶ月ごとに、バッテリー液量および端子の締め付け具合を点検してください。

⚠ 危険

バッテリー液は硫酸を含んでいるため毒性と腐食性があり、皮膚に触れると火傷する危険があります。バッテリー液を扱う際は防護服、マスク、眼鏡などで身体を保護してください。

バッテリー液が皮膚に付着した場合は直ちに冷水で充分に洗い流してください。

もしも目に入った場合は冷水で 15 分間ほど充分に洗い流した後、直ちに眼科医の診察を受けてください。

誤って飲み込んだ場合は大量の水か牛乳を飲み、続いてマグネシウム乳液または植物オイルを飲んだ後、すぐに医師の診察を受けてください。

バッテリーは爆発性のガスを発生しますので火気、火花、たばこ、その他の熱源などから遠ざけてください。

バッテリー充電中や使用中は室内の換気に注意し、充電中に発生するガスを吸わないように気をつけてください。

バッテリーは子供の手の届かない場所に保管してください。

車体を傾けすぎないよう注意してください。バッテリーから液が漏れ出し危険です。

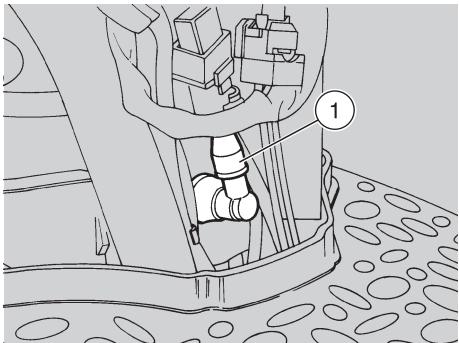
バッテリー液には腐食性があります。

バッテリー液をこぼさないよう、特にプラスチック部品に付着しないように充分注意してください。

100

⚠ 注意

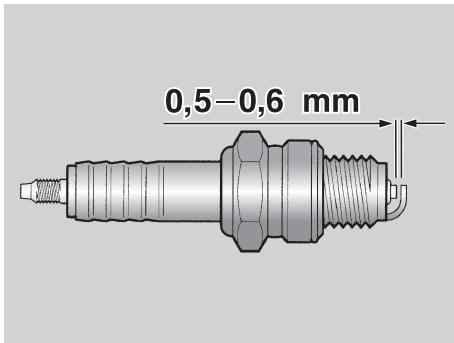
このモデルはメンテナンスフリーのバッテリーを装備していますので、ときおり点検を行ない必要な場合に充電する以外はメンテナンスが不要です。

重要：アシスタンスサービスや技術的アドバイスが必要な場合は**aprilia**正規ディーラーにご相談ください。適切で迅速なサービスをお約束します。

バッテリーを長期間使用しない時

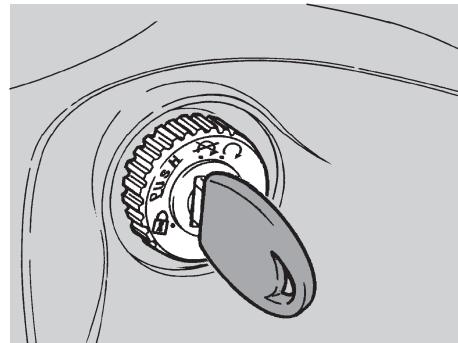
15 日間以上モーターサイクルを使用しない場合は、バッテリーの硫化を防ぐため充電が必要です。71 頁（バッテリーの充電）、参照。

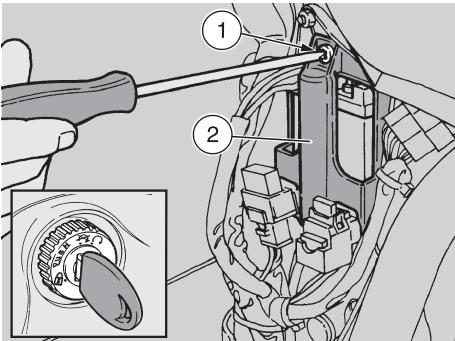
特に冬期や長期間使用しない場合には、バッテリーの劣化を防ぐため定期的に（毎月 1 回程度）バッテリーの充電状態を点検し充電してください。

◆ 通常の充電方式で充電します。
71 頁（バッテリーの充電）、参照。

モーターサイクルに搭載したままの場合は、バッテリーケーブルを電極から外してください。

ターミナルおよび電極の点検と清掃

68 頁（バッテリー）をよく読んでください。

◆ バッテリーを取り外します（部分取り外し）。70 頁（バッテリーの取り外し）参照。
◆ バッテリーケーブルのターミナル (2) およびバッテリーの電極 (1) について次の点を確認してください：
– 損傷などがなく良い状態であること。（また、錆や付着物がないこと。）
– 中性グリースまたはワセリンで保護されていること。

清掃が必要な場合は次の要領で行なってください：

◆ イグニッションスイッチが“⊗”の位置になっていることを確認してください。
◆ バッテリーケーブルを、先ず (-)、続いて（赤）(+) の順に外します。
◆ 金属ブラシを使って錆び、付着物などをよく落としてください。
◆ バッテリーケーブルを、先ず（赤）(+)、続いて (-) の順に元どおり接続します。
◆ ターミナルおよび電極に中性グリースまたはワセリンを塗布します。
◆ バッテリーを元どおり取り付けます。71 頁（バッテリーの取り付け）参照。

バッテリーの取り外し

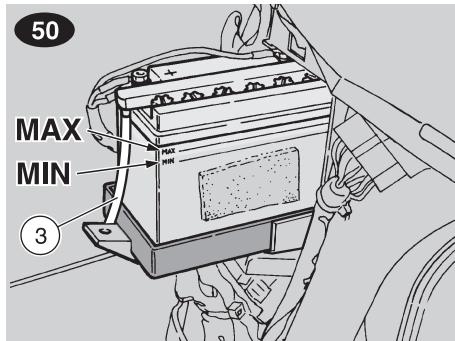
68頁(バッテリー)をよく読んでください。

部分取り外し

◆ イグニッションスイッチが“○”の位置になっていることを確認します。
◆ 点検用カバーを取り外します。60頁(点検用カバーの取り外し)参照。
◆ ネジ(1)を回して取り外します。
◆ バッテリーカバー(2)を下方へ回します。

⚠ 注意

バッテリーは配線ケーブルに接続されています。取り外しの際はケーブルを引っ張らないよう注意してください。

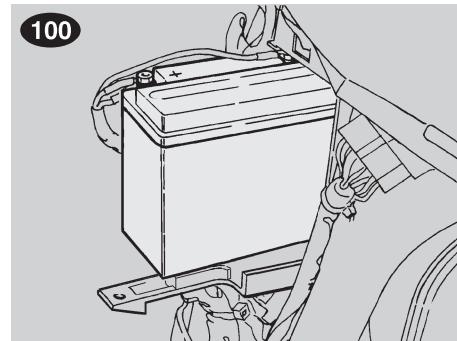
◆ バッテリー保持ケースからバッテリーを取り出します。

完全取り外し

◆ バッテリーケーブルを、先ず(-)、続いて(赤の)(+)の順に外します。
◆ 50 ガス抜きパイプ(3)を外します。
◆ 車体からバッテリーを取り出し、水平な台の上などに置きます。涼しく乾燥した場所を選んでください。

⚠ 危険

取り出したバッテリーは安全で子供の手の届かない場所に保管してください。

バッテリー液量の点検 50

68頁(バッテリー)をよく読んでください。

◆ バッテリーを取り外します(部分取り外し)。70頁(バッテリーの取り外し)参照。
◆ バッテリー液の液面が側面の目盛り“MIN”と“MAX”の間にあるか確認します。
液が減っている場合は:
◆ バッテリーの各キャップを回して外します。

⚠ 注意

バッテリー液を補充するには必ず蒸留水のみを加えます。また、決して“MAX”の目盛り以上に入れないでください。充電中に液面が上昇します。

◆ 液面が適正になるよう蒸留水を補充します。

⚠ 注意

補充し終わったら、各キャップを正しい位置に取り付けて下さい。

◆ 各キャップを再び取り付けます。

バッテリーの充電

68頁(バッテリー)をよく読んでください。

◆ バッテリーを取り外します（完全取り外し)。70頁(バッテリーの取り外し)参照。
◆ 適切な充電器を準備します。

100

重要：バッテリー液栓は外さないでください。バッテリーに損傷を与えます。

50

◆ バッテリー液栓を回して取り外します。
◆ バッテリー液量を点検します。70頁(バッテリー液量の点検 50)参照。

◆ バッテリーを充電器に接続します。

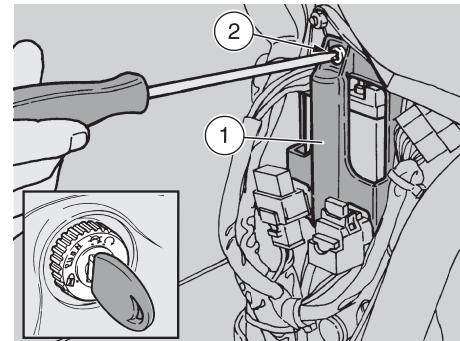
重要：充電器の電流容量はバッテリー容量の 1/10 程度のものをお薦めします。

◆ 充電器の電源を入れます。

50

◆ 充電完了後もう一度バッテリー液量を点検し、不足している場合は蒸留水を補充します。
◆ バッテリー液栓を元どおり閉めます。

⚠ 注意

充電後もしばらくの間ガスが発生し続けますので、バッテリーは充電器から取り外した後 5～10 分程度待ってから取り付けてください。

バッテリーの取り付け

68頁(バッテリー)をよく読んでください。

◆ イグニッションスイッチが“⊗”の位置になっていることを確認します。
◆ バッテリーを車体に戻します。

50

◆ ガス抜きパイプを元どおり接続します。

⚠ 注意

ガス抜きパイプは必ず接続してください。バッテリーから発生する硫酸ガスで電気系統、塗装部分、ゴム製部品、ガスケットなどが腐食するのを防ぐためです。

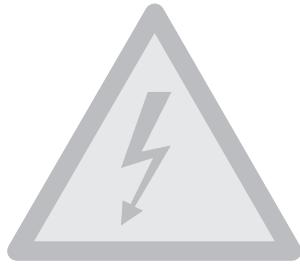
通気孔の管は、つぶれていない状態で接続されている必要があります。そうでないと、バッテリー内部の圧力を上昇させ、バッテリーを損傷させる危険性があります。

◆ バッテリーケーブルを、先ず（赤の）(+)、続いて (-) の順に元どおり接続します。
◆ ターミナルおよび電極に中性グリースまたはワセリンを塗布します。

⚠ 注意

再度取り付けの際には、配線ケーブルが押しつぶされないよう正しい位置に通してください

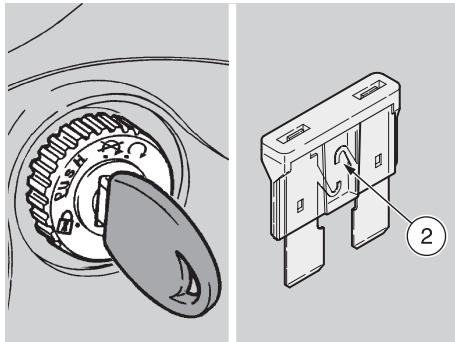
バッテリーケーブル（－）はバッテリーケーブル（＋）の固定部の上に乗るのではなく、その横、バッテリーとケースの間に位置するようにします。

◆ バッテリーをバッテリーケースの中に押しこみます。
◆ バッテリーカバー (1) を閉じます。
◆ ネジ (2) を元どおり締めます。
◆ 点検用カバーを元どおり取り付けます。60 頁（点検用カバーの取り外し）参照。

ヒューズの交換

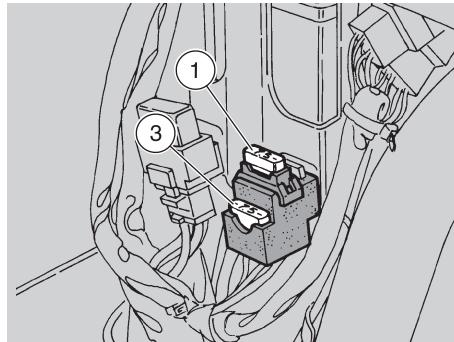
45頁(メンテナンス)をよく読んでください。

⚠ 注意

欠陥のあるヒューズは修理しないでください。推奨品以外のヒューズは使わないでください。
不適当なヒューズを使用すると電気系統の故障だけでなくショートした場合には火災の原因にもなります。

重要：ヒューズが頻繁に切れる場合は電気系統にショートしているか過負荷になっている箇所があります。そのような場合は **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。

電気部品が作動しなかったり作動が不規則な場合、またはエンジンの始動ができない場合はヒューズを点検する必要があります。

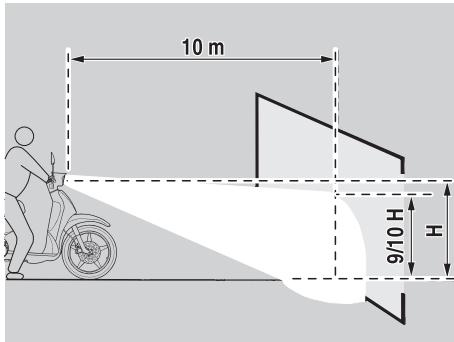
ヒューズの点検は次の要領で行ないます：

◆ 予期しないショートを避けるため、イグニッションスイッチを"⊠"の位置にします。
◆ 点検用カバーを取り外します。60頁(点検用カバーの取り外し)参照。
◆ ヒューズ(1)を取り出し、フィラメント(2)が切れていないか点検します。
◆ 切れたヒューズを交換する前に、できるだけ切れた原因を調べてください。

◆ 切れたヒューズを交換する場合は、備え付けのスペアヒューズ(3)もしくは同じ電流容量の新しいヒューズを使ってください。

重要：交換にスペアヒューズ(3)を使用した場合は、新品の同じヒューズを必ずその場所に補充しておいてください。

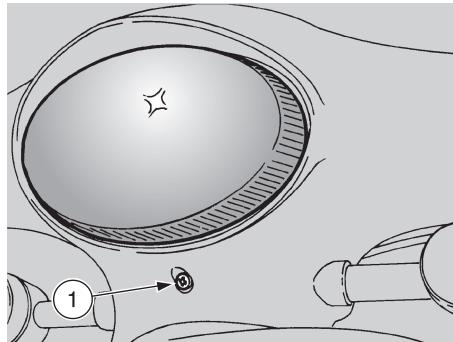
◆ 点検用カバーを再度設置します。60 頁(点検用カバーの取り外し)参照。

ヒューズの遮断回路

7.5 A ヒューズで、バッテリーに続く以下の回路を保護しています：
ライト類を除く全ての電気系統。(ライト類は交流で動作しています。)

ヘッドライトの光軸調整

重要：車体を使用する国の現行の法規定に従って、ヘッドライト調整には特定の作業を行って下さい。

ヘッドライトの光軸を簡単に点検するには、垂直な壁から 10 メートル離れた場所にモーターサイクルを停めます。この間の地面は水平でなくてはなりません。

- 乗車してヘッドライトをロービームにします。光の照射範囲がヘッドライトの高さよりもやや下（ヘッドライトの地上高の 9/10 程度）を照らしていれば正常です。

ヘッドライト光軸の調整方法：

- 車体をサイドスタンドを使って、安定した平らな地面に立てます。
- ドライバーで調整ネジ（1）を回して調整します。

  締め込む方向（時計回り）に回すと光軸が上向きになります。

  緩める方向（反時計回り）に回すと光軸が下向きになります。

バルブ

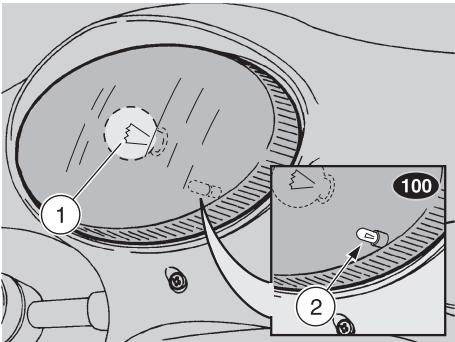
46 頁（定期点検整備表）をよく読んでください。

⚠ 危険

火災の危険があります。
電気系構成要素には、燃料及びその他の引火物を近づけないで下さい。

⚠ 注意

ライトバルブを交換する前にイグニッションスイッチが "⊠" の位置に来ていることを確認し、数分間待ってバルブを冷まします。
また、きれいな手袋をはめるか、きれいな乾いた布でバルブを持つようにしてください。
バルブを指紋などで汚さないでください。バルブの過熱や破裂の原因となります。
バルブに素手で触れた場合はアルコールを使って指紋などの汚れを拭き取ってください。バルブがいたむ原因となります。

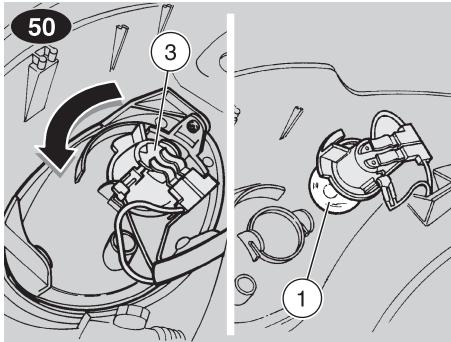
配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。

ヘッドライトバルブの交換

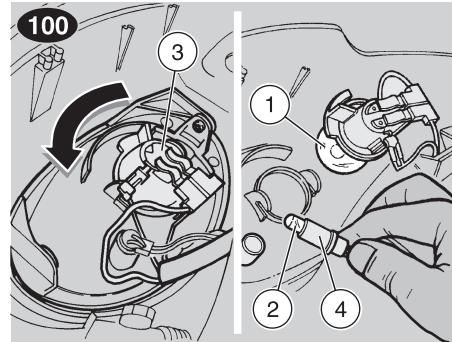
73 頁（バルブ）をよく読んでください。

ヘッドライトには次のバルブが取り付けられています：

– ロー／ハイビームバルブ 1 個（1）;
– 100 パーキングライトバルブ (2)、1 個。

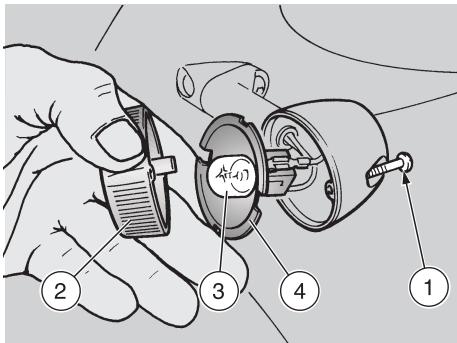
バルブの交換は次の要領で行ないます：

◆ 前方ハンドルカバーを取り外します。60 頁（前方ハンドルカバーの取り外し）参照。

ロー／ハイビームバルブ

◆ バルブソケット (3) を反時計回りに回して取り出します。
◆ ロー／ハイビームバルブ (1) を軽く押しながら反時計回りに回して取り出し、同じタイプの新品と交換します。パーキングライトバルブ

バルブの交換は次の要領で行ないます 100

⚠ 注意

バルブソケットを取り出す際に配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。

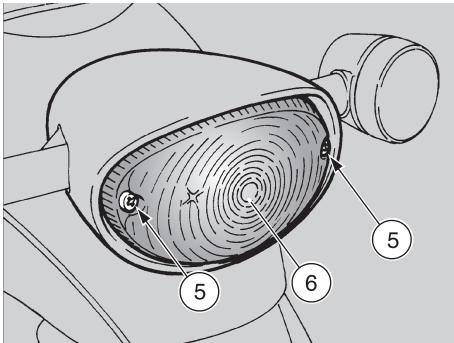
◆ バルブソケット (4) を掴んで抜き取ります。
◆ パーキングライトバルブ(2)を抜き取り、同じタイプの新品と交換します。

フロントおよびリア・ウインカーライトのバルブの交換

73 頁 (バルブ) をよく読んでください。

◆ スタンドを使って車体を立てます。
◆ ネジ (1) を回して取り外します。

重要 ：保護カバーを取り外す際は、嵌合用の突起を損傷しないよう注意してください。

◆ 保護カバー (2) を取り外します。

重要 ：再度取り付けの際には、保護カバーを元どおりに正しく取り付けてください。
保護カバーを損傷しないよう注意しながら、ネジ (1) を適度に締めます。
◆ バルブ (3) を軽く押し込んで反時計回りに回します。
◆ バルブ (3) を取り出します。

重要 ：2 本のガイドピンがバルブソケットのガイドに合うようにバルブを挿入してください。
◆ 同じタイプの新品を正しく取り付けます。

重要 ：バルブソケット (4) が取り付け位置から外れてしまった場合は、切り欠き部分がネジ位置に合うよう正しく入れ直してください。

テールライトバルブの交換

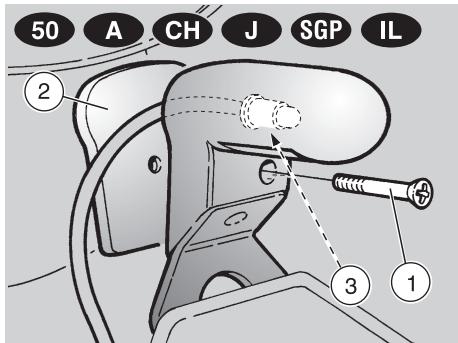
73 頁 (バルブ) をよく読んでください。

バルブの交換は次の要領で行ないます：

◆ 2 本のネジ (5) を回して取り外します。

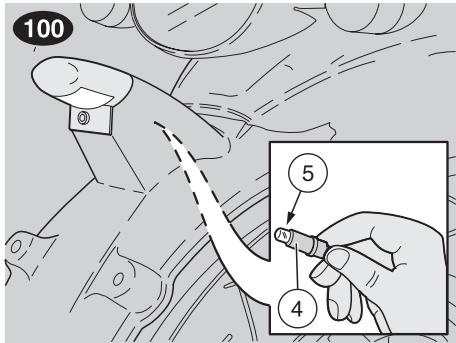
重要 ：テールレンズを取り外す際は嵌合用の突起を損傷しないよう注意してください。
◆ テールレンズ (6) を取り外します。
◆ バルブを軽く押し込んで反時計回りに回します。
◆ バルブを取り出します。

重要 ：2 本のガイドピンがバルブソケットのガイドに合うようにバルブを挿入してください。
◆ 同じタイプの新品を正しく取り付けます。

重要 ：再度取り付けの際には、テールレンズを元どおりに正しく取り付けてください。
テールレンズを損傷しないよう注意しながら、ネジ (5) を適度に締めます。

ナンバープレートライトの バルブの交換 50 A CH J SGP IL

73 頁 (バルブ) をよく読んでください。

バルブの交換は次の要領で行ないます：

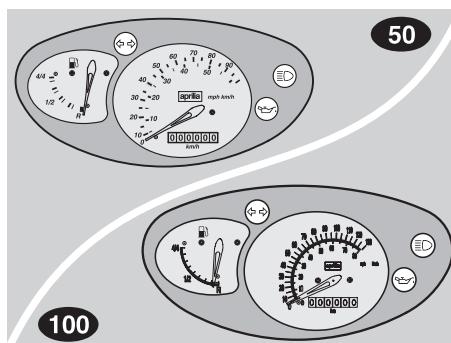
◆ ネジ (1) を回して取り外します。
◆ カバー (2) を取り外します。
◆ ゴム製のバルブソケット (3) を取り出します。
◆ バルブを抜き取ります。
◆ 逆の手順で、新品を正しく取り付けます。

ナンバープレートライトのバルブの交換 100

73 頁 (バルブ) をよく読んでください。

⚠ 注 意

バルブソケットを取り出す際、配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。

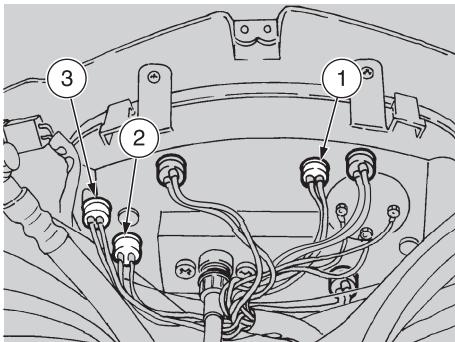
◆ フェンダー内側の下方から、バルブソケット（4）を手で引張って外します。
◆ バルブ (5) を抜き取り同じタイプの新品と交換します。

重 要：再度取り付けの際には、バルブソケット（4）が正しい位置に挿入されているか確かめて下さい。.

メーターパネルのバルブの交換

73 頁（バルブ）をよく読んでください。

メーターパネルには次のバルブが取り付けられています：
– インジケーター類のバルブ；
– メーターパネルライトのバルブ。

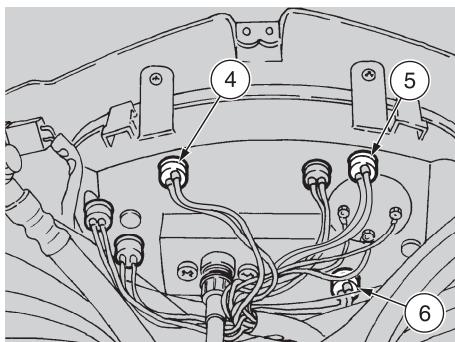
バルブの交換は次の要領で行ないます：

◆ 前方ハンドルカバーを取り外します。60 頁 (前方ハンドルカバーの取り外し) 参照。

インジケーター類のバルブ

重要：再取り付けの際の入れ間違いを避けるため、バルブソケットは一度に一つずつ取り出してください。

◆ 交換が必要なバルブのソケットを取り出します：

位置	インジケーター	色
1	ウィンカーライト ・インジケーター (⇦⇨)	グリーン
2	エンジンオイル 警告灯 (油)	レッド
3	ハイビーム ・インジケーター (≣D)	ブルー

◆ バルブを抜き取り同じタイプの新品と交換します。

メーターパネルライトのバルブ

⚠ 危険

再取り付けの際の入れ間違いを避けるため、バルブソケットは一度に一つずつ取り出してください。

◆ 照度の落ちてきたメーターパネルライトのバルブソケットを取り出します：

位置	照明範囲
4	右上部
5	左上部 (*)
6	右下部

(*) 車体のバージョンによっては、このバルブは装備されていません。

◆ バルブを抜き取り同じタイプの新品と交換します。

輸送の際の注意事項

⚠ 危険

モーターサイクルを運搬する際は、事前に燃料タンクとキャブレターを完全に空にし乾燥させる必要があります。78頁（燃料タンクのガソリン排出）参照。

移動の最中、車体は垂直位置を維持し、しっかり固定されていなければなりません。ガソリン、オイル、冷却液のもれを防ぐためです。

⚠ 危険

故障したモーターサイクルは、路上をけん引せず専用の運送車で運搬してください。

燃料タンクのガソリン排出

26 頁（燃料）をよく読んでください。

⚠ 危険

火災の危険があります。
エンジンとマフラーが完全に冷えるまで待ってから作業を始めてください。
燃料の気化ガスは健康に有害です。

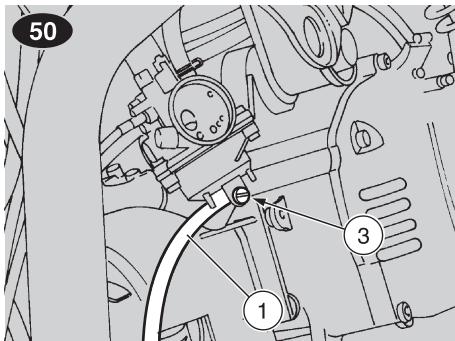
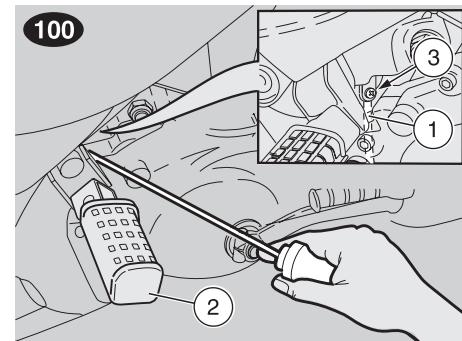
作業を開始する前に作業場の換気を確認してください。
燃料の気化ガスを吸い込まないよう注意してください。
作業場では煙草を吸ったり裸火を扱ったりしないでください。

環境保護のため燃料は適切に処理してください。

- ◆ センタースタンドを使って、車体を堅い平らな地面に立てます。
- ◆ エンジンを止めて完全に冷えるのを待ちます。
- ◆ 燃料タンクに残っているガソリンを受けるため充分な大きさの容器を用意し、モーターサイクルの左下に置きます。
- ◆ 燃料タンクキャップを取り外します。
- ◆ 手動のポンプなどを使って燃料タンクを空にします。

⚠ 危険

燃料タンクが空になったら、キャップを正しい位置に再び取り付けて下さい。

- ◆ 燃料タンクキャップを再び締めます。

キャブレターを完全に空にするためには：

- ◆ 50 エアクリーナーのフィルターケースを取り外します。51 頁（エアクリーナーの取り外し 50）参照。

- ◆ ブリザーパイプ（1）の先端に適当な容器を置きます。

——— 100 ———

- ◆ パッセンジャー用フットレスト左側（2）を開きます。
- ◆ 車体の左側から操作して、フットレストとエンジンの間にドライバーを差し込みます。

- ◆ フロート室の下にあるドレンプラグ（3）を緩めてキャブレター内のガソリンをブリザーパイプより抜きます。

キャブレター内のガソリンが全て排出されたら：

- ◆ ドレンプラグ(3)をしっかりと締めます。

⚠ 危険

ドレンプラグ (3) はしっかりと締めてください。締め忘れると次にガソリンを入れたときにキャブレターからガソリンが漏れ出します。

必要な場合は aprilia 正規ディーラーにご相談ください。

次のような特殊な地域や条件下でモーターサイクルを使用した場合は頻繁に清掃を行なってください：

- 環境汚染地域（市街地、工場地区）。
- 塩分や湿度の高い地域（海辺、高温、高湿の気候）。
- 環境／季節による特殊条件の地域（冬季は道路に塩や凍結防止剤を撒く地域）。
- 車体に産業塵芥、汚染物質、タール、昆虫の死骸、鳥の糞などを残さないよう注意してください。
- 木の下には駐車しないようにしてください。季節によっては車に落ちる樹脂、木の実、葉などに含まれる物質で塗装を傷めることがあります。

⚠ 危険

洗車後は摩擦面に残った水のせいでブレーキの効きが悪くなることがあります。事故防止のため早めにブレーキをかけるようにしてください。正常な状態に戻すためにはブレーキ操作を繰り返し行なってください。

また、走行前には必ず予備点検を行なってください。**35 頁（走行前の点検）参照。**

塗装面に付着した埃や泥を落とすには弱い圧力で水を噴射して汚れた部分を充分に濡らした後、水で薄めた洗剤（水の 2 ～ 4 %）に洗車用の柔らかいスポンジを浸して泥や汚れを拭き取ります。
さらに水で充分すすぎ落としてからセーム皮などで水分を拭き取ります。

エンジンの外部は油落とし、ブラシ、スポンジ、布などを使って清掃してください。

⚠ 注意

ライト類の洗浄は、中性洗剤及び水を含ませたスポンジで表面を丁寧にこすり、水で充分にすすいで下さい。
シリコンワックスで磨き上げるときは、よく洗車・乾燥した後にしてください。

日光のあたる場所、特に夏の暑い日差しの下で車体が熱くなっている時には洗車しないでください。洗剤が洗い流す前に乾いてしまい塗装を傷めます。

車体のプラスチック部品の清掃には、40 ℃を超える液体は使用しないでください。

⚠ 注意

以下のような部分には高圧で水、空気、蒸気を吹き付けないでください：ホイールハブ、左右ハンドルの各装置、ベアリング、ブレーキポンプ、メーターパネル、マフラー、書類 / 工具入れ、イグニッションスイッチ、燃料タンクキャップ、ライトおよび電気系接続部分。

ゴム及びプラスチック製のパーツ、シート並びにライトの清掃には、アルコールや溶剤は使用せずに、水と中性石けんのみを使用して下さい。

⚠ 危険

滑る危険がありますのでシートには保護ワックスなどを塗らないでください。

長期間使用しない時

長期間使用の予定がない場合は、トラブルを避けるために幾つかの注意が必要です。

また格納前に必要な修理と全般的な点検を必ず行なってください。後日使用するときに忘れてトラブルを起こす原因となります。

次の要領で行なってください：

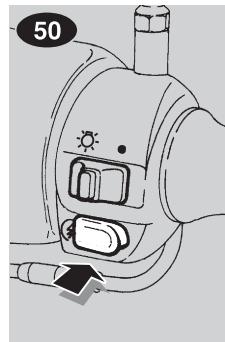
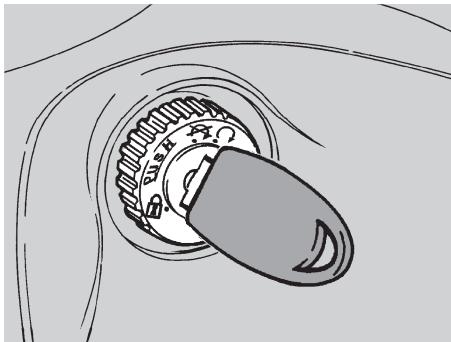
- ◆ 燃料タンクとキャブレターからガソリンを完全に抜きます。78 頁（燃料タンクのガソリン排出）参照。
- ◆ スパークプラグを取り外し、67 頁（スパークプラグ ） ティースプーン 1 杯位（5 ～ 10 cm³）の 2 サイクルエンジン用オイルをシリンダー内に注入します。

重要：オイルのはねを防ぐため、シリンダーの上、スパークプラグの近くに、清潔な布を置いて下さい。

- ◆ イグニッションスイッチを "◯" の位置に回します。スターターボタン "Ⓢ" を数秒間押し続け、オイルがシリンダー内壁に均等に拡がるようにします。
  スパークプラグを元どおり取り付けます。
- ◆ 保護用の布を取り除きます。
- ◆ スパークプラグを取り外します。
- ◆ バッテリーを取り外します。70 頁（バッテリーの取り外し）参照。
- ◆ スクーターを洗い乾かします。79 頁（清掃）参照。
- ◆ 塗装面をワックスで磨きます。

- ◆ タイヤの空気圧を規定どおりにします。32 頁（タイヤ）参照。
- ◆ 車体ホルダーなどを使ってスクーターの両輪を床から浮かせます。
- ◆ 直射日光の当たらない、涼しく乾燥した温度変化の少ない場所に保管してください。
- ◆ 湿気が入らないよう、マフラーの先端にビニール袋などをかぶせて縛ります。
- ◆ スクーターにカバーをかけてください。ただしプラスチックや防水性の材質のものは避けてください。

長期間使用しなかった後では

- ◆ カバーを外しスクーターを清掃します。79 頁（清掃）参照。
- ◆ バッテリーの充電状態を点検します。71 頁（ バッテリーの充電 ）参照。その後、バッテリーをモーターサイクルに搭載します。71 頁（ バッテリーの取り付け ）参照。

- ◆ キャブレターのドレンプラグが完全に締められている（ブリザーパイプが閉じている）ことを確認してください。78 頁（燃料タンクのガソリン排出）参照。
- ◆ 燃料タンクにガソリンを入れます。26 頁（燃料）参照。
- ◆ 走行前の点検作業を行なってください。35 頁（走行前の点検）参照。

⚠ 危険

交通量の少ない場所であまりスピードを上げずに試験走行を行なってください。

テクニカルデータ

寸法・重量	全長	50 1875 mm - 100 1945 mm
	全幅（ブレーキレバーまで）	710 mm
	全高（バックミラーにて）	50 1240 mm - 100 1270 mm
	シート高	50 770 mm - 100 765 mm
	ホイールベース	50 1245 mm - 100 1265 mm
	最低地上高	50 155 mm - 100 150 mm
	車両重量（走行時）	50 79 kg - 100 92 kg
エンジン	モデル	2 サイクル、点火時期制御装置付き
	型式	50 4 MYAP - 100 4 VP mm
	気筒数	水平単気筒
	総排気量	50 49,26 cm^3 - 100 101 cm^3
	ボア / ストローク	50 40 mm / 39,2 mm - 100 52 mm / 47,6 mm
	圧縮比	50 12,5 ± 0,5:1 - 100 10,3:1
	始動方式	セルモーター＋キックペダル
	クラッチ	遠心クラッチ
	変速ギア 50	自動無段変速機
	変速ギア 100	換気扇付き自動継続バリエター
	冷却方式	強制空冷
トランスミッション	変速方式	無段階自動変速
	1 次減速	V ベルト方式
	減速比	最大無段階減速比：50 2,6 - 100 2,15 最小無段階減速比：: 50 0,862 - 100 0,818
	2 次減速	ギア方式
容量等	燃料タンク（リザーブ含む）	7 ℓ
	リザーブタンク	1 ℓ
	ギアオイル	110 cm^3
	エンジンオイル（リザーブ含む）	1 ℓ
	リザーブタンク	0,35 ℓ
	乗車定員 50	1 名（2 名ただし同乗が許可されている国のみ）
	乗車定員 100	2 名
	最大積載量（ライダー＋荷物）	110 kg
	最大積載量(ライダー＋パッセンジャー＋荷物)	185kg（50 ただし同乗が許可されている国のみ）

キャブレター	型式：	
	– 標準品	50 DELL'ORTO PHBN 12 - 100 DELL'ORTO PHVA
	チョークチューブ	50 Ø 12 mm - 100 Ø 16 mm
燃料	燃料 50	ハイオクガソリン DIN 51 600 基準適合品（4 Stars UK)、最低オクタン価 98 (N.O.R.M.) および 88 (N.O.M.M.)
	燃料 50 ✿	ハイオク無鉛ガソリン DIN 51 607 基準適合品、最低オクタン価 95 (N.O.R.M.) および 85 (N.O.M.M.)
	燃料 100	ハイオク無鉛ガソリン DIN 51 607 基準適合品、最低オクタン価 95 (N.O.R.M.) および 85 (N.O.M.M.)
フレーム	型式	一体式ダブルクレードルフレーム
サスペンション	フロント	油圧式テレスコピックフォーク
	ストローク	80 mm
	リア	油圧式モノショックアブソーバー
	ストローク	68 mm
ブレーキ	フロント	ø 220 mm ディスクブレーキ、油圧作動
	リア 50	ø 190 mm ディスクブレーキ、油圧作動
	リア 50 (O)	ø 110 mm ドラムブレーキ、機械作動
	リア 100	ø 130 mm ドラムブレーキ、機械作動
ホイール	リム	軽合金製
	フロント	1,60 x 16"
	リア	1,85 x 16"
タイヤ	フロント	50 2,50 x 16" - 42J - 100 80 / 80 x 16" PIRELLI 40J TLMT15 MANDRAKE CHENG SHIN RUBBER C6101 50J TL
	リア	50 2,75 x 16" - 46J - 100 90 / 80 x 16" PIRELLI 51J TLMT15 MANDRAKE CHENG SHIN RUBBER C6101 54J TL
	標準タイヤ空気圧	
	フロント	180 kPa (1,8 bar)
	リア	220 kPa (2,2 bar)
	2 名乗車時タイヤ空気圧（ただし同乗が許可されている国のみ）	
	フロント	180 kPa (1,8 bar)
	リア	230 kPa (2,3 bar)

イグニッション	型式	C.D.I.
	アドバンス角 50	上死点前 14° ± 2°
	アドバンス角 100	上死点前 14° ± 2°
	標準スパークプラグ	50 NGK BR7 HS - 100 NGK BR8 HS
	スパークプラグ電極間隙	0.5 ～ 0.6 mm
	アイドリング回転数	50 1800 ± 100 giri / min - 100 1400 ± 100 giri / min
電気系統	バッテリー	12 V - 4 Ah
	ヒューズ	7,5 A
	オルタネーター(永久磁石による)	50 12 V - 85 W / 100 12 V - 110 W
	ロー／ハイビームバルブ	12 V - 35/35 W
	パーキングライトバルブ 100	12 V - 5 W (W 2,1 x 9,5 d)
	ウインカーライトバルブ	12 V - 10 W
	リア・パーキング／ストップライトバルブ	12 V - 5/21 W
	ナンバープレートライトバルブ	12 V - 5 W
	メーターパネルライトバルブ	12 V - 1,2 W
	ハイビーム・インジケーター	12 V - 1,2 W
	ウィンカーライト・インジケーター	12 V - 3 W
	エンジンオイル警告灯	12 V - 1.2 W

潤滑油表

トランスミッションオイル（推奨品）： IP F.C.、SAE 75W-90 または Agip GEAR SYNTH,SAE 75W - 90。
推奨オイルの代わりに A.P.I. GL-4 仕様品又はより上級の高品質オイルを使用しても差し支えありません。

エンジンオイル（推奨品）： IP GREEN HIT 2 または Agip CITY 2T。
上記推奨品以外でも、ISO-L-ETC ++, A.P.I. TC ++ 仕様と同等以上の品質のメーカー品オイルを使用しても差し支えありません。

フォークオイル（推奨品）： フォーク用オイル IP F.A. 5W または IP F.A. 20W、
代替品 Agip FORK 5W または Agip FORK 20W。

上記推奨品の中間粘度のオイルを使用したい場合は次のように混合してください：

SAE 10W = IP F.A. 5W 67% + IP F.A. 20W 33%（容積比） または
Agip FORK 5W 67% + Agip FORK 20W 33%（容積比）

SAE 15W = IP F.A. 5W 33% + IP F.A. 20W 67%（容積比）。
Agip FORK 5W 33% + Agip FORK 20W 67%（容積比）

ベアリング、その他の潤滑部（推奨品）： IP AUTOGREASE MP または Agip GREASE 30。
上記推奨品以外でも、使用温度範囲 -30 ℃～ +140 ℃、融点 150 ℃～ 230 ℃で、防錆、耐水、耐酸化性の優れているメーカー品ベアリング用グリースを使用しても差し支えありません。

バッテリー電極の保護： 中性グリースまたはワセリンを塗布してください。

⚠ 危険

ブレーキオイルは必ず新しいものを使用してください。

ブレーキオイル（推奨品）： IP F.F.、DOT 5 (DOT 4 でも可）または Agip BRAKE 5.1, DOT 5（DOT 4 でも可）。

⚠ 危険

不凍液と防食剤は亜硝酸塩を含まないもので、少なくとも-35 ℃までは機能するものを使用してください。

冷却液（推奨品）： IP ECOBLU -40 ℃ または Agip COOL。

aprilia

正規輸入元

I APRILIA s.p.a.	via G. Galilei, 1 - 30033 Noale (VE) Italy Tel. +39(0)41 5829111 - Fax +39(0)41 441054 - Servizio Clienti **aprilia** +39(0)41 5786269
F APRILIA WORLD SERVICE B.V.	Z.A. Central Parc - 255 BLD Robert Ballanger B.P. 77- 93421 Villepinte (F) - Tel. (0) 149634747 - Fax (0) 149638750
D MOTORRAD GmbH	Am Seestern 3 D-40547 Düsseldorf (D) Tel. (211) 59018-00 - Fax (211) 5901819
E APRILIA WORLD SERVICE B.V. ESPAÑA	Calle Alcorcon 19 - 28850 Torrejon de Ardoz - Madrid (E) Tel. (91) 6778083 - Fax (91) 6778577
NL APRILIA NEDERLAND	Nikkelstraat 1 - 4823 AE Breda (NL) Tel. (076) 5431640 - Fax (076) 5431649
UK APRILIA MOTO U.K. LTD.	Dunragit - Stranraer - Wigtownshire DG9 8PN - Scotland (UK) Tel. (01776) 888670 - Fax (01581) 400661
USA APRILIA USA Inc.	110 Londonderry Court, Suite 130 - Woodstock, GA 30188 (USA) Tel. 770 592 2261 - Fax 770 592 4878
A GINZINGER IMPORT GmbH & CO	Frankenburgerstrasse 19 - 4910 Ried im Innkreis (A) Tel. (7752) 88077 - Fax (7752) 70684
P MILFA IMPORTAÇÃO EXPORTAÇÃO LDA.	Avenida da Republica 692 - 4450-238 Matosinhos (P) Tel. 229382450 - Fax 229371305
SF TUONTI NAKKILA OY	P.o.B. 18 - 29250 Nakkila (SF) Puh. (02) 5352500 - Fax (02) 5372793
B RAD n.v. / s.a.	Industriegebied - Landegemstraat 4 - B - 9031 Drongen-Baarle Tel. (09) 2829410 - Fax (09) 2829433
GR MOBILITY S.A.	av. Messogion 191 - 11525 Athens (GR) Tel. (1) 6728705 - Fax (1) 6728727
GR MOBILITY A.E.	Λ. Μεσογειων 191 - 115-25 Αθηνα - Ελλαδα Τηλ. (1) 6728705 - Φαξ: (1) 6728727
CH MOHAG AG	Bernerstrasse Nord 202 - 8064 Zurich (CH) Tel. (1) 4348686 - Fax (1) 4348606
DK S T.M.P.	Islandsvej 3 - 7900 Nykøbing Mors (DK) Tel 97722233 - Fax 97722133 - E-mail: t_m_p@post4.tele.dk
J BOSCO MOTO CO. LTD.	22-25 Hakunoshima 2 Chome Minoo-Shi 562 Osaka 562-0012 OSAKA (J) - Tel. (0727) 253311 - Fax (0727) 253322
J 株式会社 ボスコ・モト	〒 562-0012 大阪府箕面市白島 2 丁目 22-25 電話：(0727)25-3311 - FAX ：(0727)25-3322
SGP IDEAL MOTOR SPORT PTE. LTD.	20 Mactaggart Road, #01-01 Khong Guan Industrial Building 368079 Singapore (SGP) Tel. 2820082 - Fax 2821012

正規輸入元

PL **MOTO SP. ZOO**	Ul. Trakt Lubelski 298 B - 04-667 Warszawa (PL) Tel. (22) 121183 - Fax (22) 121183
IL **AVIRAM & GOLDMAN IMPORT & MARKETING CO. LTD.**	21, Tushia Street - P.O. BOX 57266 - 61572 - Israel - Tel-Aviv (IL) Tel. (3) 5623951 - Fax (3) 5623950
ROK **BIKE KOREA CO., LTD.**	YeungSoo BLDG 302 #206-25, Ohjang-dong, Chung-ku, Seoul (ROK) Tel. (02) 2275-6130/1 - Fax. (02) 2275-6132
MAL **GENTALI MALAYSIA SDN BHD**	Unit B-1-8 Megan Phileo Promenade 189 Jalan Tun Razak - 50400 - Kuala Lumpur (MAL) Tel.(603) 21649800 Fax. (603) 21649700
RCH **HARLEY DAVIDSON SANTIAGO**	Isidora Goyenechea 2926 - Santiago (RCH) Tel. (2) 2321667 - Fax (2) 2321894
BM **EVE'S CYCLES LTD.**	114, Middle Road - PG BX Paget (BM) Tel. (441) 2366247 - Fax (441) 2366996
BR **APRILIA-BRASIL**	Av. Europa, 352 - Jardim Europa - 01449-001 Sao Paulo-SP (BR) Tel. (11) 30691220 Fax. (11) 30691221
AUS **JOHN SAMPLE GROUP PTY LTD.**	8, Sheridan Close - NSW 2214 - Milperra - Sydney (AUS) Tel. (2) 97722666 - Fax (2) 97742321
RSA **MOTOVELO S.A.**	Old Pretoria Road - Wynberg - Johannesburg (RSA) Tel. (11) 7868486 - Fax (11) 7868482
NZ **MOTORCYCLING DOWNUNDER LTD.**	35, Manchester Street - P.o.B. 22416 - Christchurch (NZ) Tel. (3) 3660129 - Fax (3) 3667580
HR **ING-KART, d.o.o.**	Miroslava Magdalenica, 1 - 10000 Zagreb (HR) Tel. (1) 3491107 / 3491091 - Fax (1) 3491555
SLO **AVTO TRIGLAV, d.o.o.**	Baragova 5 - 1113 Ljubljana (SLO) Tel. (61) 1883420 - Fax (61) 1883465
M **BIKES & COMPANY LTD.**	178, Marina Street, Pieta. MSD 08. (M) - Tel. (+356) 236 665 - Fax (+356) 239 368
TR **METRO MOTORLU ARACLAR TICARET A.S.**	Mihrabat Caddesi Akbeysokak Yetimoglu Is Merkezi - 81640 - Kavacik-Istambul (TR) - Tel. (0216) 4251565 - Fax (0216) 3312606
CZ **A. SPIRIT A.S.**	Cernokostelecka 116 - 10000 Praha 10 (CZ) Tel. (02) 703049 - Fax. (02) 703158
IRL **K.D.I. KAWASAKI DISTRIBUTOR IRL. LTD.**	17 Wood Street - Dublin 8 (IRL) Tel. (1) 4756046 Fax. (1) 4756461
N **MC TEMA A.S.**	Kjørbekkdalen 6,3735 Skien, Norway (N) Tel. 35506780 Fax. 35506781

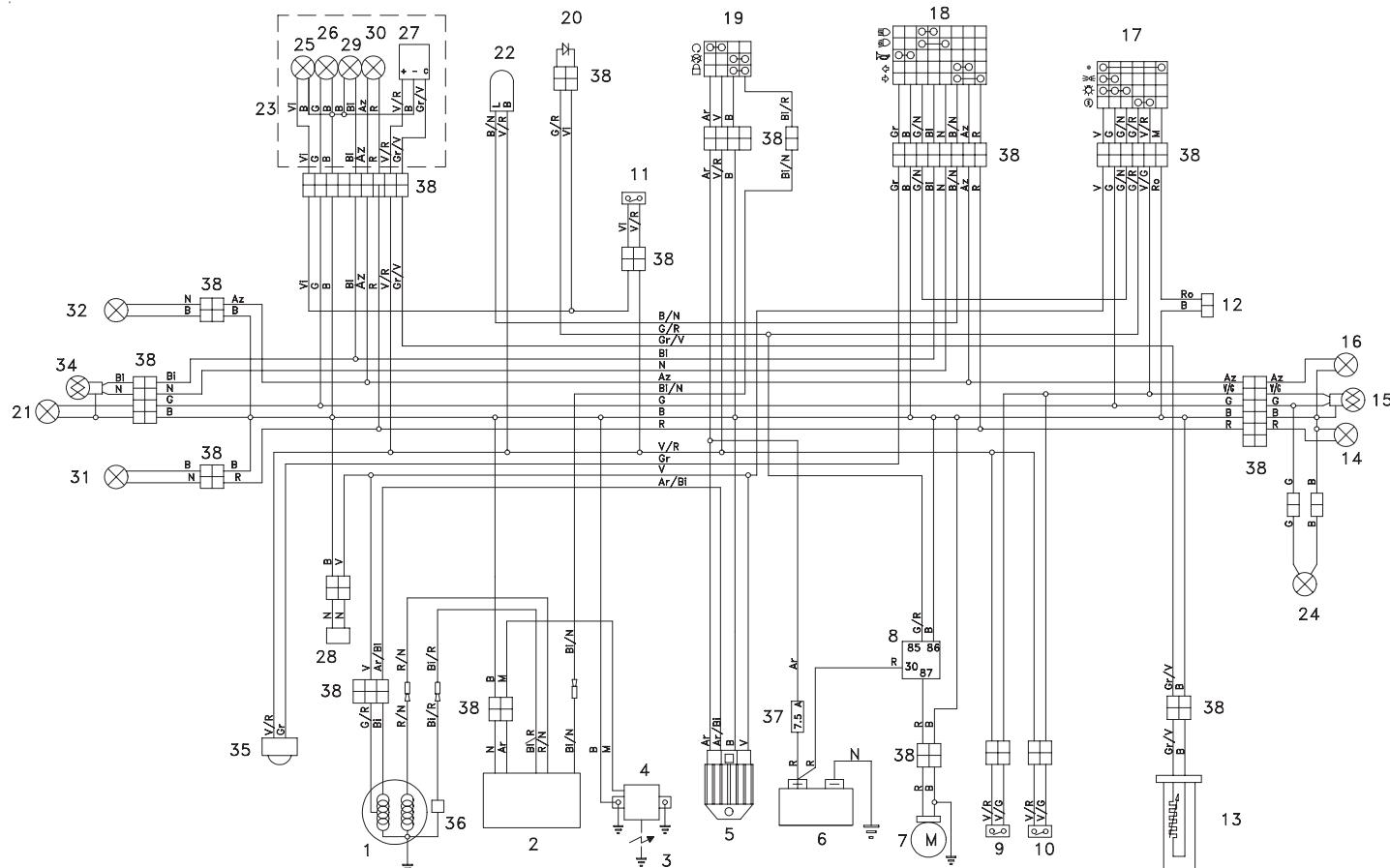
電装図 - Scarabeo 50

電装図索引 - Scarabeo 50

1) オルタネーター
2) CDI
3) スパークプラグ
4) イグニッションコイル
5) 電圧レギュレーター
6) バッテリー
7) スターターモーター
8) スターターリレー
9) フロントブレーキ・マイクロスイッチ
10) リアブレーキ・マイクロスイッチ
11) エンジンオイル警告灯・マイクロスイッチ
13) 燃料レベルセンサー
14) ウインカーライト・リア右側
15) リア･パーキング／ストップライト
16) ウインカーライト・リア左側
17) 右ハンドル上スイッチ類
18) 左ハンドル上スイッチ類
19) イグニッションスイッチ／ステアリングロック
20) コントロールダイオード
21) ー
22) ウインカーリレー
23) メーターパネル
24) ー
25) エンジンオイル警告灯
26) メーターパネルライト
27) 燃料計
29) ハイビーム・インジケーター
30) ウインカーライト・インジケーター
31) ウインカーライト・フロント右側
32) ウインカーライト・フロント左側
33) ー
34) ロー／ハイビームバルブ
35) 警告ホーン
36) ピックアップコイル
37) ヒューズ
38) マルチコネクター
39) ナンバープレートライト A CH J SGP IL

配線ケーブルの色分け

Ar オレンジ
Az 水色
B 青
Bi 白
G 黄
Gr グレー
M 茶
N 黒
R 赤
V 緑
Vi 紫
Ro ピンク

電装図 - Scarabeo 100

電装図索引 - Scarabeo 100

1) オルタネーター
2) CDI
3) スパークプラグ
4) イグニッションコイル
5) 電圧レギュレーター
6) バッテリー
7) スターターモーター
8) スターターリレー
9) フロントブレーキ・マイクロスイッチ
10) リアブレーキ・マイクロスイッチ
11) エンジンオイル警告灯・マイクロスイッチ
12) 抵抗器
13) 燃料レベルセンサー
14) ウインカーライト・リア右側
15) リア·パーキング／ストップライト
16) ウインカーライト・リア左側
17) 右ハンドル上スイッチ類
18) 左ハンドル上スイッチ類
19) イグニッションスイッチ／ステアリングロック
20) コントロールダイオード
21) フロント・パーキングライトバルブ
22) ウインカーリレー
23) メーターパネル
24) ナンバープレートライト
25) エンジンオイル警告灯
26) メーターパネルライト
27) 燃料計
28) 自動スターター
29) ハイビーム・インジケーター
30) ウインカーライト・インジケーター
31) ウインカーライト・フロント右側
32) ウインカーライト・フロント左側
33) ー
34) ロー／ハイビームバルブ
35) 警告ホーン
36) ピックアップコイル
37) ヒューズ
38) マルチコネクター

配線ケーブルの色分け

Ar オレンジ
Az 水色
B 青
Bi 白
G 黄
Gr グレー
M 茶
N 黒
R 赤
V 緑
Vi 紫
Ro ピンク

aprilia s.p.a. のモーターサイクルをお求めいただき有り難うございます。

ー環境保護のためオイル、燃料、汚染物質などは適切に処理してください。

ー不要なときはエンジンを止めるようにしてください。

ー 騒音の発生にご注意ください。

ー 自然を守りましょう。